

文 学 部

履 修 要 項

平 成 4 年 度

駒澤大學

学 年 曆

前 期

- 4月8日(水) 入学式
- 9日(木) } 新生オリエンテーション
- 11日(土) }
- 9日(木) } 在校生身分証明登録
- 20日(月) }
- 9日(木) } 在校生成績発表
- 10日(金) }
- 9日(木) } 体育実技II受講届(種目選択届)
- 10日(金) } 受付(学部2年次生)
- 10日(金) } 時事外国語受講届受付
(経済学部3年次生)
- 13日(月) }
- 18日(土) } 在校生成績質疑応答
- 13日(月) } 前期授業開始
- 20日(月) } 履修届受付(学部・短大)
(学部により受付日が異なる)
- 23日(木) }
- 20日(月) } 春季健康診断(卒業年次生対象)
- 24日(金) }
- 5月25日(月) } 卒業論文論題受付(仏教・文学部の4
年次生)(締切日は正午まで)
- 6月10日(水) }
- 7月14日(火) } 中間試験及び前期終了定期試験
(授業平常どおり)
- 20日(月) } 前期授業最終日
- 21日(火) } 夏季休業第1日(9月15日まで)
- 21日(火) } 体育実技II集中授業コース
(学部2年次生)
- 25日(土) }
- 24日(金) } 前期終了科目定期試験欠試届(追試
験申込)受付締切
- 9月7日(月) } 補講期間
- 11日(金) }

後 期

- 9月16日(水) 後期授業開始
- 17日(木) } 前期終了科目定期試験成績発表(質
疑応答)および再試験申込受付
- 18日(金) }
- 24日(木) } 外国語指定届受付(仏教・文<除英米
文>・法学部・短大国文・英文の1年
次生および昭和63年度以前入学の経
済学部の2年次生)
- 30日(水) }

- 24日(木) } 専攻コース指定届受付
- 25日(金) } (歴史・社会学科の1年次生)
- 25日(金) } 前期終了科目追・再試験
(授業平常どおり)
- 10月1日(木) }
- 5日(月) }
- 8日(木) } 秋季健康診断(卒業年次生以外対象)
- 15日(木) } 第110回開校記念日(全学休業)
- 28日(水) } 転部・転科試験願書受付
- 30日(金) }
- 11月16日(月) } 編・再入学願書受付
- 20日(金) }
- 20日(金) } 転部・転科試験
- 12月1日(火) } 卒業論文受付(仏教・文学部の4年
次生)(締切日は正午まで)
- 10日(木) }
- 20日(日) } 冬季休業第1日(1月7日まで)
- 20日(日) } 体育実技II集中授業コース
(学部2年次生)
- 24日(木) }
- 21日(月) } 編・再入学試験

平成5年

- 1月8日(金) 後期授業再開
- 14日(木) 後期授業最終日
- 16日(土) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 26日(火) }
- 27日(水) } 定期試験(一般・外国語・保健体育
科目)
- 2月3日(水) }
- 5日(金) } 卒業論文口頭試問(仏教・文学部の
4年次生)
- 5日(金) } 定期試験欠試届受付締切(学部4年
次生・短大生)
- 5日(金) } 定期試験欠試届(追試験申込)受付締
締(学部1~3年次生)
- 15日(月) } 体育実技IIシーズン・コース(スキ
ー)(学部2年次生)
- 19日(金) }
- 18日(木) } 成績発表(質疑応答)および追・再試
験申込受付(学部4年次生・短大生)
- 19日(金) }
- 23日(火) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)
および追試験(学部1~3年次生)
- 3月1日(月) }
- 19日(金) } 卒業生名簿発表
- 25日(木) } 卒業式

授 業 時 間

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

目 次

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 (1)
2. 授業科目の単位数 (1)
3. 授業科目の区分 (1)

II 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数 (2)
2. 卒業論文 (11)
3. 卒業及び学位記の授与 (11)

III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 (12)
2. 外国語科目の履修方法 (14)
3. 保健体育科目の履修方法 (17)
4. 基礎教育科目の履修方法 (17)
5. 専門教育科目の履修方法 (18)
6. 他学部科目の履修方法 (39)
7. 随意科目の履修方法 (41)
8. 再履修科目の履修方法 (41)
 - ※ 「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 (42)
 - ※ 授業科目のコード番号について (43)

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 (44)
2. 履修届記入上の注意 (45)
3. 履修届（時間割）の作成順序 (46)
 - 授業時間 (47)

V 試験および成績評価

1. 定期試験 (48)
2. 中間試験 (48)
3. 追・再試験 (48)
4. 受験心得 (49)
5. 成績評価・単位認定 (49)

6. 試験時間	(49)
7. 成績発表	(50)
VI 進級について	(51)
VII クラス制およびクラス主任	(52)
VIII 教職課程・資格講座	(52)
IX 事務取扱いについて	
1. 事務室の事務受付時間	(53)
2. 休 講	(53)
3. 掲示・連絡	(53)
4. 問い合わせ	(53)
X 学籍について	
1. 修業年限と在学年数	(54)
2. 休 学	(54)
3. 復 学	(54)
4. 退 学	(55)
5. 除 籍	(55)
6. 懲 戒	(55)
7. 編 入 学	(55)
8. 再 入 学	(55)
9. 転部・転科	(55)
10. 留 学	(56)
11. 学生氏名・保証人	(56)
12. 学生番号	(56)
XI 既修得単位の認定について	(57)
XII 届書・願書について	(58)
XIII 各種証明書取扱い窓口	(59)
試験実施規程（抜粋）	(60)
講義内容	(63)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

大学では単位制が採用されている。単位制とは、授業科目を履修して試験に合格することにより、各授業科目ごとに定められている単位を修得する制度である。また、学年制とは、単位制に基づく学修過程を第1学年から第4学年の段階を追って計画的に修学し、一定の単位を修得すれば上級学年に進級していく制度である。

本学では、授業科目の履修と単位の修得を体系的、かつ合理的に進められるように単位制と学年制を併用した教育システムを採用している。

2. 授業科目の単位数

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して大学設置基準を基に学則において定めている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

- | | | |
|-----------|--------------------------|-----------|
| 1. 一般教育科目 | (人文分野・社会分野・自然分野) …………… | 選択必修科目 |
| 2. 外国語科目 | (第1外国語・第2外国語) …………… | 選択必修科目 |
| 3. 保健体育科目 | (講義・実技) …………… | 必修科目 |
| 4. 基礎教育科目 | (専門教育科目の基礎となる科目) …………… | 必修科目 |
| 5. 専門教育科目 | (専門的知識を内容とする科目) …………… | 必修科目・選択科目 |
| 6. 他学部科目 | (履修可能な他学部公開設置科目) …………… | 選択科目 |
| 7. 随意科目 | (卒業に必要な単位に含まれない科目) …………… | 選択科目 |

※ 必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目

選択必修科目 …… 数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

選択科目 …… 自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

国文学科

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	36	72	
	選択		28		
	卒業論文(必修)		8		

英米文学科

A. 平成3年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	132以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	16	
	第2外国語	3	6		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	7	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和60年度～平成2年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	7	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

C. 昭和59年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	28	} 130以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	5	10	14	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		5	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	7	28	72	
	選 択		36		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

地理学科

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	32	} 128以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		2	8	8	
専 門 教 育 科 目	必 修	6	16	72	
	選 択		48		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

歴史学科

〔日本史専攻・東洋史専攻・西洋史専攻〕

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

[考古学専攻]

A. 昭和62年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	10	38	72	
	選択		26		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和60・61年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

社会学科
〔社会学コース〕

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒業論文(必修)		8		

〔社会福祉コース〕

A. 昭和63年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	13	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

B. 昭和60～62年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

[心理学コース]

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	32	} 132以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専 門 教 育 科 目	必 修	8	28	72	
	選 択		36		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

2. 卒業論文

卒業論文は、あらかじめ自己の研究目標に基づき、2年次以降その研究目標に関連する科目を履修し、4年次で提出しなければならない。

提出された卒業論文（1部）は審査の上、合格者には8単位を認定する。

イ. 論題提出について

- (1) 論題は所定の用紙「卒業論文論題届」に楷書で正確に記入の上、指導教授の承認印を受けて提出すること。
- (2) 提出された論題の変更は原則として認めない。

論題提出期間 5月25日（月）～6月10日（水）正午まで（教務部⑥番窓口）

ロ. 論文作成について

- (1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。
- (2) 論文は提出した論題により作成すること。
- (3) 論文は所定用紙（大学売店にて販売）を使用すること。
- (4) 論文は楷書でていねいに書くこと。
- (5) 論文の枚数・表紙・体裁等については別に指示する。

ハ. 論文提出について

- (1) 論文は論題受付印のある「卒業論文審査願」とともに提出すること。
- (2) 卒業論文審査願と論文表紙の論題は同一であること。
- (3) 論文は誤字・脱字・内容等について再点検し、提出すること。

論文提出期間 12月1日（火）～10日（木）正午まで（教務部⑥番・臨時窓口）

〔提出期限に遅れたとき、または授業料その他の学費を納入していない場合は受理しない。〕

ニ. 論文審査について

論文は指導教授によって審査・口頭試問を行い可否を判定する。

口頭試問日 2月5日（金）

3. 卒業及び学位記の授与

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には、卒業証書・学位記が授与され、次の学士の学位が与えられる。

	国文学科	……	学 士（国文学）
	英米文学科	……	学 士（英米文学）
文学部	地理学科	……	学 士（地理学）
	歴史学科	……	学 士（歴史学）
	社会学科	……	学 士（社会学）

Ⅲ 授業科目の履修方法

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が示されている科目は、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。但し、再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から各学科の定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 各学科とも「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2年次の必修科目とする。
- ハ. 各学科とも2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

一般教育科目の卒業所要単位数

	人文分野	社会分野	自然分野	計
国文学科	16 (4)	8 (2)	4 (1)	28 (7)
英米文学科	16 (4)	8 (2)	4 (1)	28 (7)
地理学科	12 (3)	12 (3)	8 (2)	32 (8)
歴史学科	16 (4)	12 (3)	8 (2)	36 (9)
社会科学	12 (3)	12 (3)	8 (2)	32 (8)

※ () 内の数字は科目数

一般教育科目の授業科目

分野 学科	人 文 分 野			社 会 分 野				自 然 分 野		
	授 業 科 目	単 位	修得単位	授 業 科 目	単 位	修得単位	備 考	授 業 科 目	単 位	修得単位
国 文 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて4科 目16単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修		自 然 科 学 概 論	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			心 理 学	4	
	哲 学	4		社 会 学	4			人 類 学	4	
	論 理 学	4		地 理 学	4					
	歴 史 学	4								
	芸 術 学(日本美術)	4								
芸 術 学(西洋美術)	4									
英 米 文 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて4科 目16単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修	教員 免許 状を 取得 しよ うと する もの は「 法学 憲法 」を 必修 とす る。	自 然 科 学 概 論	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			心 理 学	4	
	哲 学	4		社 会 学	4			人 類 学	4	
	論 理 学	4		地 理 学	4					
	歴 史 学	4								
	芸 術 学(日本美術)	4								
芸 術 学(西洋美術)	4									
地 理 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて3科 目12単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修		数 学	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			物 理 学	4	
	哲 学	4		社 会 学	4			化 学	4	
	文 学	4		文 化 人 類 学	4			生 物 学	4	
	芸 術 学(日本美術)	4								
	芸 術 学(西洋美術)	4								
歴 史 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて4科 目16単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修		自 然 科 学 概 論	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			地 学	4	
	哲 学	4		社 会 学	4			心 理 学	4	
	論 理 学	4		地 理 学	4			人 類 学	4	
	文 学	4								
	芸 術 学(日本美術)	4								
芸 術 学(西洋美術)	4									
社 会 学 科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて3科 目12単位 選択必修	法 学 憲 法 (日本国憲法) (2単位を含む)	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修		自 然 科 学 概 論	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		政 治 学	4			生 物 学	4	
	論 理 学	4		経 済 学	4			地 学	4	
	文 学	4		地 理 学	4			人 類 学	4	
	歴 史 学	4								
	芸 術 学(日本美術)	4								
芸 術 学(西洋美術)	4									

※「宗教学I」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6ヵ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2ヵ国語を履修することになる。その2ヵ国語を、1年次および2年次（英米文学科は3年次）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

第1外国語

年次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2(2)	4(4)	2	4	2	4	2	4
2年次	2	4	2(2)	4(4)	2	4	2	4	2	4
3年次	—	—	1(1)	2(2)	—	—	—	—	—	—
計	4	8	5(5)	10(10)	4	8	4	8	4	8

第2外国語

年次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2(2)	4(4)	2	4	2	4	2	4
2年次	—	—	1(-)	2(-)	—	—	—	—	—	—

※（ ）内数字は、英米文学科平成2年度以前入学生適用

1年次の履修

6ヵ国語のうち英語 I A・I Bの2科目と、入学手続の際に指定した外国語 I A・I Bの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	履 修 科 目 数
英 語 I A	2		I A・I Bの2科目を必修とする。ただし I Aは「英会話 I (定員40名)」または「英語LL I (定員30名)」に振り替えできる。(ただし英米文学科は「英会話 I」に振り替えできない。)なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。
英 語 I B	2		
英 会 話 I	2		
英 語 L L I	2	視聴覚教材を使用した語学教育	
ドイ ツ 語 I A	2	文 法	5ヵ国語のうちから入学手続の際指定した1ヵ国語 I A・I Bの2科目を必修とする。
ドイ ツ 語 I B	2	講 読	
フ ラ ン ス 語 I A	2	文 法	
フ ラ ン ス 語 I B	2	講 読	
中 国 語 I A	2		
中 国 語 I B	2		
ス ペ イ ン 語 I A	2		
ス ペ イ ン 語 I B	2		
ロ シ ア 語 I A	2		
ロ シ ア 語 I B	2		

※ 英語科目内容

英語 I A : 意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語 I B : 講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

※ LL……ランゲージ・ラボラトリー

※「英語 I B」の授業は月曜日に玉川校舎(道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照)で行う。

2年次の履修

1年次で履修した2ヵ国語のうち、いずれかを第1外国語としてⅡA・ⅡBの2科目4単位を必修とする。ただし、英米文学科は英語を第1外国語とする。また、英米文学科（平成3年度以降入学生）は、1年次履修の英語以外の外国語を第2外国語としⅡAの1科目2単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 Ⅱ A	2		中 国 語 Ⅱ A	2	
英 語 Ⅱ B	2		中 国 語 Ⅱ B	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ A	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ A	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ B	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ B	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ A	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ A	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ B	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ B	2	

※ 英語科目内容

英語ⅡA：意志表現と意志伝達の能力を発展させ、応用力を修得する。

英語ⅡB：講読を通し、はば広い教養を修得する。

3年次の履修（英米文学科のみ）

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	履 修 科 目 数
英 語 Ⅲ	2	講 読	1 科 目 必 修

※「英語Ⅲ」の授業は学生番号によりクラス編成されているので、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし、所定のクラスで履修不可能な場合は、担当教員に申し出ること。

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下3ケタ）により該当するクラスで履修すること。
- ロ. 1年次の9月24日（木）～30日（水）までの期間内に、現在履修の外国語（英語と他の1ヵ国語）の中から2年次に履修する外国語（第1外国語）を指定し、登録すること。（ただし、英米文学科は『英語』のため登録の必要はない。）なお、登録後の変更はできないので、十分考慮の上行うこと。また、登録をしない場合、外国語の履修ができなくなることもあるので、登録は必ず行うこと。
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める（P.41参照）。
- ホ. 2年次（英米文学科は3年次）までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は月曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰについての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 後期（冬季休業中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休業中）または後期（冬季休業中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

4. 基礎教育科目（必修）の履修方法

基礎教育科目とは専門教育の基礎となる授業科目で、各年次別履修順序は次表のとおりである。

年次	国 文 学 科		英 米 文 学 科		地 理 学 科		歴 史 学 科		社 会 学 科	
	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
1 年 次	基礎国語学	4	英文学概論または米文学概論	4	基礎自然地理学	4	基礎歴史学	4	社会学概論	4
	基礎国文学	4	基礎英語ⅠA	2	基礎人文地理学	4			社会福祉原論	4
	基礎中国文学	4	基礎英語ⅠB (会 話)	2					心理学概論	4
2 年 次			基礎英語ⅡA	2						
			基礎英語ⅡB (会 話)	2						

(注意) 「基礎自然地理学」は「基礎地学(自然地理学)」を、「基礎人文地理学」は「基礎地理学(人文地理学)」を、「社会福祉原論」は「社会福祉概論」を名称変更したものである。

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

専門教育科目の卒業所要単位数

	国文学科	英米文学科	地理学科	歴史学科			社会学科			
				日本史 東洋史 西洋史	考古学		社会学	社会福祉		心理学
					62年度以降 入学生適用	61年度以前 入学生適用		63年度以降 入学生適用	62年度以前 入学生適用	
必修科目	36(12)	28(7)	16(6)	32(8)	38(10)	32(8)	48(12)	48(13)	48(12)	28(8)
選択科目	28	36	48	32	26	32	16	16	16	36
卒業論文	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
計	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72

※ () 内の数字は科目数

国文学科

必修科目 (44単位)

1 年 次 必 修			4 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
国 文 学 講 読 I	2		国 文 学 研 究	4	
2 年 次 必 修			国 文 学 史 (上 代)	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修 { 3 年 次 で 必 修 ま た は 選 択 として 履 修 し た 科 目 以 外 を 履 修 す る こ と 。 }
国 語 学 概 論	4		国 文 学 史 (中 古)	4	
国 文 学 概 論	4		国 文 学 史 (中 世)	4	
国 文 学 講 読 II	2		国 文 学 史 (近 世)	4	
中 国 文 学 講 読	2		国 文 学 史 (近 代)	4	
3 年 次 必 修			国 語 学 演 習 II	2	1 科 目 2 単 位 選 択 必 修 { 卒 業 論 文 に 関 連 の 有 る 分 野 の 演 習 を 履 修 す る こ と 。 }
国 文 学 史 (上 代)	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修	国 文 学 演 習 II (上 代)	2	
国 文 学 史 (中 古)	4		国 文 学 演 習 II (中 古)	2	
国 文 学 史 (中 世)	4		国 文 学 演 習 II (中 世)	2	
国 文 学 史 (近 世)	4		国 文 学 演 習 II (近 世)	2	
国 文 学 史 (近 代)	4		国 文 学 演 習 II (近 代)	2	
国 語 学 研 究	4		卒 業 論 文	8	11 頁 参 照
国 文 学 講 読 III	2				
国 語 学 演 習 I	2	1 科 目 2 単 位 選 択 必 修 { 原 則 として 卒 業 論 文 に 関 連 の 有 る 分 野 の 演 習 を 履 修 す る こ と 。 }			
国 文 学 演 習 I (上 代)	2				
国 文 学 演 習 I (中 古)	2				
国 文 学 演 習 I (中 世)	2				
国 文 学 演 習 I (近 世)	2				
国 文 学 演 習 I (近 代)	2				

(注意) 3年次で「国文学演習Ⅰ」を履修した者は原則として4年次も「国文学演習Ⅱ」を、また3年次で「国語学演習Ⅰ」を履修した者は4年次でも「国語学演習Ⅱ」を履修すること。

選 択 科 目 (28単位以上) (2年次以降の履修科目)

	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
A 群	上 代 文 学	4		国 文 学 特 講 II	4	
	中 古 文 学	4		国 文 学 特 講 III	4	
	中 世 文 学	4		国 文 学 特 講 IV	4	
	近 世 文 学	4		国 文 学 史 (上 代)	4	} 選択科目として履修を希望する者は必修とした科目以外を3年次または4年次で履修すること。
	近 代 文 学	4		国 文 学 史 (中 古)	4	
	国 語 史	4	} 休 講 隔年開講	国 文 学 史 (中 世)	4	
	国 語 学 史	4		国 文 学 史 (近 世)	4	
	文 学 概 論	4	休 講	国 文 学 史 (近 代)	4	
	言 語 学 概 論	4		上 代 文 学 講 読	2	
	有 職 故 実	4	休 講	近 代 文 学 講 読	2	
	国 文 学 特 講 I	4				

	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
B 群	中 国 文 学	4		日 本 民 俗 学	4	
	中 国 文 学 演 習	4		現 代 美 術	4	
	中 国 文 学 概 論	4		書 道 実 習 I	4	
	東 洋 思 想 研 究	4		書 道 実 習 II	4	
	英 米 文 化	4		書 道 概 論 (書 論・鑑 賞)	4	
	仏 教 概 論	4		美 術 史 概 説	4	
	日 本 史 概 説 I	4	古 代・中 世	書 道 実 習 III	2	
	日 本 史 概 説 II	4	近 世・近 代	書 道 史	2	半 期 科 目
	日 本 文 化 史 I	4	} 休 講 隔年開講	編 集 実 務	2	半 期 科 目
日 本 文 化 史 II	4					

(注意) 「国文学特講」のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは、時代・履修順序等との関係はない。

「A群」より5科目以上, 「B群」より2科目以上選び履修されたい。

[廃講科目]

美 術 史

英米文学科

必修科目

A. 平成2年度以降入学生適用 (36単位)

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 音 声 学	4		米 文 学 演 習 II	4	
2 年 次 必 修			米 文 学 演 習 III	4	
英 語 学 概 論	4		英米語学演習 (言語学)	4	
英 作 文 I	4		英米語学演習 (音声学)	4	
3 年 次 必 修			英米語学演習 (英語史)	4	
英 語 史	4	1科目4単位選択必修	4 年 次 必 修		
英 文 学 演 習 I	4		卒 業 論 文	8	11頁参照
英 文 学 演 習 III	4		2 年 次 ・ 3 年 次 必 修		
英 文 学 演 習 V	4		英 文 学 史 I	4	} 2年次1科目 3年次1科目 計2科目8単位 選択必修
英 文 学 演 習 VI	4		英 文 学 史 II	4	
英 文 学 演 習 VII	4		米 文 学 史	4	
米 文 学 演 習 I	4				

B. 平成元年度以前入学生適用 (36単位)

2 年 次 必 修			4 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 学 概 論	4		卒 業 論 文	8	11頁参照
英 作 文 I	4		2 年 次 ・ 3 年 次 必 修		
3 年 次 必 修			英 文 学 史 I	4	} 2年次1科目 3年次1科目 計2科目8単位 選択必修
音 声 学	4		英 文 学 史 II	4	
英 語 史	4		米 文 学 史	4	
シ ョ イ ク ス ビ ア	4				

選 択 科 目 (36単位以上)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
英文学特講Ⅰ	4	2・3・4		米文学演習Ⅵ	4	2・3・4	
英文学特講Ⅱ	4	2・3・4		英米演劇演習	4	2・3・4	
英文学特講Ⅲ	4	2・3・4		時事英語	4	2・3・4	
英文学特講Ⅳ	4	2・3・4		商業英語	4	2・3・4	
英文学特講Ⅴ	4	2・3・4		ラテン語特講	4	2・3・4	
英文学特講Ⅵ	4	2・3・4		英米文化	4	2・3・4	
米文学特講Ⅰ	4	2・3・4		日本文化史Ⅰ	4	2・3・4	休講 } 隔年開講
米文学特講Ⅱ	4	2・3・4		日本文化史Ⅱ	4	2・3・4	
米文学特講Ⅲ	4	2・3・4		現代美術	4	2・3・4	
米文学特講Ⅳ	4	2・3・4		英文学演習Ⅰ	4	3・4	}
米文学特講Ⅴ	4	2・3・4		英文学演習Ⅲ	4	3・4	
英米演劇特講	4	2・3・4		英文学演習Ⅴ	4	3・4	
英米語学演習 (英文法)	4	3・4		英文学演習Ⅵ	4	3・4	
英米語学演習 (英作文Ⅱ)	4	3・4		英文学演習Ⅶ	4	3・4	※イ、ロ
英米語学演習 (英会話)	2	3・4		米文学演習Ⅰ	4	3・4	
英文学演習Ⅱ	4	2・3・4		米文学演習Ⅱ	4	3・4	
英文学演習Ⅳ	4	2・3・4		米文学演習Ⅲ	4	3・4	
英文学演習Ⅶ	4	2・3・4		英米語学演習 (言語学)	4	3・4	旧「英米語学演習(英語学)」
米文学演習Ⅳ	4	2・3・4		英米語学演習 (音声学)	4	3・4	
米文学演習Ⅴ	4	2・3・4		英米語学演習 (英語史)	4	3・4	

※イ、平成2年度以降入学生は、3年次必修科目として単位取得した科目を4年次でも選択科目として再度履修できる。

※ロ、平成元年度以前入学生は、3年次または4年次に選択科目として履修できる。

◇ 演習科目の履修方法

I) 履修科目数

イ. 2・3・4年次に演習1科目(4単位)ずつ、あわせて3科目(12単位)を極力履修すること。

ロ. 2年次で履修できる演習科目は1科目とする。

ハ. 3年次で履修できる演習科目は3科目以内とする。

※ 平成2年度以降入学生は、1科目必修のこと。

ニ. 4年次で履修できる演習科目は2科目以内とする。

※ 平成2年度以降入学生は、3年次必修科目として単位取得した科目を4年次でも選択科目として再度履修できる。

II) 履修上の注意

イ. 各種演習科目とも先着50名で締め切る。なお、教務部に『単位履修届』を提出する前に、受講希望の科目担当の先生に本人が直接届け出て『単位履修届』に捺印を受けること。

ロ. 担当の先生に届け出る日・時・場所については、教務部の掲示板に掲示するので注意すること。

地理学科

必修科目(24単位)

2年次必修		3年次必修		4年次必修	
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
自然地理学実習 (地図学実習を含む)	2	地理学総論	4	地理学演習	4
人文地理学実習	2	野外巡検Ⅱ	2	卒業論文 (11頁参照)	8
野外巡検Ⅰ	2				

※「地理学総論」は「地理学研究法および地理学史」の名称変更。

(注意)「地理学演習」および「野外巡検(Ⅰ・Ⅱ)」の履修にあたっては、地理学科研究室の指示に必ず従うこと。詳細は適時教務部および地理学教室の掲示板に掲示するので注意すること。

選 択 科 目 (48単位以上)

2 年 次 選 択			3 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
地 形 学 I	4		歴 史 地 理 学	4	
集 落 地 理 学	4		人 口 地 理 学	4	
郷 土 地 理 学	4		経 済 地 理 学 II	4	
経 済 地 理 学 I	4		原 書 講 読	4	
交 通 地 理 学	4		日 本 地 誌 II	4	
地 図 学	4		外 国 地 誌 II	4	
日 本 地 誌 I	4		地 理 学 特 講 I	2	半期科目
外 国 地 誌 I	4		3 ・ 4 年 次 選 択		
3 年 次 選 択			文 化 地 理 学	4	
地 質 学	4		都 市 地 理 学	4	
地 球 物 理 学	4	休 講	計 量 地 理 学	4	
地 形 学 II	4		空 中 写 真 判 読 法 及 び 測 量 学	4	
気 候 学	4		日 本 地 誌 III	4	
土 壌 地 理 学	4		外 国 地 誌 III	4	休 講
海 洋 学 及 び 陸 水 学	4		応 用 地 理 学 I	4	
環 境 地 理 学	4		応 用 地 理 学 II	4	

(注意) 上記のように学年次別に選択科目を分けているが、内容からみて上級学年が下級学年の科目を履修するのはさしつかえない。しかし、下級学年が上級学年の科目を履修することはできない。

◎ 測量士補資格について

地理学科の学生で、「地図学」・「空中写真判読法及び測量学」・「自然地理学実習」・「地理学演習」の単位を修得し、さらに「地形学 (I・II)」・「地質学」・「地球物理学」・「応用地理学 (I・II)」のうち2科目の単位を修得した者で、測量士補の資格を希望する者は、卒業後、大学が国土地理院長に測量士補の資格が得られるよう推薦する。

また、さらに卒業後1ヵ年以上測量に関する実務を経験し、その資格を証する書類を申請登録すれば、測量士の資格が得られる。

歴史学科

歴史学科学生が希望する各専攻については、1年次の9月24日（木）～25日（金）に、「歴史学科専攻指定届」を教務部に提出すること。

必修科目

(1) 日本史専攻（40単位）

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ（日本史）	4	演習Ⅰ（考古学）に振り替わる。
日本史学史	4		4年次必修		
日本史概説Ⅰ（古代・中世）	4		演習Ⅱ（日本史）	4	
日本史概説Ⅱ（近世・近代）	4		卒業論文	8	11頁参照
東洋史概説Ⅰ（古代・中世）	4	2科目8単位 選択必修			
東洋史概説Ⅱ（近世・近代）	4				
西洋史概説Ⅰ（古代・中世）	4				
西洋史概説Ⅱ（近世・近代）	4				
考古学概説Ⅰ（日本）	4				
考古学概説Ⅱ（外国）	4				

(2) 東洋史専攻（40単位）

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ（東洋史）	4	演習Ⅰ（考古学）に振り替わる。
東洋史学史	4		4年次必修		
東洋史概説Ⅰ（古代・中世）	4		演習Ⅱ（東洋史）	4	
東洋史概説Ⅱ（近世・近代）	4		卒業論文	8	11頁参照
日本史概説Ⅰ（古代・中世）	4	2科目8単位 選択必修			
日本史概説Ⅱ（近世・近代）	4				
西洋史概説Ⅰ（古代・中世）	4				
西洋史概説Ⅱ（近世・近代）	4				
考古学概説Ⅰ（日本）	4				
考古学概説Ⅱ（外国）	4				

(3) 西洋史専攻 (40単位)

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(西洋史)	4	
西洋史学史	4		4年次必修		
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(西洋史)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	11頁参照
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	2科目8単位 選択必修			
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
考古学概説Ⅰ(日本)	4				
考古学概説Ⅱ(外国)	4				

(4) 考古学専攻

A. 昭和62年度以降入学生適用 (46単位)

2・3・4年次必修			2・3・4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		考古学実習(写真)	4	1科目4単位 選択必修
考古学史	4		考古学実習(測量)	4	
考古学概説Ⅰ(日本)	4		考古学実習(石器)	4	
考古学概説Ⅱ(外国)	4		考古学実習(土器)	4	
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	2科目8単位 選択必修	3年次必修		
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4		考古発掘実習	2	
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅰ(考古学)	4	他の専攻の演習Ⅰを振り替える。
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		4年次必修		
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(考古学)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	11頁参照

B. 昭和61年度以前入学生適用 (40単位)

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(考古学)	4	他の専攻の演習Ⅰを振り替える。
考古学史	4		4年次必修		
考古学概説Ⅰ(日本)	4		演習Ⅱ(考古学)	4	
考古学概説Ⅱ(外国)	4		卒業論文	8	11頁参照
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	2科目8単位 選択必修			
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				

選 択 科 目 (2年次以降の履修科目)

日本史専攻・東洋史専攻・西洋史専攻 (32単位以上)

考古学専攻 (昭和62年度以降入学生適用, 26単位以上)

(昭和61年度以前入学生適用, 32単位以上)

授 業 科 目	単位	備 考	授 業 科 目	単位	備 考
日 本 史 各 説 I	4	休 講	東洋史特講 I (古 代)	4	
日 本 史 各 説 II	4		東洋史特講 II (古 代)	4	休 講
日 本 史 各 説 III	4		東洋史特講 III (古 代)	4	休 講
日 本 史 各 説 IV	4		東洋史特講 IV (中 世)	4	
東洋史各説 I (古 代)	4		東洋史特講 V (中 世)	4	休 講
東洋史各説 II (古 代)	4	休 講	東洋史特講 VI (中 世)	4	休 講
東洋史各説 III (中 世)	4		東洋史特講 VII (近 世)	4	休 講
東洋史各説 IV (中 世)	4	休 講	東洋史特講 VIII (近 世)	4	休 講
東洋史各説 V (近 世)	4	休 講	東洋史特講 IX (近 世)	4	
東洋史各説 VI (近 世)	4		東洋史特講 X (近・現代)	4	
東洋史各説 VII (近・現代)	4		東洋史特講 XI (近・現代)	4	休 講
東洋史各説 VIII (周 辺 史)	4		東洋史特講 XII (近・現代)	4	
東洋史各説 IX (周 辺 史)	4		東洋史特講 XIII (周 辺 史)	4	
東洋史各説 X (周 辺 史)	4		東洋史特講 XIV (周 辺 史)	4	
西 洋 史 各 説 I	4	休 講	東洋史特講 XV (周 辺 史)	4	休 講
西 洋 史 各 説 II	4		西 洋 史 特 講 I	4	
西 洋 史 各 説 III	4	休 講	西 洋 史 特 講 II	4	
西 洋 史 各 説 IV	4		西 洋 史 特 講 III	4	休 講
考 古 学 各 説 I	4		西 洋 史 特 講 IV	4	休 講
考 古 学 各 説 II	4		西 洋 史 特 講 V	4	
考 古 学 各 説 III	4	休 講	西 洋 各 国 史 I	4	
考 古 学 各 説 IV	4	休 講	西 洋 各 国 史 II	4	
日本史特講 I (古 代)	4		西 洋 各 国 史 III	4	休 講
日本史特講 II (中 世)	4		西 洋 各 国 史 IV	4	
日本史特講 III (中 世)	4		考 古 学 特 講 I	4	
日本史特講 IV (近 世)	4		考 古 学 特 講 II	4	休 講
日本史特講 V (近 世)	4		考 古 学 特 講 III	4	} 隔年開講
日本史特講 VI (近 代)	4		考 古 学 特 講 IV	4	
日本史特講 VII (近 代)	4		古 文 書 学	4	

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
古 文 書 講 読 I	4		哲 学 史	4	
古 文 書 講 読 II	4		歴 史 哲 学	4	
日 本 仏 教 史 I	4	休 講	仏 教 美 術	4	
日 本 仏 教 史 II	4	休 講	西 域 美 術 史	4	
日 本 仏 教 史 III	4		美 術 史 概 説	4	
日 本 文 化 史 I	4	休 講 } 隔年開講	ラ テ ン 語 特 講	4	※イ ※ロ 選択科目として履修を希望する科目は、必修科目として履修した科目以外の科目を履修すること。
日 本 文 化 史 II	4		演 習 I	4	
西 洋 文 化 史 I	4		演 習 II	4	
西 洋 文 化 史 II	4		日本史概説I (古代・中世)	4	
西 洋 文 化 史 III	4	休 講	日本史概説II (近世・近代)	4	
考 古 学 実 習 (写 真)	4	選択科目として履修を希望する科目は、必修科目として履修した科目以外の科目を履修すること。 ※イ	東洋史概説I (古代・中世)	4	
考 古 学 実 習 (測 量)	4		東洋史概説II (近世・近代)	4	
考 古 学 実 習 (石 器)	4		西洋史概説I (古代・中世)	4	
考 古 学 実 習 (土 器)	4		西洋史概説II (近世・近代)	4	
考 古 発 掘 実 習	2		考古学概説I (日 本)	4	
有 職 故 実	4	休 講	考古学概説II (外 国)	4	
中 国 歴 史 文 学	4		日 本 史 学 史	4	
日 本 民 俗 学	4		東 洋 史 学 史	4	
歴 史 地 理 学	4		西 洋 史 学 史	4	
人 文 地 理 学 概 説	4		考 古 学 史	4	
地 誌 学	4				

※イ. 3年次の履修科目

※ロ. 4年次の履修科目

(注意) 歴史学科の学生は、2年次の外国語科目履修指定届(1年次の9月24日~30日提出)を提出する際、次のように指定すること。

- (1) 日本史専攻希望者(日本考古学を含む)
1年次に履修中の外国語の中、何れかを第1外国語として指定。
- (2) 東洋史専攻希望者
中国語または英語を、第1外国語として指定。
- (3) 西洋史専攻希望者
ドイツ語またはフランス語を、第1外国語として指定。
- (4) 東洋考古学専攻希望者
中国語または英語を、第1外国語として指定。

社会学科（1年次の9月24日（木）～25日（金）に専攻コース決定のための届け出を行うこと。）

(1) 社会学コース

必修科目 (56単位)

2年次必修			2・3・4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会統計学	4		マスコミュニケーション	4	5科目20単位 選択必修
社会学史	4		産業社会学	4	
社会学方法論	4		都市社会学	4	
3年次必修			農村社会学	4	
社会調査	4		家族社会学	4	
社会調査実習	4		法社会学	4	
演習 I	4	社会	宗教社会学	4	
4年次必修			社会心理学	4	
演習 II	4	社会	社会病理学	4	
卒業論文	8	11頁参照	外書講読 I	4	
			外書講読 II	4	
			社会学特講 I	4	
			社会学特講 II	4	
			社会学特講 III	4	

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選 択 科 目 (16単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
マスコミュニケーション	4	(注)	図 書 館 学 II	4	
産 業 社 会 学	4		社会福祉援助技術総論	4	
都 市 社 会 学	4		法 学 (福 祉)	4	
農 村 社 会 学	4		社 会 保 障 論	4	
家 族 社 会 学	4		老 人 福 祉 論	4	
法 社 会 学	4		児 童 福 祉 論	4	
宗 教 社 会 学	4		地 域 福 祉 論	4	
社 会 心 理 学	4		基 礎 心 理 学 I	4	
社 会 病 理 学	4		産 業 心 理 学	4	
外 書 講 読 I	4		環 境 心 理 学	4	旧「グループ・ダイナミクス」
外 書 講 読 II	4		民 法	4	
社 会 学 特 講 I	4		労 働 法	4	
社 会 学 特 講 II	4		行 政 法	4	
社 会 学 特 講 III	4		経 済 原 論	4	
社 会 学 原 論	4		社 会 政 策	4	
図 書 館 学 I	4				

(注意) 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。

[名称変更科目]

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称
環 境 心 理 学	— グループ・ダイナミクス

(2) 社会福祉コース

必修科目

A. 昭和63年度以降入学生適用 (56単位)

2 年 次 必 修			2 ・ 3 ・ 4 年 次 必 修				
授 業 科 目	単 位	備 考	部 門	授 業 科 目	単 位	備 考	
社会福祉調査論	2		方法・ 援助技術部門	社会福祉援助技術各論ⅠA	4	※ ※ ※ 3科目12単位 選択必修	
社会福祉援助技術総論	4	※		社会福祉援助技術各論ⅠB	4		※
社会福祉援助技術各論ⅡB	4	※		社会福祉援助技術各論ⅡA	4		※
法 学 (福 祉)	4	*		リハビリテーション論	4		
				社会福祉計画論	4		
				社会福祉運営論	4		
3 年 次 必 修			分 野 部 門	家 族 福 祉 論	4	3科目12単位 選択必修	
演 習 Ⅰ	4	社会福祉		児 童 福 祉 論	4		*
社会福祉調査実習	2			障 害 者 福 祉 論	4		*
4 年 次 必 修				老 人 福 祉 論	4		*
演 習 Ⅱ	4	社会福祉		地 域 福 祉 論	4		*
卒 業 論 文	8	11頁参照		公 的 扶 助 論	4		*
				医 療 福 祉 論	4		
				婦 人 福 祉 論	4		
			保 健 福 祉 論	4			

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

【註】イ. 本カリキュラムは『社会福祉士国家試験(社会福祉士及び介護福祉士法)』と日本社会事業学校連盟専門職養成基準に基づいている。

ロ. ※印および*印は国家試験の受験資格取得に必要な指定科目であり、特に*印は指定科目のうちの基礎科目である。

なお、「社会福祉原論(1年次の基礎教育科目)」も指定・基礎科目である。

ハ. 3年次選択科目の「社会福祉援助技術現場実習Ⅱ」および「社会福祉援助技術演習(Ⅰ・Ⅱ)」は、教員1人あたりの担当学生数が20名以下と規定されている。

従って、履修希望者は予め担当教員の面接試験を受け、許可された者のみ履修することができる。

ニ. 「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」(2年次選択科目)および「社会福祉援助技術現場実習Ⅱ」(3年次選択科目)の履修時には、本学が定める実習費を別に納入しなければならない。

なお、社会福祉士国家試験受験資格の取得を希望する学生は、「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」および「社会福祉援助技術現場実習Ⅱ」の両方を卒業時まで単位修得していなければならない。また、両科目の単位を修得した者については、成績証明書の上では両科目を合わせて「社会福祉援助技術現場実習」(6単位)と表記される。

選択科目

A. 昭和63年度以降入学生適用（16単位以上）

2 年 次 選 択			2 ・ 3 ・ 4 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社会福祉援助技術現場実習Ⅰ	2	※旧「社会福祉援助技術実習」	社 会 保 障 論	4	*
			社 会 福 祉 発 達 史	4	
3 年 次 選 択			社 会 福 祉 外 書 講 読	4	
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	4	※旧「社会福祉援助技術現場実習」	海 外 社 会 福 祉 論	4	
社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	※	社 会 学 (福 祉)	4	*
社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	※	心 理 学 (福 祉)	4	*
			医 学 一 般	4	※
2 ・ 3 ・ 4 年 次 選 択			介 護 概 論	4	※
社会福祉援助技術各論ⅠA	4	※	障 害 児 教 育 原 論	4	
社会福祉援助技術各論ⅠB	4	※	障 害 児 教 育 方 法 論	4	休 講
社会福祉援助技術各論ⅡA	4	※	障 害 児 病 理	4	休 講
リハビリテーション論	4		障 害 児 心 理	4	休 講
社 会 福 祉 計 画 論	4		家 族 社 会 学	4	
社 会 福 祉 運 営 論	4		法 社 会 学	4	
家 族 福 祉 論	4		産 業 社 会 学	4	
児 童 福 祉 論	4	* (注)	社 会 病 理 学	4	
障 害 者 福 祉 論	4	*	心 理 検 査 法 Ⅰ	4	旧「心理検査法」
老 人 福 祉 論	4	*	環 境 心 理 学	4	旧「グループ・ダイナミクス」
地 域 福 祉 論	4	*	カ ウ ン セ リ ン グ	4	
公 的 扶 助 論	4	*	精 神 医 学	4	
医 療 福 祉 論	4		図 書 館 学 Ⅰ	4	
婦 人 福 祉 論	4		図 書 館 学 Ⅱ	4	
保 健 福 祉 論	4		社 会 政 策	4	
社会福祉学特講Ⅰ	4		行 政 法	4	
社会福祉学特講Ⅱ	4		労 働 法	4	
社会福祉学特講Ⅲ	4		民 法	4	
社会福祉学特講Ⅳ	4		経 済 原 論	4	
社会福祉学特講Ⅴ	4				

(注意) 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。

「社会福祉学特講Ⅰ～Ⅴ」の内容については、講義内容欄を参照のこと。

〔名称変更科目〕

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称
心 理 検 査 法 I	心 理 検 査 法
環 境 心 理 学	グ ル ー プ ・ ダイ ナ ミ ッ ク ス
社会福祉援助技術現場実習 I	社会福祉援助技術実習
社会福祉援助技術現場実習 II	社会福祉援助技術現場実習

必修科目

B. 昭和62年度以前入学生適用 (56単位)

2年次必修			2・3・4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会保障論	4	*	公的扶助論	4	*
法学(福祉)	4	*	障害者福祉論	4	*
社会福祉援助技術総論	4	※	老人福祉論	4	*
			児童福祉論	4	*
3年次必修			婦人福祉論	4	A群 (3科目12単位選択必修)
社会福祉実習Ⅰ	4	※	医療福祉論	4	
演習Ⅰ	4	社会福祉	地域福祉論	4	
			社会福祉発達史	4	B群 (3科目12単位選択必修)
4年次必修			社会福祉運営論	4	
演習Ⅱ	4	社会福祉	社会福祉外書講読	4	
卒業論文	8	11頁参照	リハビリテーション論	4	
			社会福祉援助技術各論ⅡB	4	

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

【註】イ. 本カリキュラムは昭和63年度から実施された『社会福祉士国家試験(社会福祉士及び介護福祉士法)』と日本社会事業学校連盟専門職養成基準に基づき改定した。

ロ. 社会福祉士国家試験の受験資格取得希望学生は、指定科目をすべて履修できるよう特別の配慮がしてある。

ハ. ※印および*印は国家試験の受験資格取得に必要な指定科目であり、特に*印は指定科目のうちの基礎科目である。

なお、「社会福祉原論(1年次の基礎教育科目)」も指定・基礎科目である。

ニ. 選択科目の「社会福祉援助技術演習(Ⅰ・Ⅱ)」および「社会福祉援助技術現場実習Ⅱ」は、教員1人あたりの担当学生数が20名以下と規定されている。

従って、履修希望者は予め担当教員の面接試験を受け、許可された者のみ履修することができる。

[名称変更科目]

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新名称	旧名称
心理検査法Ⅰ	心理検査法
環境心理学	グループ・ダイナミクス
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	社会福祉援助技術現場実習

選択科目

B. 昭和62年度以前入学生適用（16単位以上）

2・3・4年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
公的扶助論	4	* (注)	社会学(福祉)	4	*
障害者福祉論	4		心理学(福祉)	4	*
老人福祉論	4		医学一般	4	※
児童福祉論	4		介護概論	4	※
婦人福祉論	4		心理検査法Ⅰ	4	旧「心理検査法」
医療福祉論	4		環境心理学	4	旧「グループ・ダイナミクス」
地域福祉論	4		カウンセリング	4	
社会福祉発達史	4		精神医学	4	
社会福祉運営論	4		産業社会学	4	
社会福祉外書講読	4		家族社会学	4	
リハビリテーション論	4		法社会学	4	
社会福祉援助技術各論ⅡB	4		※	社会病理学	4
社会福祉援助技術各論ⅠA	4	※	障害児教育原論	4	
社会福祉援助技術各論ⅠB	4	※	障害児教育方法論	4	休講
社会福祉援助技術各論ⅡA	4	※	障害児病理	4	休講
海外社会福祉論	4		障害児心理	4	休講
社会福祉学特講Ⅰ	4		図書館学Ⅰ	4	
社会福祉学特講Ⅱ	4		図書館学Ⅱ	4	
社会福祉学特講Ⅲ	4		社会政策	4	
社会福祉学特講Ⅳ	4		行政法	4	
社会福祉学特講Ⅴ	4		労働法	4	
社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	※	民法	4	
社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	※	経済原論	4	
社会福祉計画論	4				
社会福祉調査論	2		3・4年次選択		
社会福祉調査実習	2		社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	4	※旧「社会福祉援助技術現場実習」
家族福祉論	4				
保健福祉論	4				

(注意) 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。
「社会福祉学特講Ⅰ～Ⅴ」の内容については、講義内容欄を参照のこと。

(3) 心理学コース
必修科目 (36単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
心 理 学 史	4		心理学研究Ⅲ (実習)	2	1 科 目 2 単 位 選 択 必 修
心 理 統 計 学	4		心理学研究Ⅳ (実習)	2	
心理学実験 (実習)	2		心理学研究Ⅴ (実習)	2	
基 礎 心 理 学 Ⅰ	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修	心理学研究Ⅵ (実習)	2	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修 { 2 年 次 で 必 修 ま た は 選 択 として 履 修 した 科 目 } { 以 外 を 履 修 す る こ と 。 }
基 礎 心 理 学 Ⅱ	4		基 礎 心 理 学 Ⅰ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅲ	4		基 礎 心 理 学 Ⅱ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅳ	4		基 礎 心 理 学 Ⅲ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅴ	4		基 礎 心 理 学 Ⅳ	4	
3 年 次 必 修			基 礎 心 理 学 Ⅴ	4	
心 理 学 研 究 法	4		4 年 次 必 修		
心理学研究Ⅰ (実習)	2		演 習	4	
心理学研究Ⅱ (実習)	2		卒 業 論 文	8	11頁参照

(注意) 「基礎心理学Ⅰ～Ⅴ」の内容については、講義内容欄を参照のこと。

選 択 科 目 (36単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
基礎心理学Ⅰ	4	必修として履修した科目以外を履修すること。	心理学特講Ⅰ	4	
基礎心理学Ⅱ	4		心理学特講Ⅱ	4	
基礎心理学Ⅲ	4		心理学特講Ⅲ	4	
基礎心理学Ⅳ	4		精神医学	4	
基礎心理学Ⅴ	4		情報処理Ⅰ	4	旧「心身医学」
心理学研究Ⅰ(実習)	2	3・4年次選択 3年次で必修とした科目以外を履修すること。	情報処理Ⅱ	4	旧「精神病理学」
心理学研究Ⅱ(実習)	2		宗教社会学	4	
心理学研究Ⅲ(実習)	2		産業社会学	4	
心理学研究Ⅳ(実習)	2		家族社会学	4	
心理学研究Ⅴ(実習)	2		社会病理学	4	
心理学研究Ⅵ(実習)	2		マスコミュニケーション	4	
生理心理学	4		社会福祉援助技術総論	4	
児童心理学	4		障害者福祉論	4	
産業心理学	4		老人福祉論	4	
環境心理学	4	旧「グループ・ダイナミクス」	児童福祉論	4	
カウンセリング	4		民法	4	
心理検査法Ⅰ	4	旧「心理検査法」	経済原論	4	
心理検査法Ⅱ	4		行政法	4	
禅心理学	4		労働法	4	

(注意) 2年次における「基礎心理学Ⅰ～Ⅴ」の選択科目としての履修は、3科目以内とする。

[名称変更科目]

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称
環境心理学	グループ・ダイナミクス
情報処理Ⅰ	心身医学
情報処理Ⅱ	精神病理学
心理検査法Ⅰ	心理検査法

6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科、もしくは他学部または短期大学の授業科目の履修を希望する学生は、次の要領で履修することができる。

なお、履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

イ. 履修科目

他学部・他学科または短期大学に開設されている授業科目のうち、他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。（他学部履修科目一覧表P.40参照）

ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし、授業科目開設学科の定める年次とする。

ハ. 履修科目数

履修できる科目数は、卒業までに3科目12単位以内とする。

なお、その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

ニ. 履修方法

- (1) 「履修要項」の講義内容を参考に、『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し、『他学部履修願』に必要事項を記入の上、必ず最初の授業に出席し授業科目担当教員の受講許可を受ける。

なお、『他学部履修科目授業時間表』および『他学部履修願』用紙は、教務部窓口で配布する。

- (2) 『単位履修届』に履修科目（他学部履修科目を含む）その他必要事項を記入し、『他学部履修許可書』を添えて、所定の期日に提出すること。

ホ. 履修登録上の注意

- (1) 所属学科の開設科目は、他学部科目として履修登録できない。
- (2) 他学部科目は、『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード（005…）で登録すること。
- (3) 同一名称（開設学科が異なる）の授業科目は、1科目のみ履修することができる。

ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は、改めて前項の手続きを経なければならない。

なお、再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』（P.41）を参照のこと。

ト. 単位認定

修得した単位は、所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し、卒業所要単位に算入することができる。

他学部履修科目一覧表

開 設 科 学 科	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	開 設 科 学 科	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	
禅学 科	禅学特講Ⅰ	4	3・4		経済 学 科	ソビエト経済論	4	3・4		
	禅学特講Ⅱ	4	3・4			社会政策	4	3・4	社会学科除く	
	禅学特講Ⅲ	4	3・4			国民所得論	4	3・4		
	禅学特講Ⅳ	4	3・4			中国経済論	4	3・4		
	禅学思想史	4	3・4			アジア経済論	4	3・4		
仏教 学 科	哲学史	4	3・4	歴史学科除く		日本経済史	4	3・4		
	インド仏教史	4	3・4			中小企業論	4	3・4		
	中国仏教史	4	3・4			教育経済論	4	3・4	地理学科除く	
	日本仏教史	4	3・4			アメリカ経済論	4	3・4		
	日用経典	4	3・4			商 学 科	財務会計論	4	3・4	
仏教美術	4	3・4	歴史学科除く	管理会計論	4		3・4			
現代哲学概説	4	3・4		会計監査論	4		3・4			
国文学 科	上代文学	4	3・4	国文学科除く	商業政策		4	3・4		
	中世文学	4	3・4	国文学科除く	貿易論		4	3・4		
	近世文学	4	3・4	国文学科除く	マーケティング		4	3・4		
	近代文学	4	3・4	国文学科除く	原価計算論		4	3・4		
	中国文学	4	3・4	国文・歴史学科除く	労務管理論		4	3・4		
英米 文 学 科	英文学特講Ⅰ	4	3・4	英米文学科除く	法 律 学 科		行政法Ⅱ	4	3・4	
	英文学特講Ⅱ	4	3・4	英米文学科除く			民法Ⅳ(1)	4	3・4	社会学科除く
	英文学特講Ⅲ	4	3・4	英米文学科除く		民法Ⅳ(2)	4	4		
	英文学特講Ⅳ	4	3・4	英米文学科除く		比較憲法	4	3・4		
	英文学特講Ⅴ	4	3・4	英米文学科除く		政 治 学 科	地方自治法	4	3・4	
	英文学特講Ⅵ	4	3・4	英米文学科除く			経済法	4	3・4	
	英米演劇特講	4	3・4	英米文学科除く			国際関係論	4	3・4	
	米文学特講Ⅰ	4	3・4	英米文学科除く			西洋政治史	4	3・4	
	米文学特講Ⅲ	4	3・4	英米文学科除く			宣伝広告論	4	3・4	
	時事英語	4	3・4	英米文学科除く			比較社会構造論	4	3・4	休講
地理 学 科	地質学	4	3・4	地理学科除く	政党論		4	3・4		
	地形学Ⅰ	4	3・4	地理学科除く	經 營 学 科		経営学史	4	3・4	
	人口地理学	4	3・4	地理学科除く			国際経営論	4	3・4	
	応用地理学Ⅰ	4	3・4	地理学科除く			経営統計	4	3・4	休講
	文化地理学	4	3・4	地理学科除く		保険経営論	4	3・4		
歴史 学 科	日本仏教史Ⅱ	4	3・4	歴史学科除く 休講		財務会計論	4	3・4	休講	
	日本史特講Ⅶ(近代)	4	3・4	歴史学科除く		経営情報論	4	3・4		
	東洋史特講Ⅹ(近・現代)	4	3・4	歴史学科除く		経営分析論	4	3・4		
	西洋文化史Ⅰ	4	3・4	歴史学科除く		税務会計論	4	3・4		
	考古学特講Ⅲ	4	3・4	歴史学科除く (隔年開講)		経営労務論	4	3・4		
	歴史哲学	4	3・4	歴史学科除く		商業史	4	3・4		
	哲学史	4	3・4	歴史学科除く	短 大 国 文 学 科	国文講読Ⅰ(上代)	2	3・4	国文学科除く	
日本民俗学	4	3・4	歴史・国文学科除く	国文講読Ⅱ(中古)		2	3・4	国文学科除く		
社会 学 科	マスコミュニケーション	4	3・4	社会学科除く		国文講読Ⅲ(中世)	2	3・4	国文学科除く	
	産業社会学	4	3・4	社会学科除く		国文講読Ⅳ(近世)	2	3・4	国文学科除く	
	都市社会学	4	3・4	社会学科除く		国文講読Ⅴ(近・現代)	2	3・4	国文学科除く	
	社会福祉発達史	4	3・4	社会学科除く	国文特講Ⅴ(近・現代)	4	3・4	国文学科除く		
短英 文 大 科					英文タイプライティングⅡ	2	3・4	国文学科除く		
					時事英語	4	3・4	国文・英米文学科除く		
					英語演習Ⅰ	4	3・4			
	短放 射 線 大 科					計算機言語概論	2	3・4	国文学科除く 半期科目	
						臨床放射線特論Ⅰ	2	3・4	国文学科除く 半期科目	
					応用計測学	2	3・4	国文学科除く 半期科目		

※ 計算機言語概論については、機器数の関係上選抜により受講者を決定します。

7. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
宗 教 学 概 説	4		日 本 仏 教 史	4	※イ	フイリ語FLL(中級)	2	
哲 学 概 説	4		日 本 文 化 史 I	4	休講 } 隔年 ※ニ } 開講	フランス語FLL(初級)	2	
倫 理 学 概 説	4		日 本 文 化 史 II	4		フランス語FLL(中級)	2	
宗 教 人 類 学	4		英 会 話 II	2	※へ	中国語FLL(初級)	2	
民 間 信 仰 論	4		ド イ ツ 語 F	2		中国語FLL(中級)	2	
日 本 宗 教 文 化 史	4		フ ラ ン ス 語 F	2		スペイン語FLL(初級)	2	
民 衆 宗 教 成 立 史	4		中 国 語 F	2		スペイン語FLL(中級)	2	
歴 史 哲 学	4	※イ	ス ペ イ ン 語 F	2		ロシア語FLL(初級)	2	
日 本 民 俗 学	4	※ロ	ロ シ ア 語 F	2		ロシア語FLL(中級)	2	
美 術 史 概 説	4	※ロ	英 語 L L II	2	※へ	英 語 (海外演習)	2	※ホ
東 洋 思 想 研 究	4	※ハ	フイリ語FLL(初級)	2				

※イ. 歴史学科を除く。

※ロ. 国文・歴史学科を除く。

※ハ. 国文学科を除く。

※ニ. 国文・英米文・歴史学科を除く。

※ホ. 「英語(海外演習)」は、海外姉妹校で行なわれる短期留学セミナーで、1年次生より履修できる。なお、詳細については、講義内容(P.77)を参照のこと。

※へ. 「英会話Ⅱ」・「英語LLⅡ」の履修を希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。

8. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目(受験しなかった科目を含む)を再度履修することをいう。

注) 再度履修する科目であっても、前年度において履修登録していない場合は新規履修となる。

ロ. 再履修する場合、授業科目名が同じであれば、担当教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ハ. 再履修の授業科目は、新規履修の授業科目と同時に届け出なければならない。

ニ. 外国語(英米文学科の英語Ⅲは除く)・体育実技Ⅰ・保健体育理論および宗教学Ⅰを再度履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」(本校で授業を行う)で履修すること。

ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

ホ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法（昭和63年度以降入学生適用）

『外国人留学生』・『海外帰国子女』学生対象の科目で、原則として1・2年次において履修すること。

○日本語科目は、各所属学科の定めるところにより第1外国語または第2外国語として履修すること。

修得単位は、外国語科目の卒業所要単位に算入する。

○日本事情科目の修得単位は、8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。

○各所属学科の定める一般教育科目および外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は、これを随意科目として単位認定する。

（注）詳細は、『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

※ 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分

--	--	--	--	--	--

学部 学科 系列 分野 一連番号

ロ. 学部・学科番号は「学生番号 (P.56参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一 般 教 育 科 目	0	
人 文 分 野		1 (必修) ・ 2 (選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基 礎 教 育 科 目	1	2
外 国 語 科 目	2	
保 健 体 育 科 目	4	
実 技		1
講 義		2
専 門 教 育 科 目	5	
必 修 科 目		1 ・ 2 ・ 3
選 択 科 目		5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
随 意 科 目	7	
再 履 修 科 目	8	
課 程 ・ 講 座 科 目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科、学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び、所定の『単位履修届』用紙に必要事項を記入し届け出ることにより、通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表のとおりとする。

年 次	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1 年 次	1 5 科 目	—
2 年 次	1 4 科目以内	1 8 科目以内
3 年 次	1 4 科目以内	1 8 科目以内
4 年 次	1 科 目 以 上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および体育実技Ⅱ、随意科目は、上記表の制限外とする。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし、最高制限を設けないが、卒業単位および授業出席に十分ゆとりのある履修をすること。

ハ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は必ず本人が記入捺印し、指定された日時に学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は、学業の意志のないものとして処理する。なお、指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口相談すること。）

ロ. 履修届の日時、場所等についての詳細は教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし、他学部履修科目（P.40参照）は、履修登録できる。

また、教職課程・資格講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが、その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講、受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 『単位履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

月 曜 日				
	授業科目	科目コード	担当	担当コード
一 時 限	ドイツ語 I A	212201	百 済	879
二 時 限	保健体育理論(前期)	214201	長 濱	A10
	保健体育理論(後期)			622
三 時 限	宗 教 学 I	210101	平井(俊)	735
四 時 限	論 理 学	210203	國 嶋	306
五 時 限	自然科学概論	210401	宇和川	104

正しい記入例

曜 日	時 限	再 履	科 目 名	科 目 コー ド	担 当	担 当 コ ー ド
(1)	1		ド イ ツ 語 I A	2 1 2 2 0 1	百 済	8 7 9
	2		保健体育理論(前期)	2 1 4 2 0 1	長 濱	A 1 0
	3		宗 教 学 I	2 1 0 1 0 1	平井(俊)	7 3 5
	4	○	論 理 学	2 1 0 2 0 3	國 嶋	3 0 6
	5		自然科学概論	2 1 0 4 0 1	宇和川	1 0 4

イ. 楷書体で正確に記入すること。

ロ. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。

ハ. 授業時間表のとおり記入すること。

ニ. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、前期終了科目は上段に後期終了科目は下段に記入すること。

ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。

ヘ. 履修届は電算機で処理しているため、下記の場合には、登録が無効となるので注意すること。

(1) 科目名・科目コード、担当名・担当コードが一致しない場合

(2) 時限を誤って記入した場合

(3) 判読できない数字で記入した場合(例として間違い易い数字 0と6, 1と7)

(4) その他、不明瞭に記入した場合

ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担当名・担当コードを正しく記入すること。

チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。

リ. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失ないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、教職課程・資格講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

国文学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎国語学，基礎国文学，基礎中国文学（必修）	3
5	専門教育科目	国文学講読Ⅰ（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 社会分野 自然分野 } 開講科目の中から4科目選択必修 (不足単位は2年次で履修)	4
1年次履修制限科目数			15

英米文学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	英または米文学概論，基礎英語ⅠA，ⅠB（必修）	3
5	専門教育科目	英語音声学（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 社会分野 自然分野 } 開講科目の中から4科目選択必修 (不足単位は2年次で履修)	4
1年次履修制限科目数			15

地理学科

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技Ⅰ (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎自然地理学, 基礎人文地理学 (必修)	2
5	一般教育科目	人文分野: 開講科目の中から1科目を選択必修	1
		社会分野: 開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野: 開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

歴史学科

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技Ⅰ (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎歴史学 (必修)	1
5	一般教育科目	人文分野: 開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野: 開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野: 開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

社会学科

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技Ⅰ (必修)	2
4	基礎教育科目	社会学概論, 社会福祉原論, 心理学概論 (必修)	3
5	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から5科目を選択必修	5
		社会分野 } (不足単位は2年次で履修)	
		自然分野 }	
1年次履修制限科目数			15

授業時間

授業時間は、次表のとおりである。

時限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

V 試験および成績評価

1. 定期試験

イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月14日(火)～7月20日(月)に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月16日(土)～2月3日(水)に実施される。

ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。

ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。

なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。

ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。

(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示に十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I) 追 試 験

イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)

ロ. 追試験料は徴収しない。

II) 再 試 験

1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。

卒業年次生に限り下記により実施する。

イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。

ロ. 受験料は1科目1,000円とする。

(注意) 前期終了科目の追・再試験は9月25日(金)～10月1日(木)に、後期および通年科目の追・再試験は卒業年次生・在校生とも2月23日(火)～3月1日(月)に実施する。

III) 体育・外国語科目・その他

イ. 体育実技、演習、その他実験実習を伴う科目は追・再試験ともこれを行わない。

ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
 - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
 - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部⑨番窓口にて手続きをすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)および不可(59点～0点)とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。
なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験(4年次生のみ)の成績評価は良(70点)以下とする。

6. 試験時間

定期試験実施時間(前期)		定期試験実施時間(後期)	
1時限 9:20～10:20	4時限 14:40～15:40	1時限 9:30～10:30	4時限 14:30～15:30
2時限 10:50～11:50	5時限 16:10～17:10	2時限 11:00～12:00	5時限 15:50～16:50
3時限 13:10～14:10		3時限 13:00～14:00	

追・再試験実施時間（前期）	
1時限	16：10～17：00
2時限	17：10～18：00

追・再試験実施時間（後期）	
1時限	9：30～10：20
2時限	10：50～11：40
3時限	13：00～13：50
4時限	14：10～15：00
5時限	15：20～16：10

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P.60）ので参照のこと。

7. 成績発表

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。

VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。
これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～12単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。または90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。

- ※ 各科目区分・分野における卒業所要単位を超える単位を除いた修得単位数を計算する。
- ※ 随意科目・課程・講座の修得科目を除く。

Ⅶ クラス制およびクラス主任

- イ. 学科の実情に応じて、1・2・3年次にクラス主任若干名をおいている。
 ロ. クラス主任は、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

Ⅷ 教職課程・資格講座

文学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次表のとおりである。

課程・講座名	開講年次	備 考
教 職 課 程	2年次より	教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1種・高等学校1種の各普通免許が取得できる。
学校図書館司書教諭講座	”	学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。
博 物 館 学 講 座	”	社会教育の場として博物館が十分に利用され、その目的、使命を達成するための学芸員の資格。
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	”	社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。(社会福祉士の基礎科目も修得可能)
社会教育主事講座	”	社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋(11月中旬)に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

(授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。)

なお、ガイダンスの日時等については、実施1ヵ月前より掲示板で、その旨指示する。

IX 事務取扱いについて

1. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

2. 休 講

- イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口に応じ出してその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）もしくは東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

3. 掲示・連絡

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

4. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

X 学籍について

1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。（本大学の修業年限は4年）
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有することができる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

2. 休 学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
 - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
 - (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届
 - (3) その他の理由の場合は、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

休学願提出日	学 費
4月1日～9月20日	I期（前期）分納入済のこと。（II期分免除）
9月21日～11月30日	I期（前期）分・II期（後期）分共納入のこと。

IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

3. 復 学

- イ. 休学した者が復学する場合は、I期（前期）学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。

イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願い出ること。

ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。

ハ. 退学年月日は次のとおりとする。

(1) 当該期学費納入者 …… 退学願提出日

(2) 当該期学費未納者 …… 学費納入済学期の最終日

5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

イ. 在学年数を越えた者

ロ. 休学期間を越えた者

ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

6. 懲 戒

イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。

ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当の理由がなくて出席常でない者

(4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

7. 編 入 学

本大学卒業者（卒業見込者を含む）または2年以上在学した者（在学中の者を含む）で、同一学部の他学科または他の学部学科の3年次に編入学を希望する者があるときは、選考の上入学を許可する。

ただし、編入学者の学年は、単位を修得した授業科目によっては、2年次となる場合がある。

8. 再 入 学

本大学を退学した者または除籍された者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可することがある。

イ. 入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象としない。

ロ. 退学または除籍後3年以内の者とする。（出願時を基準とする）

ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部の他学科または他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。（学科により異なる）

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学または短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。

- イ. 履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位に算入することができる。
- ロ. 留学期間は在学年数に算入する。

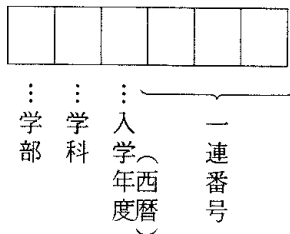
11. 学生氏名・保証人

- イ. 学生氏名は、住民票記載事項証明書または外国人登録済証明書に基づきJ I S第1水準・第2水準文字で運用する。
- ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。
- ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。
- ニ. 保証人は原則として、父、母とし、やむをえない場合は独立の生計を営む親族あるいは縁故者とする。
- ホ. 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとする。
- ヘ. 学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

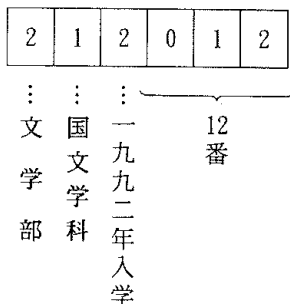
12. 学生番号

- イ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。
- ロ. 学生番号は6桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分



(例) 1992年度入学・文学部
国文学科12番の場合



学部・学科の番号

学 部 ・ 学 科 名	学 部 番 号	学 科 番 号
仏 教 学 部	1	
禅 学 科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商 学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

XI 既修得単位の認定について

イ. 新たに第1年次に入学した者

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者は、従前在学した大学等において修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定を受けることができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願い出なければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

ロ. 編入学者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ハ. 再入学者

従前在学中に修得した全授業科目の単位を認定する。

ニ. 転部・転科者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ホ. 留学者

本学から外国の協定校・認定校へ派遣された学生が、留学先で修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書・履修要項等により当該教授会が認定する。認定した単位は、卒業所要単位の算入される。

XII 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類	要 領 (必 要 書 類)	本人 印	保証 人印	取扱 窓口	
届 書	単 位 履 修 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・各年度に単位修得しようとする授業科目を指定 期日に必ず届け出ること 	要	不要	掲示
	欠 試 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること (締切日は掲示参照) 	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・掲示板にて指示 	要	不要	
	改 氏 名 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・戸籍抄本添付 ・変更後1週間以内 	要	不要	⑤
	本籍地(都道府県 名)変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・住民票記載事項証明書添付 ・変更後1週間以内 	要	不要	
	保証人変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・在学誓書(保証書)添付 	要	要	
	保証人住所変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・変更後1週間以内 	要	不要	
死 亡 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・死亡が証明できる書類(写し可)添付 	/	要		
願 書	休 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・傷病による場合は、医師の診断書添付 ・外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在 留期間を証明する書類および在留地届 ・その他の場合は、保証人連署の理由書 	要	要	⑤
	復 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・傷病による休学をした場合は、医師の通学可能 である証明書添付 ・4月10日までに提出すること 	要	要	
	退 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・学生証添付 	要	要	

XIII 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	在学者にかかわる 証明書 1通200円 （英文 500円） 卒業者にかかわる 証明書 1通300円 （英文 600円）
成 績 証 明 書		
卒 業 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
教職・講座単位修得（見込）証明書		
一般教養科目修了（見込）証明書		
そ の 他 の 諸 証 明 書		
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口に申し込むこと。発行は原則として2日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から9月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

※ 成績証明書は、卒業年次生以外は原則として発行しない。

試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

（目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
 - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
 - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
 - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担当教員が中間審査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
 - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
 - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担当教員の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試験及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

講義内容目次

一般教育科目 (共通)	(66)
保健体育科目 (共通)	(72)
随意科目 (共通)	(73)
国文学科	(79)
英米文学科	(91)
地理学科	(101)
歴史学科	(112)
社会学科	(127)
他学部履修科目 (共通)	(145)

[卷末]

教職および資格講座

一般教育科目 (共通)

随 意 科 目 (共通)

人文分野

宗教学 I (佐々木 宏幹)66

宗教学 I (洗 建)66

宗教学 I (山岡 隆晃)66

宗教学 I (脇本 平也)66

宗教学 I (再クラス) (岡部 和雄)66

宗教学 I (再クラス) (奈良 康明)66

宗教学 II (青龍 宗二)67

宗教学 II (峰岸 孝哉)67

宗教学 II (河村 孝道)67

宗教学 II (原田 弘道)67

宗教学 II (石井 修道)67

哲学 (戸田 洋樹・大石 紀一郎)67

論 理 学 (久保 陽一・寺田 誠一)67

歴 史 学 (粟野 俊之)68

文 学 (田中 徳定)68

芸 術 学 (日本美術) (松平 美和子)68

芸 術 学 (西洋美術) (宮崎 克己)68

社会分野

法学憲法 (和知 恵一)68

法学憲法 (鷄徳 啓登)68

経 済 学 (齊藤 正)69

政 治 学 (小林 正敏)69

社 会 学 (橋爪 敏)69

文化人類学 (蒲原 大作)69

地 理 学 (小田 匡保)69

地 理 学 (矢野 陽子)69

自然分野

自然科学概論 (宇和川 正人)70

自然科学概論 (綾野 雄幸)70

数 学 (前期:三好 重明)70

(後期:篠原 正雄)70

生 物 学 (清水 善和)70

生 物 学 (富山 清升)70

心 理 学 (横山 剛)70

心 理 学 (牧野 晋)70

人 類 学 (真家 和生)71

地 学 (中島 義一)71

化 学 (高木 正博)71

物 理 学 (竹田 洋一)71

宗教学概説 (松田 文雄)73

宗教学概説 (脇本 平也)73

宗教学概説 (洗 建)73

哲学概説 (篠原 壽雄)73

哲学概説 (國嶋 一則)73

倫理学概説 (久保 陽一)73

宗教学人類学 (佐々木 宏幹)73

民間信仰論 (谷口 貢)74

日本宗教文化史 (脇本 平也)74

民衆宗教成立史 (洗 建)74

歴史哲学 (麻生 建)74

美術史概説 (中島 亮一)74

東洋思想研究 (館野 正美)74

日本仏教史 (廣瀬 良弘)74

日本文化史 II (廣瀬 良弘)74

日本民俗学 (谷口 貢)75

英会話 II (P. A. ベンディネリィ・D. J. ノーラン
T. J. コーガン・M. ピアス)75

英語 L L II (T. J. コーガン・岩山 義春)75

ドイツ語 F (栗原 万修)75

ドイツ語 F L L (初級) (小林 ゲアリンデ)75

ドイツ語 F L L (中級) (松岡 晋)75

フランス語 F (加藤 節子)75

フランス語 F L L (初級) (遠山 博雄)75

フランス語 F L L (初級) (M. マルタン)76

フランス語 F L L (中級) (M. マルタン)76

中国語 F (釜屋 修)76

中国語 F L L (初級) (小川 隆)76

中国語 F L L (中級) (戸張 嘉勝)76

スペイン語 F (ソニア・エレロ・ガルシア)76

スペイン語 F L L (初級) (ホワン・ナバロ)76

スペイン語 F L L (中級) (ホワン・ナバロ)76

ロシア語 F (杉山 秀子)76

ロシア語 F L L (初級) (池田 ガリーナ)77

ロシア語 F L L (中級) (池田 ガリーナ)77

英 語 (海外演習)77

保健体育科目 (共通)

保健体育理論 (森本 葵)72

保健体育理論 (竹田 幸夫)72

保健体育理論 (再クラス) (田中 佳孝)72

保健体育理論 (再クラス) (牧野 茂)72

一般教育科目(共通)

人文分野

もに、人間理解の一助としたい。また、様々な宗教が共存する日本の宗教についても考えてみたい。
〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)
¥2,000

宗 教 学 I

佐々木 宏 幹

講義はつぎのように展開される。(1)宗教は諸文化のなかでどのような位置を占め、また社会的にどのような役割を果たしているか、(2)宗教をめぐるどのような学説が唱えられたか、(3)世界にはどのような宗教形態があるか、(4)仏教はどのような特色をもつ宗教か、(5)日本の宗教と日本人との関係はどうなっているか。具体的な事例を挙げて考察する。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)
¥2,000

宗 教 学 I

脇 本 平 也

人間生活のあるところには必ず何らかの形の宗教現象が見られる。これは古今東西を通じて変らぬ一つの事実である。それでは、宗教はいかにして始まったのか、その歴史はどのように展開したのか、また宗教にはどのような種類のものがあるのか。こういった疑問が続いて出てくることになる。これらの疑問にできるだけ体系的に答える努力を試みたい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)
〔参考書〕『宗教を語る－入門宗教学－』
(日新出版)

宗 教 学 I

洗 建

宗教はあらゆる文化の基底をなしている。特定の信仰をもっていなくても、われわれはそのような宗教文化の中で生きている。宗教は文化において、社会において、人生において、どのように表われてくるのだろうか。身近な宗教現象を通じて、宗教の意義や役割を理解することを目指したい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)
¥2,000

宗教学 I (再クラス)

岡 部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)
『仏教の歩んだ道 I』(東京書籍)

宗 教 学 I

山 岡 隆 晃

宗教は人類に普遍的な文化現象である。宗教は時代を超えて、人間社会の様々な場面で重要な役割を演じ続けてきた。人間はなぜ宗教を必要とし、宗教は人間にとってどのような意味をもち、個人または社会に対していかに機能してきたか。宗教の起源や構造・機能をめぐる学説を概観することにより、宗教に関する基礎的な理解を深めると

宗教学 I (再クラス)

奈 良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)
『仏教のおしえ』(東京書籍)

宗 教 学 II

青 龍 宗 二

この講座は「宗教学Ⅰ」のあとをうけて、「禅仏教」を取り扱う科目であるが、特に禅思想を中心として、我々自身の人間形成にどのような関わり合いをもっているかを考え、併せて日本文化と禅との関連をも言及してゆく。

宗 教 学 II

峰 岸 孝 哉

この宗教学Ⅱは、宗教学Ⅰを学んだ後を受けて、中国で成立し、大なる展開をとげた禅仏教の解説を内容としている。まずインド、中国、日本の禅仏教の歴史をたどり、その思想と行動の特色について考えてみる。とりわけ日本文化に与えた影響や、今日的意味については特に注意して考えたい。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学Ⅱ』（更生社）

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

¥2,000

宗 教 学 II

河 村 孝 道

日常的立場と宗教的立場における視点の相違についての理解、禅仏教の立場の思想的理解、および宗教（禅）と人生との関わり合いと、そこからの種々の問題について考察する（なお、坐禅も行う）。

〔参考書〕『宗教学Ⅱ』（更生社）

『宗教学ハンドブック』（世界書院）

¥2,000

宗 教 学 II

原 田 弘 道

仏教就中禅を中心に講義を進めてゆく。まず禅及び禅宗の歴史的展開を追いながら、禅とは何か、人間生活と禅の真理、禅的生活の展開、禅と文化、禅と現代といった問題を順次とりあげてゆく。

そして禅の日常性の構造、公案の意義、禅の人間像、実践規範と順次とりあげる。禅と文化、禅と現代においては、広く禅と芸術、西欧思想と禅との関係等についても触れるつもりである。

〔参考書〕水野・柴田編『宗教学ハンドブック』

（世界書院）¥2,000

『禅を喝破する』（曹洞宗宗務庁）
¥800

宗 教 学 II

石 井 修 道

駒沢大学で行われている宗教学Ⅱとは、宗教学とは何か、仏教とは何かを学んだ宗教学Ⅰの後を受けて、禅とは何かについて具体的に学ぶ科目である。インドからやって来たダルマを開祖とする禅は、何よりも実践を重んじているので、第一はその思想が生まれてくる背景は何かをまず学びたい。次にダルマ以降に発展する禅では、自己への問いかけを重要課題とするので、第二は禅でいう自己とは何かを問題にして行きたい。第三は禅の歴史の上にあられる個性的な禅者を通して、禅が何をめざしているかを考えたい。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学Ⅱ』（更生社）

¥2,370

哲 学

戸 田 洋 樹・大 石 紀 一 郎

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのか自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の獲得にも努める。

〔教科書〕その都度指示する。

論 理 学

久 保 陽 一・寺 田 誠 一

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむしろのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考して

いるとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得に努める。

〔教科書〕その都度指示する。

歴史学

栗野俊之

前半では、日本における古代から中世・近世・近代へという歴史の流れを、土地制度と村落を中心として概観する。後半では、中世の村と農民が持つ、さまざまな性格について、領主との対応をからめながら見て行きたい。

〔教科書〕藤木久志著『戦国の作法』（平凡社）
¥2,000

文学

田中徳定

文学は、普遍的な“人間”の姿を作品の中に描き出すとともに、作家達の生きた時代・社会というものも作品世界の中に浮かび上がらせているとみることができる。そこで、文学作品の世界をどのように読解していくか、またどのような読解が可能であるか、具体的に作品を読みながら考えていく。読む作品についてはその都度授業の中において指示する。

芸術学（日本美術）

松平美和子

日本美術の様式を歴史的にたどり、同時に外来美術との関係を考えていく。なお、授業ではスライド、図版などを多く用いたい。

〔教科書〕辻 惟雄監修『カラー版 日本美術史』（美術出版社）¥1,900

芸術学（西洋美術）

宮崎克己

前期は、ヨーロッパのルネサンスから近代までの絵画史を概観する。後期には、各時代に共通する事柄、すなわち自然・空間表現、リアリズム、図像などについて掘り下げて考える。

受講者には、年2～3回、美術館、展覧会の見学、およびレポート提出が要求される。

社会分野

法学憲法

和知恵一

法と聞くと、人によっては、非人間的であるとか面白味に欠けるといって嫌悪感すら抱く場合もあるようだ。しかし我々の日常生活は、すべてといえる程法的な側面を持っており、人は知らず知らずのうちに法と関わり合って生きているのである。例えばアパートを借りる契約は借家法や民法の規定に従って結ばなくてはならず、1年未満や20年を越える期間の約束は効力を否定されてしまう。また部屋を修繕する費用は誰が負担すべきか、家賃はいつどこで支払うべきかなども民法の中で定められている。この様に実生活に密着している法を、頭から自分と無縁のものとして決めつけずに、一般社会人として身につけるべき教養として法を学んでもらいたい。

〔教科書〕小林弘人・松村 格編著『法学・憲法』（八千代出版）

『ポケット六法』（有斐閣）

〔参考書〕小林弘人他著『事例法学入門』（東京教学社）、その他授業の中で紹介します。

法学憲法

鶏徳啓登

よく「社会あるところ法あり」といわれる。その社会にある法とは何かを研究するのが法学である。法に共通する根本的な理念は何か、法の目的は何かなど、法を研究する場合にどうしても解明しなければならない問題がある。

また憲法は、国家の基本法として他の諸々の法令の根幹をなすものであり、人権と統治機構よりなる。そして現代にいたっては、社会状況の変化に伴い新しい人権といわれるものの研究もなされている。

そこで、本講義では、これらのテーマを中心にまず一通り法学をやり、つぎに法の中でもその中核をなす憲法の理念や原則などについて説明して

ゆきたいと思う。

〔教科書〕『法学・憲法』（八千代出版）¥3,500

〔参考書〕『事例法学入門』（東京教学社）

¥1,700

『ケースメソッド現代法学入門』

（圭文社）¥1,800

な知識をテキストをもとに理解し、考えていくこととしたい。

〔教科書〕安藤喜久雄ほか編『社会学概論』（学文社）

〔参考書〕安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』（学文社）

経済学

齊藤 正

貿易摩擦、環境破壊、途上国の貧困、インフレーション、といった経済現象は社会を構成する様々な人々の行為の結果として生じたものです。経済学はそれらの経済現象が誰の、どのような行為によって惹き起こされ、それが誰に、どのような影響を及ぼすかを見極める学問であるといえます。

そのことを理解するためには、私たちの生きている社会（資本主義社会）の特徴が何であり、どのようなメカニズムによって成り立っているかを知る必要があります。

本講義では、経済現象の具体例を挙げながら「経済学的とらえ方」を学びます。

〔教科書・参考書〕授業の中で指示します。

文化人類学

蒲原 大作

文化人類学は、人類を人文科学的に研究する学問である。その出発点は、各民族独自の文化要素を比較研究することであり、そのため研究対象には、その伝統文化を純粋な形で保っていることの多い未開民族（未開社会）が選ばれることが多かった。しかし最近では、これが文明社会にも応用され始めている。

本講座でも、元来の方法である未開社会を中心に講義を進めて行くが、文化の研究というものを、より身近に感じてもらうためにも、誰もが知っている文明社会の事例などをおおいに取り入れて行きたいと考えている。

〔教科書〕蒲生正男・祖父江孝男編『文化人類学』（有斐閣双書）

政治学

小林 正敏

現代政治学の諸領域を、政治理論、政治集団、政治機構等にわたって系統的に論述する。特に社会科学の政治学であることを考慮して、政治社会学、政治心理学的な視点をも重視したい。

〔教科書〕高橋正則他著『現代日本の政治構造』（芦書房）

地理学

小田 匡保

地理学の大枠を概観した後、特に人文地理学の諸分野について述べる。詳細は、最初の授業時に説明する。

社会学

橋爪 敏

社会学という学問の持つ研究対象や性格は、ほかの社会諸科学と比べた場合、あまり理解しやすいものとは言えない。それは、社会学のもつ一種独特の学問的性格や対象の設定に基づくものであろう。社会学は、名称の示すごとく、社会を研究対象とするものであるがそれを常に具体的、現実的な人と人との関係的現象、集团的現象に還元して考察、理解し、さらには理論的に体系化する志向をもつ。そこで、この講義では、このような社会学独自の社会現象の見方、考え方、また基礎的

地理学

矢野 陽子

地球上最大の大陸と最大の大洋の間に位置する日本列島は、複雑な自然に富み、地震・火山噴火・集中豪雨・台風等多くの天災に見舞われながらも、今日の発展を日本国民にもたらしています。

本講では、この発展の母体である日本列島の自然と人間生活について地誌的立場から、日本全域を対象として地域の本質（地域の特性）を明らかにしたいと思います。

〔教科書〕『日本地誌』（改訂増補版）¥1,900
地図帳使用。

自然分野

生殖革命などの現代的な問題についても言及する。
〔教科書・参考書〕なし

自然科学概論

宇和川 正 人

自然環境と資源の諸問題について解説する。あわせて、資源の開発と人類とのかかわりあいについて考察する。

〔参考書〕その都度紹介する。

自然科学概論

綾 野 雄 幸

前半では、自然科学とはどういうものであるか、それは人間の歴史の中でどのようにして生まれ、発展してきたかについて解説し、後半では、日常生活との関連を重視し、私の専門である食を中心に的をしぼり、食べ物について最新の科学・技術、食生活、将来の展望などについて述べる。

〔教科書〕小島道也・伊東 正編『食べ物の科学 (NHKブックス)』(日本放送出版協会) ¥750

数 学

(前期) 三 好 重 明
(後期) 篠 原 正 雄

数学的思考方の基本的な一側面を理解することを目標とする。そのために、適当な問題をとりあげ、現代的視点から、問題解決へ向けて数学理論が如何にして構築されていくかを示してみたい。予備知識は特に仮定しない。

〔教科書〕特に指定しない。

生 物 学

清 水 善 和

複雑多岐にわたる生物学の各分野の内容を、生命の起原から人類の誕生に至るまでの生物進化の概念を縦糸に、また近年発展の著しい遺伝子を中心とした分子生物学の知識を横糸に配して統一し、大系化された生物学の基礎知識の修得をめざす。また、折りにふれてバイオテクノロジー、脳死

生 物 学

富 山 清 升

進化、遺伝、生態・自然保護を3つの柱として、生物学の基本的知識を中心に、人間生活と関連した問題や最近話題になっている問題(遺伝子工学、ガン・免疫、環境問題etc)をまじえ、わかりやすく解説する予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

心 理 学

横 山 剛

本講義は心理学の主要な領域と心理学の対象・方法について基礎的な知見を与える入門の講義である。内容としては、感覚や知覚、学習、記憶などの基礎の分野から情緒、知能、性格、異常などの応用・臨床的な分野などを解説する。いずれにせよ、学生諸子が己れの理解を深め、複雑な現代の社会現象を見ていく上の一助となれば幸いである。

〔教科書〕中村昭之編『心理学概説』

(八千代出版) ¥1,400

〔参考書〕村山貞雄監修、霜山徳爾編『臨床心理学』(学術図書出版)

心 理 学

牧 野 晋

心理学の各分野を概観し、その基礎的な知識を解説すると共に、人間理解への一つの方法として心理学のとり、「科学的アプローチ」とはどのようなものであるかを考えていく。日常生活において見られる人間の様々な行動について、従来の研究成果をもとに解説しながら、心理学的なものの見方、考え方がどのようなものであるかを理解してもらいたい。また講義では、随時供覧実験などを折り込み、心理学的研究の雰囲気も味わってもらいたいと思っている。

〔教科書〕中村昭之編『心理学概説』

(八千代出版)

〔参考書〕齋藤 勇編『心理学ビギナーズトピックス100』(誠信書房)

その他、開講時に指示する。

人 類 学

真 家 和 生

本講義では、まず、①人間の捉え方について解説し、個人の意識を越えて人類という集団を取り扱う基礎的事項について概説する。②生命発生から現在のヒトが形成されるまでの生物および人類の進化過程を通覧した上で、現在および近未来のヒトの形態と機能の変容を解説する。③ヒトの適応能と変異について概説した上で、現在、地球上の諸々の環境下で人類がどのように生活しているかを概説する。④生態系の中における生物としてのヒトと、高文化・技術を持つ人間の、自然界における位置について概説する。これら人間理解のための基礎事項を準備した上で、⑤個人の問題に立ち返り、現代社会において個人を取り巻くさまざまな問題を取り上げて討議する。

〔教科書〕 授業中に参考図書を指示する。

関するもの（極微の素粒子の世界、広大無限の宇宙）を適宜選び出して物理学史の経緯もまじえつつ解説を行なう。往々にして無味乾燥と見られがちながら物理学に親しみを持つとともに先人達が残しかつ現在も急速に発展しつつあるこの学問の奥深さと面白さを感じとってほしい。極力数式は用いずに済ませる予定であるので予備知識は特に必要としない。

〔教科書〕 決まった教科書は用いない。

〔参考書〕 講義の折に必要なに応じて紹介する予定。

地 学

中 島 義 一

地学のはんいは広いが、陸水学・気候学・地形学の主要問題を講義する。地図帳（高校生の時に使用したものでよい）を忘れずに持ってくること。

化 学

高 木 正 博

まず、物質の本性について、原子の結びつきから解説する。つぎに、地球化学および環境汚染の視点から、化学物質と自然環境の関係や、人間とのかかわりあいについてのべる。とくに「水」を主題とし、化学的な視点ばかりでなく、「水の地理学」の観点を含めて講義する。

物 理 学

竹 田 洋 一

物理学の世界における広範なトピックスの中から特に日常生活や現代社会に密接に関連するもの（たとえばエネルギー、エントロピーなど）或いは我々の日常的感覚では測り得ない深遠な世界に

保健体育科目（共通）

保健体育理論

森 本 葵

体力づくり

〈若年層における体力づくりの必要性〉

〈体力のメカニズム〉

〈体力づくりの方法〉

〈体力づくりにかわる疲労の問題〉

〈疲労の判定法〉

オリンピックゲーム

〈歴史〉

〈問題点〉

〈その将来〉

〔教科書〕 『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕 『スポーツ・トレーナー教本』
（日体協）

保健体育理論（再クラス）

田 中 佳 孝

日常生活及びスポーツ・レクリエーション時に於ける傷害の救急処置法。並びに健康な生活を為に必要な栄養学的知識について、食物とビタミンを中心に講義を行なう。

保健体育理論（再クラス）

牧 野 茂

健康の正しい認識，健康を阻害する因子，健康・体力づくりを中心テーマとし，具体的な事例又は話題をとりあげながら授業を展開する。

保健体育理論

竹 田 幸 夫

体育・スポーツに関する基礎的な知識についての講義を行なう。とくに，スポーツ運動学の立場から人間の運動の様々な特徴を具体的な例によって解説する。また，現代における社会生活と健康・スポーツとの関わりを考えていく。

〔教科書〕 駒沢大学保健体育部編『保健体育概論』
（カヅサ出版部）¥1,700

〔参考書〕 白石 豊編『スポーツ上達の基礎理論』
（自由現代社）¥1,200

随 意 科 目 (共 通)

宗教学概説

松 田 文 雄

初めに宗教学の研究方法，その領域などを概説し，今年度は日本仏教の特色について述べる。

〔参考書〕 随時指示する。

宗教学概説

脇 本 平 也

— 宗教学説史 — 経験科学としての宗教学の成立と展開を，問題中心に学説史的にあとづけてみる。

参考文献をその都度指示する。

宗教学概説

洗 建

宗教学の体系について概観し，その中から宗教社会学的問題，とりわけ政教関係の問題をとりあげる。

〔参考書〕 随時指示する。

哲 学 概 説

篠 原 壽 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする，儒教・仏教，そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命，非儒などの精神が韓非子にいかにか受容されたかなどを中心に，先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び，併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕 『荘子』〔内篇¥360・外篇¥400〕

(中公文庫)

哲 学 概 説

國 嶋 一 則

人間は，何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常，われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは，自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって，現代世界の有力な主義を明確にし，自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

〔参考書〕 その都度示す。

倫理学概説

久 保 陽 一

善や正義などの倫理学上の基本的概念を歴史的に検討しながら，—アリストテレス倫理学，キリスト教の論理，カント道徳哲学，ヘーゲルの法哲学，実在主義等—現代における倫理の問題—国際的正義，生命倫理学—について考えることにしたい。

〔教科書〕 開講時に指示する。

宗 教 人 類 学

佐々木 宏 幹

アニミズム，アニマティズム，シャーマニズム，妖術，邪術，死霊・祖霊崇拜など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに，これら諸形態が，日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。スライドを用い具体的に進める。

〔教科書〕 佐々木宏幹著『聖と呪力 — 日本宗教の人類学序説 — 』（青弓社）

¥2,060

民間信仰論

谷 口 貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていききたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。

〔参考書〕 必要に応じて紹介する。

日本宗教文化史

脇 本 平 也

教科書その他の参考文献を読み進めながら、日本宗教文化史における夢の位置や意味について考えてみる。

〔教科書〕 西郷信綱『古代人と夢』（平凡社）

民衆宗教成立史

洗 建

新宗教の規定をめぐる諸問題、新宗教の展開、発達史を概観し、主要な新宗教教団について紹介する。

〔参考書〕 堀 一郎編『日本の宗教』（大明堂）
¥2,000

歴史哲学

麻 生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕 麻生 建『解釈学』（世界書院）
¥2,500

美術史概説

中 島 亮 一

昨年度は日本の美術を古代（藤原京時代から平安時代末期まで）を中心にみて来た。それをうけ今年度は中世から近世の一部（鎌倉時代から江戸時代前期まで）に重点をおいて、スライドや文書・記録類も併用して考察する。

〔教科書〕 辻 惟雄他編著『美術史〈日本〉』
（近藤出版社）¥2,060

〔参考書〕 適宜指示する。

東洋思想研究

館 野 正 美

本年度は、中国古代思想における運命論の問題について講じてゆきたい。前半には、孔子・孟子・墨子・荀子らの考え方を概観し、後半に至って、易経の哲学思想を中心に勉強する。

易占の持つ哲学的意義を明らかにしてゆきたいと考えている。

〔教科書〕 プリント使用

〔参考書〕 授業中に紹介します。

日本仏教史

廣 瀬 良 弘

仏教の歴史の流れを概観し、のちに平安末・鎌倉・室町・近世にかけての仏教と社会・文化とのかわりについて講述する。

〔参考書〕 参考史料は随時コピーして配布。

日本文化史Ⅱ

廣 瀬 良 弘

日本文化の流れを概観し、とくに北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけての文化について詳述する。

日本民俗学

谷 口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

英 会 話 II

P. A. ベンディネリィ・D. J. ノーラン
T. J. コーガン・M. ピアス

全学で6クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。

担当名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認し、詳しくは教場で教師の説明に従って下さい。
〔教科書〕テキストは担当教師が教場にて指示。

英語 L L II

T. J. コーガン・岩 山 義 春

英語 L L I のアドバンスト・コースとして全学で3クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語 L L I を履修しなかった学生も参加できるようにしてあります。

担当者及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

（岩山）聞き取りと表現力の向上をめざします。毎週話題となっているニュースを選び、それを繰り返し聞き、英文でアウトラインを書いてもらい、毎回提出してもらいます。書くことなくして英会話上達はありませぬ。毎回の熱心なクラス参加を強く望みます。

テキストはプリントを使用します。

ドイツ語 F

栗 原 万 修

日本とドイツの民話を中心に世界の民話をドイツ語で読む。できるだけやさしいものからはじめ、ドイツ語の力がつくようにしていく。いろいろな

民俗学的比較なども考察したい。テキストは、プリントで配付する。

ドイツ語 F L L (初級)

小林 ゲアリンデ

生きたドイツ語に触れ、聞き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話ができるようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

ドイツ語 F L L (中級)

松 岡 晋

本講義は F L L (初級) 終了者を対象とするが、時間割りその他の都合でそれを未履修の学生も、もちろん受講できる。また初級・中級の両方を同時に履習してもかまわない。

教材は、カセット・テープを予定しているが、受講者の希望により変更する場合もありうる。ドイツ語のヒアリングと基本的構文を用いての会話能力を習得したい意欲的な学生の受講を希望する。
〔教科書〕プリント

フランス語 F

加 藤 節 子

やさしいテキストを使ってフランス文学史を読む。17世紀から始めて19世紀頃までの文学とその社会背景を概観していく予定である。時間があれば大作家や詩人たちの作品の抜粋を読んで作品鑑賞も併せてやってゆきたい。

〔教科書〕プリント

フランス語 F L L (初級)

遠 山 博 雄

はじめてフランス語を学ぶ学生については、発音練習と基本文型の反復修得を中心に勉強していきます。すでに通り文法を終えている学生については、まず初等の知識を口と耳で定着させてから先に進みます。いずれにせよ声を出し、耳を慣らすことから始めます。ビデオ等も活用し、簡単な会話ができるようになることを目的とします。

〔教科書〕大賀正喜『フランス文法耳から口へ』
(第三書房) ¥824

フランス語 F L L (初級)

M. マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。
〔教科書〕『Entrée Libre』

フランス語 F L L (中級)

M. マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聴きとり、及び表現の練習をします。
〔教科書〕『BIENVENUE EN FRANCE 1』

中国語 F

釜屋 修

中国語一年以上の学習体験をもつ人を対象とする。現代中国の世相を反映したミニ小説(一分間小説)を教材とし、読解力の強化を目標とし、あわせて日常基本会話の練習も行う。中国語と中国に関心を持つ諸君の参加を“熱烈歓迎”!
〔教科書〕釜屋 修・王麗珍共編『北京文学風景—一分間小説集』(三修社)二月刊行
価格未定

中国語 F L L (初級)

小川 隆

ビデオやテープを使って、会話と聴き取りの訓練をします。中国語 I 既習でいどの基礎力が必要です。耳と口がヘトヘトになるような授業にしたいと思っています。(もちろん皆さんの耳と口です!)

また、時には中国映画を鑑賞して、中国の社会や生活のようすをご紹介しますつもりです。

〔教科書〕皆さんの希望と実力に応じて、選びます。

中国語 F L L (中級)

戸張 嘉勝

中国語 F L L 初級を終えたもの又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。何本かの現代中国映画(ビデオ)を見て、ききとり及び書きとり練習をし、さらにその内容についての会話練習をする。

〔教科書〕必要に応じて教場でプリントを配りません。

スペイン語 F

ソニア・エレロ・ガルシア

正規授業の1・2年次でスペイン語を修了した学生を対象にフリートーキングの形式で、スペイン語圏世界の文化・政治・風俗・社会の現状を、新聞その他の教材を利用して授業を行います。

〔教科書〕特に指定しません。

スペイン語 F L L (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履修している学生の受講を望みます。

スペイン語 F L L (中級)

ホワン・ナバロ

前年度 L L 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語 F

杉山 秀子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力を身に

つけるための平易な読みもの——最新版のアガニョーク、諷刺漫画（クロコディル）、スポーツニクなどをさまざまな角度からとりあげ、同時に、現代ソ連社会の動向を探ってきたい。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

ロシア語 F L L（初級）

池田 ガリーナ

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕教場にて指示。

ロシア語 F L L（中級）

池田 ガリーナ

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独特な生の言いまわしや、日常会話のイントネーションや、平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に準備したい。

〔教科書〕教場にて指示。

英 語（海外演習）

この授業科目は、カリフォルニア大学・クイーンズランド大学・ブリティッシュコロンビア大学・エクセター大学における短期留学セミナーでの四週間に及ぶ現地演習を中心として行なわれる英語随意科目である。受講対象学生は、全学部の1年次生から卒業年次生までとする。

現地演習後に四大学より受講生の成績・評価等が出される。仏教学部、文学部、短期大学の受講生には単位認定がなされる。

国文学科

基礎教育科目

基礎国文学 (高田 知波)	79
基礎国文学 (畑 實)	79
基礎国語学 (若杉 哲男)	79
基礎中国文学 (中村 璋八)	79

専門教育科目

国文学概論 (水原 一)	79
国語学概論 (木村 晟)	79
国文学講読 I (村上 光徳)	80
国文学講読 I (高橋 文二)	80
国文学講読 II (岩佐 美代子)	80
国文学講読 II (田中 徳定)	80
国文学講読 III (林 達也)	80
国文学講読 III (富士 昭雄)	80
中国文学講読 (篠原 壽雄)	80
国語学研究 (木村 晟)	80
国語学研究 (田中 章夫)	81
国語学研究 (長尾 勇)	81
国文学史 (上代) (遠藤 宏)	81
国文学史 (中古) (神野藤 昭夫)	81
国文学史 (中世) (村上 光徳)	81
国文学史 (近世) (林 達也)	81
国文学史 (近代) (高田 知波)	81
国語学演習 I (木村 晟)	81
国文学演習 I (上代) (小野 寛)	82
国文学演習 I (中古) (高橋 文二)	82
国文学演習 I (中古) (田中 徳定)	82
国文学演習 I (中世) (水原 一)	82
国文学演習 I (中世) (村上 光徳)	82
国文学演習 I (近世) (林 達也)	82
国文学演習 I (近世) (富士 昭雄)	82
国文学演習 I (近代) (片岡 懋)	82
国文学演習 I (近代) (高田 知波)	83
国文学演習 I (近代) (畑 實)	83
国語学演習 II (木村 晟)	83
国文学演習 II (上代) (小野 寛)	83
国文学演習 II (中古) (高橋 文二)	83
国文学演習 II (中古) (田中 徳定)	83
国文学演習 II (中世) (水原 一)	83
国文学演習 II (中世) (村上 光徳)	83
国文学演習 II (近世) (林 達也)	84
国文学演習 II (近世) (富士 昭雄)	84
国文学演習 II (近代) (片岡 懋)	84
国文学演習 II (近代) (高田 知波)	84

国文学演習 II (近代) (畑 實)	84
国文学研究 (片岡 懋)	84
国文学研究 (畑 實)	84
国文学研究 (村上 光徳)	84
国語学史 (田中 章夫)	84
言語学概論 (飯島 周)	85
上代文学講読 (小野 寛)	85
近代文学講読 (高田 知波)	85
上代文学 (小野 寛)	85
中古文学 (原岡 文子)	85
中世文学 (水原 一)	85
近世文学 (富士 昭雄)	85
近代文学 (片岡 懋)	85
近代文学 (高田 知波)	86
国文学特講 I (近藤 瑞男)	86
国文学特講 I (延広 真治)	86
国文学特講 II (岩佐 美代子)	86
国文学特講 III (神野藤 昭夫)	86
国文学特講 IV (牧野 和夫)	86
中国文学 (中村 璋八)	86
中国文学演習 (中村 璋八)	86
中国文学概論 (篠原 壽雄)	87
仏教概論 (山内 舜雄)	87
東洋思想研究 (館野 正美)	87
日本史概説 I (古代・中世) (渡辺 直彦)	87
日本史概説 II (近世・近代) (木槻 哲夫)	87
日本文化史 II (廣瀬 良弘)	87
書道概論 (書論・鑑賞) (谷村 義雄)	87
書道史 (谷村 義雄)	87
書道実習 I (金子 卓義)	88
書道実習 II (富岳 智猛)	88
書道実習 III (那須 隆吉)	88
美術史概説 (中島 亮一)	88
現代美術 (宮崎 克己)	88
編集実務 (長谷川 孝)	88
英米文化 (荒井 良雄)	88
日本民俗学 (谷口 貢)	89

国 文 学 科

基礎教育科目

基礎国文学

高 田 知 波

日本の近代小説を〈学問〉として読む、ということの基礎的な学習が目的である。素材としては『舞姫』『伊豆の踊子』『ノルウェイの森』をとりあげる予定。

〔教科書〕森鷗外『阿部一族・舞姫』（新潮文庫）
川端康成『伊豆の踊子』（新潮文庫）
村上春樹『ノルウェイの森』（講談社文庫）

基礎国文学

畑 實

明治の文学評論

明治期に出た代表的な評論を読んでいく。その結果、近代文学評論の発展の跡をたどっていく事になる。テキストはプリントを配布する予定。

基礎国語学

若 杉 哲 男

直接は、文語を中心とする国文学法への考察を目的とするが、それだけにとどまらず、広く言葉に関する諸問題を取上げて、国語への関心と知識を深めようとする。

〔教科書〕和田利政・森 昇一・岡崎正継著
『国文学要説 文語篇』（桜楓社）
¥1,442

基礎中国文学

中 村 璋 八

中国の先秦時代より唐・宋時代に至る散文・韻文、それに諸子百家を始めとする思想的な作品を歴史的な背景を考えながら解説し、それによって中国古典の読解力を養い、また、漢字の構成、中国の風土や習慣なども説明し、それらの中国の文化が如何に日本に伝来し、日本の文化一般に影響を及ぼしたかも述べて行く。この講義によって中国古典・日本の漢詩文が抵抗なく読めるようにしたい。

〔教科書〕『中国思想文学通史』（明治書院）
¥1,600

専門教育科目

国文学概論

水 原 一

国文学の領域、種類、思想的・芸術的理念について国文学史の視野から各種作品の実例に触れつつ講じ、研究課題・研究法等について概観する。

〔教科書〕麻生・松田・市古著『日本文学概論』（秀英出版）¥1,900

国語学概論

木 村 晟

国語学は特殊言語学の一つである。従って一般言語学の研究成果が国語学の研究にも応用されることが当然あり得る。しかしながら、一方国語には他の諸言語に見られない多くの特徴がある。そのために国語学独自の研究分野や研究方法が存することも事実である。—— こういう観点から本年は国語学全般について講ずるとともに、文字論

や文体論に重点を置く。

〔教科書〕 福島邦道著『国語学要論』（笠間書院）
¥1,000

〔参考書〕 橋本進吉著『国語学概論』（岩波書店）
時枝誠記著『国語学原論』（岩波書店）
山田忠雄著『国語学概論』（日大通信教育部）

国文学講読 I

村上光徳

『平家物語』の代表的な句を選んで読み、本文を通して平家物語という作品を十分鑑賞する。そして軍記物語と呼ばれるジャンルの問題や平家物語の文学史的評価、または成立の問題、作者の問題、群がる諸異本の問題、つまり、語りもの・読みものなどの問題、今後の研究方向等さまざまな問題を取りあげて多方面から平家物語を研究してゆく。

〔教科書〕 『平家物語抄』（桜楓社）

〔参考書〕 『平家物語全注釈』（角川書店）

国文学講読 I

高橋文二

『枕草子』の「ものづくし」の段を読み、平安朝文学の特質について考えてみたい。

〔教科書〕 校注『枕草子』（笠間書院）

国文学講読 II

岩佐美代子

讃岐典侍日記 堀河天皇に愛され、その病と死をみとった女房の日記を講ずる。本記は地味ながら愛情に満ちたすぐれた作品であり、中古日記から中世日記への転換期に当る興味深い性格を備えている。

〔テキスト〕 今小路覚瑞・三谷幸子共著

『校註讃岐典侍日記』

（笠間書院）¥1,000

〔参考書〕 森本元子著『讃岐典侍日記全訳注』

（講談社学術文庫 193）¥320

国文学講読 II

田中徳定

『大鏡』を購読し、その中に描き出された平安貴族社会について考える。

〔教科書〕 『大鏡』（角川文庫）

国文学講読 III

林達也

井原西鶴の『懐硯』を精読して、西鶴の雑話ものの世界に親しむことにしたい。

〔教科書〕 田崎治泰『校註懐硯』（笠間書院）

国文学講読 III

富士昭雄

井原西鶴の『西鶴織留』を講読し、西鶴文学の特質を考察する。

〔教科書〕 加藤裕一編『西鶴織留』（桜楓社）

中国文学講読

篠原壽雄

古典文学作品中のきわめて代表的なものを学習して、その精華を味読する。訓読法に精通することを主眼にしたいが、韻文は中国音にて読むことにつとめたい。

〔教科書〕 『詩文精粹』（明治書院）¥1,300

〔参考書〕 その都度紹介したい。

国語学研究

木村 晟

院政期書写の『唐大和上東征伝』の国語学的研究を行なう。テキストとしては比較的容易に訓読可能な『観智院甲本』と『観智院乙本』の本文を

対照せしめて、両本の訓法の特徴を学び、院政期の語彙・語法・仮名遣い・字体等について、その研究方法と解説を加える。『類聚名義抄』や『色葉字類抄』の古辞書の類は常に参照するし、他の訓点資料も必要に応じて採り挙げる。

〔教科書〕プリントを用意する。

〔参考書〕『唐大和上東征伝』（甲本の影印は1931年の古典保存会版、乙本の影印は1963年の東大寺版）

国文学史(中古)

神野藤 昭 夫

百人一首を話題にとりあげながら、中古文学の特質と拡がりについて把握を試みたい。

〔教科書〕『百人一首古注抄』（和泉書院）

¥1,751

国語学研究

田 中 章 夫

現代日本語の形成過程を、江戸語にさかのぼって考察する。江戸語から東京語への変遷の様相と、東京語を基盤にして標準語がかたちづくられてくる過程などが、中心の課題となる。

〔教科書〕田中章夫『標準語』（誠文堂新光社）

国文学史(中世)

村 上 光 徳

中世文学史のジャンル中、本年はとくに「随筆、日記、法語」一方便記、徒然草、建春門院中納言日記や道元、日蓮の法語集を中心に講ずる。

国語学研究

長 尾 勇

1. 国立国語研究所編「日本言語地図(LAJ)」
300面は世界的にも高い水準にある方言地図といえる。この「LAJ」の数十面をとりあげて、方言分布にいろいろのスタイルのあることを知り、方言地図の読み方を学ぶ。
2. テレビ・ラジオの影響、教育の普及、交通網の発達等により、日本各地の貴重な文化財である方言は次第に消滅しつつある。方言の記録はここ数年が最後のチャンスである。学生諸君が独自に郷里などで実施し得る科学的な方言調査法を学ぶ。

〔教科書〕徳川宗賢編『日本の方言地図』

中公新書533（中央公論社）¥620

国文学史(近世)

林 達 也

近世文学を、歴史状況との関連、表現論・文体論・作家論等にわたって検討する。本年は、近世小説の主人公の描かれ方を中心にして考えていくことにする。教材は、教場において、その都度配布する。

〔参考書〕原 道生・林 達也編『日本文芸史』
〔第四巻 近世〕（河出書房）

国文学史(近代)

高 田 知 波

近代文学の黎明期から成立期までの文学史を、小説を中心にして概観する。

〔教科書〕山田有策編『近代文学I』（学術図書出版社）¥1,957

国文学史(上代)

遠 藤 宏

文学の発生から奈良時代末の文学まで、上代の文学の展開を具体例に基いて通観する。

〔教科書〕小野 寛・金井清一編『年表資料 上代文学史』（笠間書院）

国語学演習I

木 村 晟

中世末から近世初頭の言語の特徴をよくあらわしている『禅籍抄物』の中で、特に本年は『句双

紙抄』(カナ抄)を採り挙げて、これの語彙・語法・表記等の方面から国語史に考察する。テキストは明暦板本を中心にし、他の諸本との比較も行なう。また漢籍系抄物との違いについても追究する。さらにこれらの「抄物」の環境をとりまく「辞書」との関連にまで考察を深めたいと考えている。

〔教科書〕プリントを用意する。

〔参考書〕講義中に紹介する。

国文学演習Ⅰ(上代)

小野 寛

『万葉集』から作品を選んで、各自一首ずつ担当し、本文の異同、諸注釈の検討、用語の調査研究など、徹底的によみ込んでゆく。今年度は、万葉集巻一研究とする。

〔教科書〕鶴久・森山 隆編『万葉集』(桜楓社)

〔参考書〕小野 寛著『新選万葉集抄』(笠間書院)

国文学演習Ⅰ(中古)

高橋 文二

『源氏物語』の「野分」の巻を読み、王朝文学世界の特徴を考える。古注釈の検討、本文の異同の確認、用語の通時的・共時的調査などを演習に臨む基礎的な作業とする。作業は、時間をかけた、厳密なものでありたい。

〔教科書〕(影印本)源氏物語『野分』(新典社)

国文学演習Ⅰ(中古)

田中 徳定

王朝詩歌の詞華集である『和漢朗詠集』を「私注」等の注釈書によって読解し、あわせて後世の文学に与えた影響について考察する。

〔教科書〕新潮日本古典集成『和漢朗詠集』(新潮社) ¥2,300

国文学演習Ⅰ(中世)

水原 一

中世女流日記としても、また歌集としても珠玉

の名篇と称すべき「建礼門院右京大夫集」を研究し、解釈・鑑賞を発表して批評を交換し、作者の人物や時代背景に対しても理解を深めたい。

〔教科書〕『建礼門院右京大夫集』(桜楓社)

国文学演習Ⅰ(中世)

村上 光徳

『保元物語』の研究。とくに古態と言われている『半井本』を中心に史実と物語の関係、登場人物の人間像の考察、合戦の推移や各諸本の関連等について深く追求する。

国文学演習Ⅰ(近世)

林 達也

上田秋成の演習。本年は、初期の『諸道聴耳世間猿』を読むことにする。尚、受講学生の数によっては、別の演習方法をも併せ行うことも考えている。

国文学演習Ⅰ(近世)

富士 昭雄

浅井了意の怪異小説『伽婢子』の読解を通して、近世小説の特色を考察する。

〔教科書〕教場でプリントを配布する。

国文学演習Ⅰ(近代)

片岡 懋

川上眉山、泉鏡花、国木田独步、夏目漱石、木下杢太郎、山本有三、菊地寛、堀辰雄らの小説、戯曲からそれぞれに幾つかを選び、その作品の内容と文学史の流れの中に於ける作家なり作品なりの位置についても考察する。取り扱う作品については最初の時間に示す。

国文学演習Ⅰ（近代）

高田知波

〈戦後前期の小説〉を演習テーマにする。敗戦から昭和30年代末までの約20年間に書かれた代表作・問題作を読んでいく。

〔教科書〕教場で指示する。

国文学演習Ⅰ（近代）

畑 實

大正期の歴史小説

大正に出た森鷗外、芥川龍之介、菊池寛などの歴史小説を取りあげて演習を行う。取りあげる作品演習方法等は最初の時間に指示する予定。

〔教科書〕『日本の文学』3 森 鷗外（二）

（中央公論社）¥1,550

『羅生門・鼻』『地獄変・偷盗』

（新潮文庫）各¥280 『恩讐の彼方に

・忠直卿行状記』（岩波文庫）

国語学演習Ⅱ

木村 晟

「連歌」の国語学的研究を行なう。宗祇・肖柏・宗長・心敬等の連歌（特に百韻）を採り挙げることによって、連歌の用語の基本的な枠を把握し、それらの語彙が和歌の用語と如何なる異なりを示すものであるか、また和歌と同一の用語でありながら如何に連歌独特の用法を示すものであるかを、特に語法面を重視して考察する。さらに助詞・助動詞の辞的なものが、連歌と言う一定の式目の範囲内で、どのように自由にその機能を発揮しているかということも追究したい。併せて卒論指導も行なう。

〔教科書〕プリントを用意する。

〔参考書〕『水無瀬三吟百韻・湯山三吟百韻本文と索引』（笠間索引叢刊92）

国文学演習Ⅱ（上代）

小野 寛

記紀・風土記・万葉集など上代作品から名品を選んでよんでゆく。とり上げる作品は、開講時に

相談してきめる。後期には、各自が卒業論文に選んだテーマに関して研究発表し、みんなで考え、揉み合いながら、それぞれの卒業論文への結実を図る。

国文学演習Ⅱ（中古）

高橋文二

『古今和歌集』を読み、王朝文学世界の特徴について考える。併せて卒論の指導をかねる。

〔教科書〕『古今和歌集』（新典社叢書）¥1,800

国文学演習Ⅱ（中古）

田中徳定

『伊勢物語』を読みながら、歌物語の世界について考究する。併せて卒業論文指導も行う予定。

〔教科書〕『伊勢物語』（明治書院）¥1,100

国文学演習Ⅱ（中世）

水原 一

中世の芸能の中でも特異な存在であった「幸若舞曲」の詩章を解釈・研究し、題材に投影する軍記・説話等との関連について考察し、各自の研究を発表し批評する事によって視野を広め、かつ研究方法の実践を卒業論文に反映させ得るよう指導助言する。

〔教科書〕授業時に指示する。

国文学演習Ⅱ（中世）

村上光徳

『承久記』の研究。とくに慈光寺本を中心に他本との比較検討、合戦譚の異同・地理的な問題及び登場人物の動き、作者の問題等をも合わせて考察する。

〔教科書〕村上編『承久記』『慈光寺本全』（桜楓社）¥2,800

国文学演習Ⅱ（近世）

林 達 也

近世文学の作品を読み、作品の読解方法を身につけることを目的とする。読む作品は、開講時に、学生と相談のうえ、きめる。

国文学研究

片 岡 懋

北村透谷、島崎藤村、国木田独歩などの作品を中心に、浪漫主義文学の出発からその展開について考察する。

国文学演習Ⅱ（近世）

富 士 昭 雄

受講生の卒業論文のテーマに関する近世文学の演習。併せて卒業論文の指導をする。
〔教科書〕教場でプリントを配布する。

国文学研究

畑 實

明治初期の文学論
明治十年代に出た作品の序や坪内逍遙の「小説神髓」二葉亭四迷の「小説總論」その他の評論などを読み、それを通して近代小説成立期の問題を考えてみたい。
〔教科書〕『現代日本文学大系1 政治小説・坪内逍遙・二葉亭四迷集』（筑摩書房）

国文学演習Ⅱ（近代）

片 岡 懋

夏目漱石、志賀直哉、横光利一の作品を考察しながら併せて卒業論文についての指導助言を行う。取り扱う作品については最初の時間に示す。

国文学研究

村 上 光 徳

中古の文学・作者の中世の批評書『無名草子』の後半、わが国平安時代の文学を築いた清少納言、紫式部、和泉式部等の女性批評を中心に読む。
本書の作者は平安時代末から中世にかけて長く宮仕えをして宮廷生活の馴者として自他ともに許された、と自称する八十三歳の老尼と仮託して書いた。その真の作者の問題も考えてみたい。
〔教科書〕『昭和校注 無名草子』（武蔵野書院）

国文学演習Ⅱ（近代）

高 田 知 波

学生の卒業論文テーマと関連させながら日本の近代小説を対象にした演習を行う。
〔教科書〕教場で指示する。

国 語 学 史

田 中 章 夫

主として、近代の文法学説の展開を、文法事象の観察を通じて考察する。
〔教科書〕重松信弘著『国語学史綱要』（武蔵野書院）
〔参考書〕松村 明編『日本文法大辞典』（明治書院）
北原保雄ほか著『日本文法事典』（有精堂）

国文学演習Ⅱ（近代）

畑 實

明治期の小説
明治に出た主要な作品を取りあげて演習を行う。またあわせて卒業論文の指導も行う予定。取りあげる作品、演習の方法等については最初の時間に指示する。

言語学概論

飯島 周

言語研究の歴史、方法、分野について略述し、“ことばの仕組み”や“ことばのはたらき”について具体的な分析を試みる。日本語を主な対象とするが、初歩的な英文法の知識を持つことが望ましい。

〔教科書〕特に指定しない。

〔参考書〕V. マテジウス『機能言語学』
(桐原書店) ¥2,890

上代文学講読

小野 寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。

『万葉集』をよむにあたって、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでゆく。

〔教科書〕小野 寛著『新選万葉集抄』
(笠間書院)

〔参考書〕金井清一・小野 寛編『年表資料
上代文学史』(笠間書院)

近代文学講読

高田 知波

“女性像”を視座として近代文学作品を読んでいく。

〔教科書〕高田知波他編『近代文学 ヒロインの系譜』(双文社出版) ¥2,000

上代文学

小野 寛

上代は日本文学の草創期である。日本文学のすべての原点である。説話文学として『古事記』や『日本書紀』の神話・伝説がある。『古風土紀』の地名起源説話などもおもしろい。『古事記』『日本書紀』にはまた、「うた」が多く含まれている。古代人たちが曲節をつけ、所作をつけ、楽

器を伴奏に唱ったものである。これを『記紀歌謡』という。そして「うた」はやがて書記されるようになり、記載文学としての「うた」の集である『万葉集』が登場する。これら上代文学の神髄に触れてみよう。

〔教科書〕適宜指定し、あるいはプリントを使う。

中古文学

原岡 文子

『源氏物語』若紫の巻を精読する。最もポピュラーな巻の一つであると同時に、『源氏物語』の核となる重い問題を孕みつつ、様々な謎を湛えるものでもある当該巻を、研究史を踏まえつつ読み解きたい。

〔教科書〕原岡文子校注『源氏物語 若紫』
(有精堂) ¥2,060

中世文学

水原 一

『とはずがたり』(後深草院二条の日記)を読み、題材となった作者の生涯・運命・人間関係について考察し、日記文学としての特色について考えてみたい。

〔教科書〕富倉徳次郎『とはずがたり』
(筑摩書房)

近世文学

富士 昭雄

近世の俳文の講読を通して、俳諧文学の特質を考察する。芭蕉の代表的な俳文『幻住庵記』、也有的『鶉衣』、蕪村の俳文などを考察の対象とする。

〔教科書〕中村俊定等編『近世俳文集』(笠間書院) ¥824

近代文学

片岡 懋

夏目漱石の「坑夫」と「三四郎」以後の作品について考察する。

近代文学

高田知波

太宰治を読む。作品は『人間失格』『お伽草紙』『斜陽』『ヴィヨンの妻』をとりあげる予定。
〔教科書〕『人間失格』『お伽草紙』『斜陽』『ヴィヨンの妻』
(いずれも新潮文庫)

国文学特講Ⅲ

神野藤昭夫

平安から鎌倉時代にかけて数多く生み出されながら散佚していった物語の世界について考察する。
〔教科書〕岩波文庫『王朝物語秀歌選』上下
(岩波書店)

国文学特講Ⅰ

近藤瑞男

『菅原伝授手習鑑』をとり上げる。菅原道真流罪という政治的事件を、白太夫とその三つ子の子息梅丸、松丸、桜丸の運命とからめて描く、時代浄瑠璃の傑作である。人形浄瑠璃史上でも、合作制度によって生み出されたスケールの大きさでは群をぬくこの作品は、現在の歌舞伎や文楽でもたびたび上演される「賀の祝い」「車引」「寺子屋」などの名場面をふくんでいる。ビデオによる古典芸能の理解なども行いたい。

〔教科書〕景山正隆編『菅原伝授手習鑑』(笠間書院) ¥1,000

国文学特講Ⅳ

牧野和夫

中世文学作品(とりわけ説話・縁起など)は、想外に「動いて」いた。書物として、文章として、唱導としてなどなど、いろいろの「形」で動いてやまなかったのである。そうした「動き」を、資料を中心にして捉えていこうと思う。

〔参考書〕追って指示する。

中国文学

中村璋八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』(明德出版) ¥2,170

国文学特講Ⅰ

延広真治

説話文学としての落語の形成過程を、咄本との関連において考察する。

〔教科書〕延広真治『落語はいかにして形成されたか』(平凡社) ¥2,480

国文学特講Ⅱ

岩佐美代子

『千載和歌集』。中世最初の勅撰集であり、新古今集を生み出す基盤となったこの集を演習形式で読みたい。注釈書は無いに等しいので、自力による和歌読解の力を養い、多くの作品を読みなれる事を目的とする。古語辞典(手持ちのものでよい)持参の事。

〔教科書〕久保田淳校注『千載和歌集』(岩波文庫) ¥620

中国文学演習

中村璋八

中国の風土の中から自然に発生した漢民族の智慧の結晶でもある易の書は、その後、儒家の根本経典、五経の第一に位置付けられ、「易経」として重要視され、長い時代、多くの人々に読まれた。この易は、占卜の書であると共に中国人の世界観、人生観をも記したものであり、中国の思想、宗教、文学にも大きな影響を及ぼしている。それだけで

なく、日本の文学、宗教、習俗、建築など広い範囲に、その影響が見られる。この「易経」を読んで行き、中国人の考え方を究めると共に中国古典、日本の漢詩文の読解力をも養って行きたい。

〔教科書〕プリント

中国文学概論

篠原 壽雄

中国文学全般にわたって概観できるようにつとめる。このために中国文学の詩賦文章を中心にして、その時代相と文人と、その作品を学ぶ。なお、日本文学との関連作品なども併せ講じた。

〔教科書〕塩谷 温著『中国文学概論』（講談社文庫）¥900

仏教概論

山内 舜雄

先づ仏陀観・仏身論の発達・形成という仏教の基本構造を詳説し、次いで各宗の教義を、概ね歴史的展開に沿って詳述する。すべてノート講義とし、教科書を使用しない。

東洋思想研究

館野 正美

本年度は、中国古代思想における運命論の問題について講じてゆきたい。前半には、孔子孟子・墨子・荀子らの考え方を概観し、後半に至って、易経の哲学思想を中心に勉強する。

易占の持つ哲学的意義を明らかにしてゆきたいと考えている。

〔教科書〕プリント使用

〔参考書〕授業中に紹介します。

日本史概説Ⅰ（古代・中世）

渡辺 直彦

平安時代の諸様相について概観する。

〔教科書〕『日本の歴史5 王朝の貴族』

〔中公文庫〕（中央公論社）¥640

日本史概説Ⅱ（近世・近代）

木 槻 哲 夫

明治期を中心に、近世・近代にわたる日本社会の発展を概観し、併せて、新たな研究視角・問題点の発見に資するように努めたい。教科書は特定しない。

〔参考書〕『地方史研究必携』（岩波書店）

¥4,800

日本文化史Ⅱ

廣瀬 良 弘

日本文化の流れを概観し、とくに北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけての文化について詳述する。

書道概論（書論・鑑賞）

谷 村 義 雄

書の基礎である文字すなわち最古の漢字である甲骨文、それに続く金文と更に各體の変遷、及び文字の使用について概観する。いわゆる文字の文化史を講じる。

書法の成立とその歴史的展開について考察する。歴代書法家の事跡とその書法の特長を検討する。以上、三つの角度から書道の意義を説明してゆくことを本講義の柱とする。

〔教科書〕特になし。その都度プリントを配布。

〔参考書〕藤枝 晃「文字とその文化史」（岩波書店）

書道史

谷 村 義 雄

文字の発生から書體の変遷、書風の変化、書法の成立の過程を、まず中国に於ける書の歴史を辿り、また日本での独自の展開を概観する。本学では書道科の教職課程として開講しているので、書道史を中心に講義する。従って美術史も内容は書道史の延長とする。

〔参考書〕神田喜一郎著『中国書道史』

（岩波書店）¥5,800

『書の歴史』（二玄社）¥1,800

書道実習Ⅰ

金子卓義

書の歴史を探りながら、古典の臨書を学び、表現技術の習得と、書の理解を深める。前半（9月頃まで）は楷、行、草の各体の古典を広く学び、後半は中国北魏時代の楷書『高貞碑』を細かに深く研究する。

〔教科書〕『書道Ⅰ』（高校用教科書）
（教育出版）
『高貞碑』（書学名蹟選）
（日本書道資料棟）

書道実習Ⅱ

富岳智猛

代表的な古筆である高野切古今集・関戸本古今集・寸松庵色紙などの臨書を基として、かなの単体・連綿体に習熟し、表現力・鑑賞力を養い、かなの成立・発達の概略、古筆の基礎知識を学び創作へ導く。

〔教科書〕『書の古典美』（書芸文化新社）
『字典かな』（笠間書院）

書道実習Ⅲ

那須隆吉

伝統芸術である書には、多様なジャンルがあるが、本講では篆書及び篆刻を中心に実習したい。篆書、篆刻は一般的になじみのうすい分野であり、平常日にすることが少ないが、書の原点とも言えるものであり書を理解する上で大変重要である。書体に於ける第一の典型であるといわれる篆書の古典を概観し、その特質を理解すると共に基礎的技法の習得に努める。又篆刻に於てはその発生から今日までの歴史を概観し、鑑賞力を養うと共に基礎的技法の習得に努める。

〔教科書〕コピーを配布。
〔参考書〕適宜紹介する。

美術史概説

中島亮一

昨年度は日本の美術を古代（藤原京時代から平安時代末期まで）を中心にみて来た。それをうけ

今年度は中世から近世の一部（鎌倉時代から江戸時代前期まで）に重点をおいて、スライドや文書・記録類も併用して考察する。

〔教科書〕辻 惟雄他編著『美術史〈日本〉』
（近藤出版社）¥2,060

〔参考書〕適宜指示する。

現代美術

宮崎克己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題（色彩、空間など）、表現内容の問題（象徴性、思想など）、社会的問題（展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など）等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

編集実務

長谷川 孝

情報社会の今、多様な情報を主体的に選択し活用できる力が求められ、さらに自分から情報を発信できる能力も大事です。自分の中にある知識や体験、意見や批判、感動や思いなどを、さまざまな社会の出来事や状況との関係の中でしっかりと掴みとり形を与えて、他者に伝わるように表現することです。この講義では、物書き・編集者としての私の体験を語りながら、文章と印刷による表現（メディア）の担い手に必要な知識・技能や心構えと、なぜ・なにを・どう「伝える」のか、を考えていきます。また、個人のミニ新聞（雑誌）を作ってもらい、作り方とともに「ものごとを見る目」を育ててほしいと思っています。

〔参考書〕長谷川孝編著『新聞をつくるう』
（さ・え・ら書房 ¥1,236）を随時、
使用します。

英米文化

荒井良雄

イギリスの文化を、歴史、思想、教育、演劇、映画、音楽、美術などを中心に、日本文化との比較を考えながら講義します。

〔教科書〕荒井良雄著『イギリス演劇と映画』
（新樹社）¥2,000

日本民俗学

谷 口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕 必要に応じて紹介する。

英米文学科

基礎教育科目

英文学概論 (高野 正夫)	91
米文学概論 (杉浦 銀策)	91
基礎英語 I A (東 雄一郎)	91
基礎英語 I A (河崎 征俊)	91
基礎英語 I A (高野 正夫)	91
基礎英語 I B (J. S. Lander)	91
基礎英語 I B (N. Readdy)	91
基礎英語 I B (R. M. Baxter)	92
基礎英語 II A (東 雄一郎)	92
基礎英語 II A (河崎 征俊)	92
基礎英語 II A (高野 正夫)	92
基礎英語 II B (J. S. Lander)	92
基礎英語 II B (N. Readdy)	92

専門教育科目

英語学概論 (大沢 一雄)	92
英語音声学 (坂本 武)	93
(平成元年度以前入学生：音声学)	
英作文 I (東 雄一郎)	93
英作文 I (高野 正夫)	93
英作文 I (佐藤 千春)	93
英作文 I (坂本 武)	93
英文学史 I (河崎 征俊)	93
英文学史 II (中岡 洋)	93
米文学史 (佐藤 千春)	93
英語史 (岡田 尚)	94
英米語学演習 (英作文 II) (佐藤 千春)	94
英米語学演習 (英作文 II) (河崎 征俊)	94
シェイクスピア (高松 雄一)	94
(平成元年度以前入学生)	
英文学演習 I (河崎 征俊)	94
英文学演習 II (荒井 良雄)	94
英文学演習 III (荒井 良雄)	94
英文学演習 IV (高松 雄一)	95
英文学演習 V (高野 正夫)	95
英文学演習 VI (中岡 洋)	95
英文学演習 VII (高松 雄一)	95
英文学演習 VIII (中岡 洋)	95
米文学演習 I (杉浦 銀策)	95
米文学演習 II (東 雄一郎)	95
米文学演習 III (佐藤 千春)	95
米文学演習 IV (田中 剛)	96
米文学演習 V (土岐 恒二)	96
米文学演習 VI (佐藤 吉介)	96

英米演劇演習 (荒井 良雄)	96
英文学特講 I (石原 孝哉)	96
英文学特講 II (高野 正夫)	96
英文学特講 III (高野 正夫)	96
英文学特講 IV (中岡 洋)	96
英文学特講 V (高松 雄一)	97
英文学特講 VI (丸小 哲雄)	97
米文学特講 I (東 雄一郎)	97
米文学特講 II (杉浦 銀策)	97
米文学特講 III (山縣 敏夫)	97
米文学特講 IV (田中 剛)	97
米文学特講 V (佐藤 吉介)	97
英米演劇特講 (落合 和昭)	97
英米語学演習 (言語学) (大沢 一雄)	98
英米語学演習 (英語史) (岡田 尚)	98
英米語学演習 (英文法) (岡田 尚)	98
英米語学演習 (英会話) (W. Hubbard)	98
英米語学演習 (英会話) (N. Readdy)	98
英米語学演習 (英会話) (B. Natusch)	98
英米語学演習 (英会話) (R. M. Baxter)	98
英米語学演習 (音声学) (坂本 武)	98
英米文化 (荒井 良雄)	99
時事英語 (大沢 一雄)	99
商業英語 (町井 靖)	99
ラテン語特講 (野島 利彰)	99
日本文化史 II (廣瀬 良弘)	99
現代美術 (宮崎 克己)	99

英 米 文 学 科

基礎教育科目

〔教科書〕 教場にて指示します。

〔参考書〕 未 定。

英文学概論

高 野 正 夫

英文学鑑賞研究に必要な時代背景，精神史的背景，そして主要な文学観を解説しながらイギリス文学の特質について述べていきます。

〔教科書〕 教場にて指示します。

基礎英語 I A

高 野 正 夫

さまざまな英文を読み，そしてテープを使いながら，総合的な英語力の向上を図るつもりです。

〔教科書〕 教場にて指示します。

米文学概論

杉 浦 銀 策

アメリカ文学入門の授業。アメリカの歴史と文学の相互関係について分かり易く解説しながら，講義を行なう。テキストは無し。

基礎英語 I B

J. S. Lander

This class will focus on listening skills (50%) and speaking skills (50%). The text is video-based and interesting for young people. Grading is based on ACTIVE PARTICIPATION IN CLASS.

Textbook : "CONVERSATION FOR INTERNATIONAL COMMUNICATION" -KINSEIDO-

基礎英語 I A

東 雄一郎

平易な英文を通じて英語力を高める。言うまでもなく予習は必須。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示します。

基礎英語 I B

N. Readdy

In the first semester, we will be using one of the textbooks in the English 900 Series. Emphasis will be placed on grammar, sentence structure, substitution drills and listening /comprehension skills. Group and individual participation is required.

In the second semester, we will be studying in preparation for the STEP Test level 3. Emphasis will be placed on pronunciation, intonation and individual speaking. The STEP Test is divided into two sections ; listening and speaking. This class will concentrate on the speaking part only as listening skills should have improved after the first semester.

基礎英語 I A

河 崎 征 俊

英語の基礎力の向上をねらいとします。したがって，Reading，Translation，Hearing，Composition などを中心とした総合的学習を行ないます。予習・復習を欠かさないことが大切です。

There will be two examinations during the schoolyear and students are required to attend both to receive a grade.

Textbooks ; 1st Semester. To be chosen later depending on the ability of the class as a whole.
2nd Semester. All materials will be supplied by the instructor.

基礎英語 I B

R. M. Baxter

This class will cover the four basic skills of language comprehension, using various methods to achieve efficiency in practice. Students will be expected to try to understand and communicate in English. This class will be challenging and educational.

〔教科書〕開講時に指示

基礎英語 II A

東 雄一郎

平易な英文を通じて英語力を高める。言うまでもなく予習は必須。

〔教科書・参考書〕開講時に指示します。

基礎英語 II A

河 崎 征 俊

英語の基礎力から応用力への向上をねらいとします。高度な英文構造の把握や、内容及び思考を必要とする Composition の演習を行ないます。予習・復習に努めて、積極的な学習を心がけることが大切です。

〔教科書〕教場にて指示します。

〔参考書〕未 定。

基礎英語 II A

高 野 正 夫

現代のイギリス作家の文章を読みながら、さまざまな英語的表現や言いまわしについてもふれて

いくつもりです。

〔教科書〕教場にて指示する。

基礎英語 II B

J. S. Lander

This class will focus on listening and speaking skills. (50% listening / 50% speaking). The text will be video-based and interesting. Grading is based on ACTIVE PARTICIPATION in class.

TEXT : "CONVERSATION FOR INTERNATIONAL COMMUNICATION" -KINSEIDO-

基礎英語 II B

N. Readdy

Method and materials similar to that of 1st year students but on a more intermediate level.

〔教科書〕See content for 1st year students.

専 門 教 育 科 目

英語学概論

大 沢 一 雄

英語学とはどういう学問であるか、一口にいえば、それは、英語という言語を研究の対象とする学問であるから、言語について研究する学問すなわち言語学の一部である。すなわち、英語学は英語という言語を研究する言語学なのである。「英語学」が英語でEnglish philology とかEnglish linguistics といわれるのは、そのことをよく示している。

ところで、言語学は、音声学、音韻論、文法論、語彙(い)論、意味論、語源論、文体論、辞書編纂論、言語史等の諸部門に分かれる。したがって、英語学の研究も、結局これらの部門のどれかについておこなわれることになるのであるが、そういう各論的な研究に入る前に、英語学という学問について、英語という言語について、一般的、総論

的な知識をもつことも必要なことといわなければならない。「英語学概論」の講義は、英語学や英米文学を勉強しようという学生諸君のために、そのような概説的な知識を提供しようとするものである。

英語音声学

(平成元年度以前入学生：音声学)

坂本 武

言語学の一分野としての音声学は、当該言語学習の重要な基礎学問の一つである。本講義では、母音・子音・半母音についての調音音声学入門から、この科目に関する必須各論を講じる。音声記号のみをとりあげてみても、[w] や [r] をはじめとする初見のものが数多く出てくるので、十分注意して受講されたい。Tapeを併用して、nativesの発音に習熟してもらうよう配慮する。また、年間数冊のノート提出を求めるとともに、出欠およびassignmentsの提出は、いずれも重視する。過去6年間学習してきた英(米)語発音について、各自の積極的な見直しが多分必要となろう。さて、[fənɛfəks]は何と発音するか。
〔教科書〕教場にて指示する。

英作文 I

東 雄一郎

基本構文から応用へと、ある程度自己の感情、思想を自由に英語で表現できるようになるためのtrainingを行う。しかし、英作文はあくまでもfour skills of English learningの一つであることを忘れずに。毎回、授業の始まりから20分間ほどの時間は、数問の小テストにあて、それを出席にかえる。授業に対するpreparationは必要不可欠。

〔教科書・参考書〕開講時に指示します。

英作文 I

高野 正夫

英作文を書く時に比較的誤り易い例文を、文法的に見ていきながら、基礎的な英作文の力を養っていきます。

〔教科書〕教場にて指示します。

英作文 I

佐藤 千春

易しい英文の表現で、自分の考えを自由に書き記すことができるようになることを目指す。基礎力を十分に養ってもらいたい。テキスト、その他詳しい内容は授業開始の時に連絡する。

英作文 I

坂本 武

一般的散文、時事文および手紙文等について幅広く採りあげる積りである。積極的に受講してほしい。出欠は重視する。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学史 I

河崎 征俊

古代から中世をへて、ルネサンス及び18世紀までの英文学史を、時代背景、文芸思潮、作家、作品などの説明を中心に講義します。

〔教科書〕教場にて指示します。

〔参考書〕未定。

英文学史 II

中岡 洋

英文学は世界に冠たる作品を数多く産み出してきた。Wordsworth, Scott, Austenらの時代以降それらの作品を年代順に跡づけ、現代に至る。不滅の作品群にふれる喜びを共に味わいたい。

〔教科書〕荒牧鉄雄・岡地 嶺著『英文学読本』

(開文社) ¥1,800

米文学史

佐藤 千春

一般にアメリカの歴史は17c.から始まると言えるが、この地への植民がどんな夢を抱いてなされたものかという序論に始まり、ピューリタニズム、

18c.の合理主義、やがてロマン主義へと、歴史は時代の動向と文芸思潮をからませながら進んで行く。この流れにそって、どのような作家が、どのような精神で、どのような作品を書きあげたのかを探ってみる。講義はできるだけ作家、作品の羅列を避け、作家の中心思想、作品の主要テーマなどに焦点をしばり分析と解説を行いつつ、これを味わってみたい。

〔教科書〕井上謙治編『アメリカ文学史入門』
(創元社)

英語史

岡田 尚

今日の英語に親しんでいる人には他国語のような感じのする古英語の時代から、一千余年の間に、英語がどのように変化してきたか、その主要な流れを概観する。

〔教科書〕教室で指示する。

英米語学演習（英作文Ⅱ）

佐藤 千春

すでに英作文Ⅰで十分な基礎力が身についたとの想定で、ここでは応用の段階に入ってみる。作文だけでなく、読むことも時に応じて行いたい。テキスト、その他詳しいことは授業開始の時に連絡する。

英米語学演習（英作文Ⅱ）

河崎 征俊

短文から長文への応用力養成を主眼とします。予習、復習を欠かさず受講することが大切です。

〔教科書〕教場にて指示します。

〔参考書〕教場にて指示します。

シェイクスピア (平成元年度以前入学生)

高松 雄一

- 1) シェイクスピアの生涯と作品を概観する。
- 2) 当時の劇場と劇の構造について説明する。
- 3) シェイクスピアの詩および劇からいくつかを

選び、テキストを読んで考える。また適宜にプリントも使用する。

〔教科書〕*Scenes from Shakespeare, Volume II*
(英宝社)

英文学演習Ⅰ

河崎 征俊

14世紀の英詩人G. Chaucerの作品を読みます。今年は特に、詩人の初期の作品*The Book of the Duchess*を読みながら、習作期の特徴及び大陸文学との関係を研究する予定です。積極的に授業に参加し、自らの研究に役立てるよう、着実に地道な努力を望みます。作品は、A.C. Baughのeditionをコピーにして配布します。教科書・参考書も授業で使いますので、そろえておくこと。詳細は開講時に指示します。

〔教科書〕都留久夫編『チョーサーの「公爵婦人の書」を読む』(学書房) ¥1,500

〔参考書〕*A Chaucer Glossary*, ed. N. Davis
(Oxford U.P.)

英文学演習Ⅱ

荒井 良雄

5年をかけた朗読シェイクスピア全集の期間に作成した全37篇のシェイクスピア劇の抜粋集のプリントの購読を中心に、シェイクスピア人生観と全作品を貫く劇作上のテーマを探る。受講者はシェイクスピア全集を持つことが望ましい。

〔教科書〕プリント

〔参考書〕その都度指示する。

英文学演習Ⅲ

荒井 良雄

イギリスの文化(文学・演劇・映画・美術・音楽など)についてのCurrent Englishの演習。英文の資料に基づく講読と発表とディスカッションが中心になる。各自が関心を持っている分野とテーマで小論文にまとめあげる作業を重視する。

〔教科書〕プリント

〔参考書〕その都度指示する。

英文学演習Ⅳ

高松 雄一

James Joyce の短篇集 *Dubliners* より, 'The Dead' 他を読む。19世紀末から20世紀初頭におけるダブリンの人々の日常生活を扱ったもの。ジョイス初期の作品で, リアリズムの手法を基本にして書かれている。演習では厳密な訳読の訓練を行う。

〔教科書〕 James Joyce, *Dubliners* (南雲堂)
¥1,400

英文学演習Ⅴ

高野 正夫

1950年代に活躍した Philip Larkin を中心に, 現代詩人を読んでいきます。

〔教科書〕 教場にて指示します。

英文学演習Ⅵ

中岡 洋

Charlotte Brontë (1816-55) 作 *Jane Eyre* (1847) について勉強する。

英文学演習Ⅶ

高松 雄一

James Joyce, *A Portrait of the Artist as a Young Man* を読む。ジョイスは20世紀モダニズム文学運動の中心人物の一人で, さまざまな表現上の実験を試みた。この自伝的な小説は英語, 内容とも必ずしも容易ではないが, 本演習では厳密な訳読の訓練を行う。

〔教科書〕 James Joyce, *A Portrait of the Artist as a Young Man* (英潮社)
¥2,300

英文学演習Ⅷ

中岡 洋

Jane Austen (1775-1817) 作 *Northanger Abbey* (1818) について勉強する。

米文学演習Ⅰ

杉浦 銀策

Edith Wharton, *The House of Mirth* をテキストに用い, アメリカ小説の英語の読み方について厳しい訓練を行なう。邦訳はありません。

〔教科書〕 Edith Wharton, *The House of Mirth* (Bantam Classic) 価格は1,000円前後。駒大書房を通して20部を注文しておく予定。

米文学演習Ⅱ

東 雄一郎

二十世紀初頭のモダニズムから現在のポスト・モダニズムに到る, アメリカの詩人達の作品を読みます。特に前期はハート・クレインの作品を中心に読んで行くつもりです。海を愛したクレインは三十二歳でユカタン半島の東方海上に姿を消しました。その流星の生涯は, アステカの大神で明星神話と結びつく〈翼蛇神〉の破滅に類します。国際的モダニズムの洗礼を受けたクレインは逆にアメリカの土着性を強く意識した詩人でした。そしてクレインのアメリカニズムはポスト・モダニズムの詩人達に受け継がれています。霊性のアメリカを歌いながら, 物質文明の毒蛇にかまれたハート・クレインの自己破滅を端緒にアメリカ詩を考察します。

〔教科書〕 開講時に指示します。

〔参考書〕 同上

米文学演習Ⅲ

佐藤 千春

アメリカ文学史上, 1850年から1855年にいたる五年間は, "moment of adult health" と呼ばれ

る黄金時代であり、アメリカ文学が世界に誇る名作を続々と世に出した。「アメリカ・ルネッサンス」と呼ばれるのはこの時期のことである。ここでは、その代表的作家、エマソン、ホーソーン等を取りあげ、問題点を探ってみることにする。

テキストその他に関しては、授業開始の時に連絡する。

米文学演習Ⅳ

田 中 剛

二十世紀アメリカ文学の代表的な女性作家、ウィラ・キャザーの主要作品の一つ、『私のアントニア』を読む。使用する教科書はabridged版であるので、作品全体について解説する。

〔教科書〕 Willa Cather : My Antonia (金星堂)
¥880

米文学演習Ⅴ

土 岐 恒 二

劇作家アーサー・ミラーの代表作の一つ*Death of a Salesman* を取りあげて、まず作品を読んでから、作品論を教材にして文学(演劇)の批評の方法・視点・手続きを学ぶ。

〔教科書〕 西田 実編著『アーサー・ミラー／米文学セミナー双書27』(山口書店)
¥2,000

〔参考書〕 必要に応じて授業時に指示する。

米文学演習Ⅵ

佐 藤 吉 介

英文を修得するためアメリカ文学作品、例えば Mark Twain, Stephen Crane などの19世紀の作品を読む。(プリント使用)

英米演劇演習

荒 井 良 雄

今世紀のイギリス演劇を代表する劇作家の一人であるテレンス・ラティガンの喜劇*WHO IS SYLVIA?* (1950) の講読演習。終了後はノエル・カワード

の一幕物を読む予定。

〔教科書〕 プリント

英文学特講Ⅰ

石 原 孝 哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕 『ノースロップ・フライのシェイクスピア講義』(三修社)

英文学特講Ⅱ

高 野 正 夫

ロマン主義への移行期の詩人、Gray, Cowper, Collins などの作品を読んでいます。

〔教科書〕 教場にて指示する。

英文学特講Ⅲ

高 野 正 夫

イギリス・ロマン派の主要な詩人について、それぞれの時代的背景や特徴をふまえながら読んでいく予定です。

〔教科書〕 教場にて指示します。

英文学特講Ⅳ

中 岡 洋

イギリス小説の代表的傑作*Jane Eyre* や*Wuthering Heights* を残したBrontë sistersについて、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕 教場にて指定する。

英文学特講 V

高松 雄一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。世紀末の唯美主義批評、イエイツ、イマジズム、エリオット、ジョイスらの作品や批評を取りあげて、モダニズム文学運動の意味を考えたい。

〔教科書〕 必要があれば開講時に指示する。

英文学特講 VI

丸小 哲雄

文学（虚構）テキストを批判的に検討する理論と実践。とりわけテキスト研究をすすめる。テキストの読み（物語構成を捉える遠近法）。テキストの解釈（テキストの意味と主題の捉え方）。そしてテキストの読みと解釈の後でどのようにしてテキスト批評を行なうか。前期では文学理論としてロシア・フォルマリズム、受容理論、構造主義、記号論、ポスト構造主義などを主として講義します。後期ではテキストの読み・解釈・批評の実践として、英米及び日本文学からテキストを選び、実践批評の機能とその快楽を目指します。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示。また、適宜プリントも配布します。

米文学特講 I

東 雄一郎

19, 20世紀のアメリカ詩を扱う。

〔教科書〕 開講時に指示します。

〔参考書〕 同上

米文学特講 II

杉浦 銀策

アメリカ文学の代表的作品をいくつか取り上げ、作品の歴史的背景の解説や意味の分析を行なう。それぞれプリント配布の予定。

米文学特講 III

山縣 敏夫

アメリカにおける人種差別の問題について考察する。アメリカ人にはWASPという人種的な優越意識が根深く浸透しており、白人でアングロサクソンでプロテスタントであることが彼等の誇りとされてきた。そのような社会の中で黒人奴隷がどのように扱われ、黒人文学がどのようにして生まれたかを探り、代表的な作家と作品を紹介する。又、ユダヤ系作家やその代表作品についても研究したい。

〔教科書〕 開講後に指示する。

米文学特講 IV

田中 剛

ヘンリー・ジェームズの代表的作品を抜粋によって読みつつ、生涯にわたる彼の文学活動を考察する。（抜粋はコピーして教場で配布する。）

米文学特講 V

佐藤 吉介

アメリカ文学の作品を材料に使うって批評の方法 — 分析, 文体論, 表現論, 時間論 — を習得せしめるように講述する。最近の言語記号論も考察に入れてみたい。

〔教科書〕 プリント

英米演劇特講

落合 和昭

前期はギリシャの時代から現代までの劇場史を学び、後期の演劇の要素について学ぶ。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が多く載っているアメリカの大学生用テキストを用いる。課題としてはレポートを十回（一回につき四百字の原稿用紙二枚程度）ほど提出してもらう。

英米語学演習 (言語学)

大 沢 一 雄

Noam Chomskyの著書または論文を読む。テキストは教場で指示。

英米語学演習 (英会話)

N. Readdy

Method and materials similar to that of 2nd year students but of a more advanced level.

〔教科書〕 See content for 1st year students.

英米語学演習 (英語史)

岡 田 尚

基本語について、諸君とともに英和字典を編集する立場から考察してみたい。ここでは語原、語義、語法、成句などと同時にその語あるいはその語を用いた表現の背景や日本語とのイメージ・連想・用法などの違いを比較文化の視点から考えていく。教科書は用いない。

英米語学演習 (英会話)

B. Natusch

This course is designed to improve students' listening ability and speaking skills. The approach used will involve simulations such as phone calls, group problem solving activities, structured discussions, and quizzes. Practice will be given particularly in language functions such as description, instructing, and narrating. Another component of the course will broaden active vocabulary. Evaluation will be based on regular class tests and spoken presentations.

英米語学演習 (英文法)

岡 田 尚

生きた英文に接しながら、伝統的な文法の知識を確認するとともに、どのような文法がよいかを考えてみたい。

〔教科書〕 教室で指示する。

英米語学演習 (英会話)

R.M. Baxter

This will be an intensive conversation class which utilizes a variety of approaches which improve performance. We will study skills in listening comprehension and speaking. Students will be required to speak in English. The class will be challenging, exciting, and educational.

〔教科書〕 開講時に指示

英米語学演習 (英会話)

W. Hubbard

Practical English for third and fourth year students. A variety of dialogues, plays and topics will be used. Class discussion and hearing comprehension emphasized. Text and class material will be furnished at class time.

〔教科書〕 Will be decided later depending on the ability of the class.

英米語学演習 (音声学)

坂 本 武

1 必または3 必で既に学習した英語調音音声学の大意に、さらに下記の諸項目を付加する。

記

- (1) 英米音の差異について、より詳述する。
- (2) Intonationの基本、応用、および英米表現における差異を考究する。

- (3) 英米語会話での、音韻変化 (phonological process) につき詳説する。例えば、英音における母音脱落、米音の tappings (無声子音の有声音化の各様) について再考する。
- (4) その他、reading, understanding (会話理解) に必須の音変化について、より詳細、専門的に論説する。
〔教科書〕教場にて指示する。

英 米 文 化

荒 井 良 雄

イギリスの文化を、歴史、思想、教育、演劇、映画、音楽、美術などを中心に、日本文化との比較を考えながら講義します。

〔教科書〕荒井良雄著『イギリス演劇と映画』
(新樹社) ¥2,000

時 事 英 語

大 沢 一 雄

時事英語の研究をおこなう。時事英語とは大まかにいうと、新聞、テレビ、ラジオ等の mass media すなわちマスコミで用いられる英語である。

商 業 英 語

町 井 靖

日本企業の国際的進出は、海外での子会社、合併会社の設立、外国企業の買収等めざましいものがあるが、「商業英語」では「商品の輸出入に関する英文の手紙」を勉強する。

取引先の発見、見積り、交渉、注文、船積み等、貿易取引の流れに従って良く使用される基本的表現を修得する。貿易の専門用語も解説する。

〔教科書〕町井 靖著『基礎商業英語』
(梓出版社) ¥1,700

ラテン語特講

野 島 利 彰

かつてヨーロッパ文化を支えた教養言語であるラテン語を、平易な教材を用いて初級の段階から

学びます。

〔教科書〕樋口・藤井著『詳解ラテン文法』
(研究社) ¥1,640

日本文化史 II

廣 瀬 良 弘

日本文化の流れを概観し、とくに北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけて文化について詳述する。

現 代 美 術

宮 崎 克 己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題 (色彩、空間など)、表現内容の問題 (象徴性、思想など)、社会的問題 (展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など) 等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

地理学科

基礎教育科目

基礎人文地理学 (今朝洞 重美)	101
基礎人文地理学 (長野 覚)	101
基礎自然地理学 (長沼 信夫)	101
基礎自然地理学 (早船 元峰)	101

専門教育科目

人文地理学実習 (桜井 正信)	101
人文地理学実習 (小田 匡保)	101
人文地理学実習 (土谷 敏治)	101
人文地理学実習 (茨口 善美)	102
人文地理学実習 (再クラス) (佐藤 哲夫)	102
自然地理学実習 (小池 一之)	102
自然地理学実習 (高木 正博)	102
自然地理学実習 (中村 和郎)	102
自然地理学実習 (長沼 信夫)	102
自然地理学実習 (再クラス) (早船 元峰)	102
野外巡検 I (今朝洞 重美)	103
野外巡検 I (中村 和郎)	103
野外巡検 I (茨口 善美)	103
野外巡検 I (高木 正博)	103
野外巡検 I (長野 覚)	103
野外巡検 I (佐藤 哲夫)	103
日本地誌 I (今朝洞 重美)	103
外国地誌 I (矢ヶ崎 典隆)	103
経済地理学 I (佐藤 哲夫)	104
郷土地理学 (長野 覚)	104
集落地理学 (小田 匡保)	104
地形学 I (小池 一之)	104
地 図 学 (高木 正博)	104
交通地理学 (生井澤 進)	104
地理学総論 (佐藤 哲夫)	104
地理学総論 (茨口 善美)	104
地理学総論 (中村 和郎)	105
野外巡検 II (小池 一之)	105
野外巡検 II (桜井 正信)	105
野外巡検 II (小田 匡保)	105
野外巡検 II (早船 元峰)	105
野外巡検 II (長沼 信夫)	105
野外巡検 II (土谷 敏治)	105
日本地誌 II (中俣 均)	105
外国地誌 II (土谷 敏治)	106
経済地理学 II (生井澤 進)	106
地形学 II (小口 高)	106
歴史地理学 (桜井 正信)	106

人口地理学 (土谷 敏治)	106
原書講読 (佐藤 哲夫)	106
地 質 学 (貝塚 爽平)	106
土壤地理学 (漆原 和子)	106
気 候 学 (中村 和郎)	107
海洋学及び陸水学 (長沼 信夫)	107
環境地理学 (早船 元峰)	107
日本地誌 III (中島 義一)	107
都市地理学 (今朝洞 重美)	107
計量地理学 (土谷 敏治)	107
応用地理学 I (高木 正博)	107
応用地理学 II (今野 修平)	107
文化地理学 (茨口 善美)	107
空中写真判読法及び測量学 (小池 一之)	108
地理学特講 I (半期) (長野 覚)	108
地理学演習 (小田 匡保)	108
地理学演習 (今朝洞 重美)	108
地理学演習 (小池 一之)	108
地理学演習 (茨口 善美)	108
地理学演習 (桜井 正信)	108
地理学演習 (高木 正博)	108
地理学演習 (土谷 敏治)	109
地理学演習 (佐藤 哲夫)	109
地理学演習 (中村 和郎)	109
地理学演習 (長沼 信夫)	109
地理学演習 (長野 覚)	109
地理学演習 (早船 元峰)	109

地 理 学 科

基礎教育科目

基礎人文地理学

今朝洞 重 美

地理学的な「見方」、「考え方」とはどのようなものであるか、について事例を中心に説明する。

基礎自然地理学

早 船 元 峰

地質年代では最も新しく、かつ、人間と密接なかかわりをもつ第四紀の自然環境について講義する。

専門教育科目

基礎人文地理学

長 野 寛

自然と人間活動の相関性を、世界的視野から考えながら、多彩な人文現象の基礎知識を、系統的に講義する。プリント資料を多用するほか、開講後に教科書・参考書などは指示する。

人文地理学実習

桜 井 正 信

人文現象を総合学の立場で実習させていくが、とりわけ地図化することに重点を置く。必要参考文献は、そのつど指示し、実習の成果をあげるようにする。

基礎自然地理学

長 沼 信 夫

本講義は地理学を専攻する学生諸君のために、自然地理的な立場から基礎的知識を提供しようとするものである。今年度も下記のテキストを使用し、第四紀時代の自然環境の変遷について講義する。

なお、参考書は適時講義中に紹介する予定である。

〔教科書〕『自然環境の生い立ち』（朝倉書店）
¥2,300

人文地理学実習

小 田 匡 保

前期は、人文地理学の研究に必要な文献・地図・統計類について、その概要と利用方法を学ぶ。後期は、主題図・統計グラフの作成を行なう。最後に、歴史地理学の史料に言及する。

人文地理学実習

土 谷 敏 治

地理学の調査・分析に必要な資料の収集、整理、統計処理、作図、地図作成等について実習を行なう。後半では、コンピュータを使用した実習も合わせて行なう。毎回課題を与え、提出することを

原則とする。

人文地理学実習

こも
菱 口 善 美

この実習は、人文地理学の諸分野において用いられている技術的表現の理解、および基礎的諸作業の修得を目的としている。実際の授業内容は次の通りである。すなわち、(1)人文地理学にとって基礎的な統計図表に関する講義、(2)産業や人口に関する統計資料の収集、整理および図表化作業の修得、(3)地域を選定し、その地理学的説明のための図表およびレポートの作成、(4)一定地域の変化をテーマとして、種々の資料にもとづくレポートの作成。

人文地理学実習（再クラス）

佐 藤 哲 夫

人文地理学で用いられる各種資料の収集、整理、分析の方法や技術を学ぶ。前期は地形図や土地利用図の読図、計測作業を、後期は統計資料の処理を中心とした作業を行なう。コンピュータによる報告書の作成や図表の整理を行う。

自然地理学実習

小 池 一 之

自然地理とくに地形学関係のデータ整理および野外調査法などについて実習する。

〔予定内容〕

1. 地形図の読図、主題図の作成
2. 各種統計データの整理
3. 野外調査データとその処理方法
4. 写真判読
5. その他

自然地理学実習

高 木 正 博

自然地理学を学ぶために必要となる基礎的な実習を行う。

作業内容については次の事項を予定しているが、授業の進捗状態に応じて指示する。

1. 地形図、空中写真の読み方と主題図の作成

2. 計測器材を利用した調査と、結果の整理
 3. 各種の統計資料の解析、図化
 4. コンピュータの使用を考慮する
- 出席を重視し、提出物と併せて評価する。

自然地理学実習

中 村 和 郎

自然地理学の基礎的な実習を行う。次の内容を予定しているが、実施順序は変更することがある。

1. 計測（野外および机上で各種の計測を行う）
2. 統計処理（各種データの整理方法を学ぶ）
3. 地図化（主題図を作成する）
4. 読図（地図の読図を行う）
5. 空中写真判読（空中写真から必要な情報を読む）
6. 地上写真撮影（地理的事象を写真で表現する）

自然地理学実習

長 沼 信 夫

この実習は自然地理的な立場から、専門領域を深めるために必要な基礎的諸作業を修得する目的で実施する。実習を通じて種々の資料の蒐集・整理、その結果から図表等の表現化、作成した図表からその読み方等を実施する。また野外調査の際に必要な技術的作業等の方法についても実習する予定である。

出席を重視し、平常点（レポート、図表等の提出物）で評価する。

〔参考書〕

- 谷岡武雄ほか著『新訂地理実習』（大明堂）
三野与吉編『自然地理調査法』（朝倉書店）

自然地理学実習（再クラス）

早 船 元 峰

地理学を修める上に必要な自然関係の基礎的作業を中心に行う。

前 期

- 図上作業（切峰面図・起伏量図・带状平行投影地形断面図等の作成）
- 資料の収集・整理・分析の方法
- 調査器械・器具の使用法

後 期（班別）

- 粒度分析

- 空中写真判読（土地利用図・地形学図・標定図作成）
- 水調査（湖水・河川水・地下水の水温、水質等）
- 微地形・表層地質調査（元荒川・古利根川流域）

野外巡検 I

今朝洞 重 美

北陸地方（白山、金沢）の巡検を行う。実施時期は夏季休暇（7月）。

野外巡検 I

中 村 和 郎

教科書や講義で学ぶ地理学的事象（自然・人文）を、学生自らの現地での観察・調査を通じて理解させる。

6月末、木曾谷を予定している。

野外巡検 I

こも
菱 口 善 美

目的：地域の変貌について実態調査とレポートの作成。具体的調査の内容は参加学生の興味ある地理学的分野を尊重する。調査地はガイダンスの際に発表する。

野外巡検 I

高 木 正 博

地域の実態調査をとおして、それぞれの地域が有する自然的・人文的な特長の一端を明らかにする。

現地では班別に行動し、各種の実測調査や聞き取り調査などを実施する。

期日・内容については、ガイダンスの際に発表する。

野外巡検 I

長 野 覚

山陰地方を巡検する。主な視点は、伯耆大山や出雲平野の自然を舞台に展開する人文現象を観察する。大山の門前集落では、集落の中核をなす宿坊の調査を実施してみたい。時期は6月初旬に、3泊4日を予定している。

野外巡検 I

佐 藤 哲 夫

現地での観察、調査を通じて地域調査法を学ぶ。土地利用研究の基礎的な訓練を中心とする。巡検の場所、日程についてはガイダンス時に指示する。

日本地誌 I

今朝洞 重 美

地誌学の本質を考察しつつ、「日本」、「日本各地方」の個性を追求する。

〔参考書〕『日本の地域－新しい日本地誌－』（森北出版）

外国地誌 I

矢ヶ崎 典 隆

本講義では、アメリカの地域性と風土について考察を試みる。前半では、自然環境、植民・開発過程、地域性と文化地域、人口と民族集団、都市の発展と機能、農村地域の変貌などについて検討しながら、アメリカ合衆国の全体像を明らかにする。後半では、日本との関係が密接なカリフォルニアに関して、より詳細なレベルでその地域性と風土について考える。

〔教科書〕指定しない。

〔参考書〕授業の中で、参考となる図書をあげていく。

経済地理学 I

佐藤 哲夫

ホイットルセーの農業分類をもとにして、世界各地で行われている農業について講義する。現代の農業は、複雑な国際経済の仕組みの中に組み込まれており、ホイットルセーが研究を行った当時とは、その様相を大きく異にしている。生産の場における技術の変化、消費の場における食生活の変化を視点の中心に据えて、農業を取り巻く環境の変化を論じる予定である。

〔参考書〕グリッグ著、飯沼ほか訳『世界農業の形成過程』

郷土地理学

長野 覚

郷土の地域概念を理解する必要上、古代から現代までの、日本の行政区変化を学習すると共に、域内の地名について（大字・小字など）、その意味するものを全国的視野から検討する。講義と併行して、各自の所属する郷土について、頻りに課題の提起や作業図などの点検を行う。講義はプリント資料を中心に進める。

〔参考書〕『地名大辞典』（角川書店）、『日本歴史地名大系』（平凡社）、吉田東伍『大日本地名辞書』（富山房）

集落地理学

小田 匡保

社会地理学的観点から集落地理学について概論する。その後、集落を対象としたそれ以外の立場からの研究事例を紹介する。

〔参考書〕浜谷正人『日本村落の社会地理』（古今書院）¥1,442

地形学 I

小池 一之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心に。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント、スライド、ビデオを使ったわかりやすいものにした。内容は最

先端の知見を含む)

〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）¥4,532

地図学

高木 正博

まず、地図の歴史をとおして、地図の重要性を認識する。つぎに、地図の作成・表現方法などのちがいによる多様な地図をもとに解説、利用法について講ずる。

授業内容に応じて作図実習を伴うので、定規、コンパス、分度器を揃えておくこと。

〔参考書〕大竹一彦著『二万五千分の一地図』（古今書院）¥2,400

交通地理学

生井澤 進

商品の流れ（貨物流）の変化について、この変化の要因となる港湾・道路等諸施設の変化ならびに情報システムの変化に焦点を当てて、現在の交通体系を理解してゆく。

〔教科書〕講義の最初に指示する。

地理学総論

佐藤 哲夫

現在、地理学に期待されているものは何だろうか？地理学はどのような方向に動いているのだろうか？この講義では、地理学の研究史と最近の動向、そして開発途上国に対する協力を例として取り上げ、地理学で学ぶ様々な方法や技術が持つ可能性について検討する。

地理学総論

こも
菱口 善美

現代地理学の概念と主要な地域分析法について講義を行なう。

地理学総論

中 村 和 郎

3年生は年度の途中で卒論のテーマを決めなければならない。どんなテーマを選んで、どんな方法で研究すればよいかを思い悩む学年である。そのときに少しでも役に立つように、古今東西の研究例をとり上げて研究方法や地理学的な考え方を学ぶ。

〔参考書〕中村和郎ほか著『地理学への招待』

(古今書院) ¥2,900

中村和郎ほか著『地域と景観』(古今書院) ¥2,800

野外巡検Ⅱ

早 船 元 峰

教室の講義のみでは理解しがたい地理的事象(自然的・人文的)を、学生自らの現地での体験(観察・調査)を通じて理解させる。班別行動・現地集合・現地解散の予定。巡検地は追って発表する。

野外巡検Ⅱ

長 沼 信 夫

次の要領で実施する予定であるが、詳細については申込時(ガイダンス)に報告する。

1. 巡検地域: 伊豆半島
2. 巡検期間: 平成4年6月上旬(3泊4日)
3. 巡検テーマ: 自然環境と人々の生活

野外巡検Ⅱ

小 池 一 之

地形学を中心とした野外調査法を学ぶ。本年度は房総半島をフィールドとし、海成段丘と地震隆起を中心課題とする。

巡検実施は、9月を予定している。

野外巡検Ⅱ

土 谷 敏 治

都市の地域構造・都市問題・都市計画を中心に巡検を行なう。また、各自がそれぞれのテーマに従って、現地調査を行ない、その結果をレポートとして提出する。巡検地域・日程については、追って指示する。

野外巡検Ⅱ

桜 井 正 信

地域現象の歴史と地理的条件を、その地域で確認する立場で巡検します。巡検地は研究室前に発表します。

日本地誌Ⅱ

中 俣 均

日本という政治的領域のなかにあって、いわゆる本土とはかなり異質な文化を保持している「沖繩」(奄美諸島以南の南西諸島全域を指す)を取り上げて、その地誌を講義する。自然環境、集落の形態、衣食住の特色などの生活様式全般といったさまざまな側面から考察をすすめ、それを通じて日本という地域、日本の文化を相対的に認識することが、目標である。テキストや参考文献など詳しいことについては、開講時に指示する。

野外巡検Ⅱ

小 田 匡 保

特定の地域を対象として、各自の関心に応じて調査を行ない、レポートを作成する。事前の文献調査と現地調査の両方が要求される。巡検地・期日は、ガイダンスの時に発表する。

外国地誌Ⅱ

土谷 敏治

ヨーロッパ諸国，とりわけドイツを中心に，都市の発達，都市内部の地域構造，都市交通，都市問題，都市システムなどについて講義する。実例については，スライド，ビデオ等で紹介する予定である。また，各自にレポートを課することも予定している。

経済地理学Ⅱ

生井澤 進

地方における生活活動の中心となる商業活動について，商店街形成という観点から分析，講義を行う。夏季休暇中に各自調査を行い，レポートを作成することを条件とする。

〔教科書・参考書〕講義中にその都度指示する。

地形学Ⅱ

小口 高

日本の山地の地形を考えるうえで重要な2つのテーマを取り上げる。前半では，過去の氷期に広く形成された周氷河地形について論じる。後半では，現在の気候下で活発な，水によるマス・ムーブメント（地すべり・崩壊・土石流）に重点をおく。教科書は6月頃から使用する。

〔教科書〕貝塚爽平・太田陽子・小疇 尚・小池一之・野上道男・町田 洋・米倉伸之編『写真と図でみる地形学』（東京大学出版会）¥4,532

歴史地理学

桜井 正信

歴史と地理を，実証と理論に基礎をおいて，総合的にみていきます。

人口地理学

土谷 敏治

人口の分布やその変化，人口移動について，研究の方法やこれまでの地理学の分野からの研究成果を紹介する。

原書講読

佐藤 哲夫

日本地誌の英語文献を読む。平易なテキストを用いて地理の分野でよく用いられる単語や言いまわしを学ぶ。日本の地理を英語で説明できるようになることが目標。

〔教科書〕Toshio Noh & Vohn C. Kimura編『JAPAN - A Regional Geography of An Island Nation』（帝国書院）¥1,550

地質学

貝塚 爽平

関東・東海地方でみられる，地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また，日本列島ないし地球規模でおこる地質現象 — たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁分布帯の形成 — についても講ずる。後期には教科書を使う予定。

土壌地理学

漆原 和子

世界の土壌の生成と分布について解説する。土壌生成因子のうち，特に地形，気候，時間について詳しく考察する。さらに人間活動によって，土壌がどのように変わりつつあるのかについても述べる。

〔教科書〕『世界の土壌』（古今書院）¥3,800

気候学

中村和郎

身近な気候現象に注目し、その研究を通して気候学の基本的諸概念と研究方法、世界諸地域の気候を学ぶ。

〔教科書〕中村和郎『雲と風を読む』（岩波書店）
¥1,200

都市地理学

今朝洞重美

都市の地理学的研究とは具体的にはどのようなものか、日本、外国にテーマをとり学習する。

〔参考書〕山鹿誠次著『都市地理学』（大明堂）

海洋学及び陸水学

長沼信夫

水を研究対象としている学問分野はいろいろあるが、ここでは自然地理学（水文学）の立場から水に関するテーマを選び講義する。また隣接分野における水の研究についても紹介する予定である。

〔参考書〕『水文学』〔自然地理学講座3〕
（大明堂）
『日本の水』〔環境と人間の科学4〕
（三省堂）

計量地理学

土谷敏治

地理学の分析に必要な統計的手法・計量的手法を紹介するとともに、実際にデータを用いて操作を行ない、分析の手順や解釈の仕方について学習する。データの処理には、コンピュータを使用する予定である。分析の結果は、レポートとして提出する。

環境地理学

早船元峰

自然の人間への影響、人間の自然へのはたらきかけについて、土地利用、水利用を通じ歴史的観点をふまえて論じる。

応用地理学 I

高木正博

河川と地域の関係を、災害・利水・親水などの視点から捉える。水と人とのかかわりあいについて、地理学と他の研究分野を関連させてのべる。

〔参考書〕高橋裕著『河川工学』（東京大学出版会）

日本地誌Ⅲ

中島義一

歴史地理学の諸問題に重点をおいて講義する。下記の教科書のほか、地図帳（高校生の時に使ったものでよい）を忘れずに持ってくること。

〔教科書〕矢守一彦著『空からみた歴史景観』
（大明堂）¥2,400

〔参考書〕授業の際に紹介する。

応用地理学Ⅱ

今野修平

応用地理学として、地域開発論の講義を行う。地域開発論の学的体系をのべる他、第四次全国総合開発計画および長期展望下の日本列島の将来や、地域開発政策の流れ等全般に亘る。

〔教科書〕『第四次全国総合開発計画』

『世界とともに生きる日本—経済運営5ヶ年計画—』

文化地理学

こも
菱口善美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、す

なわち(1)文化, (2)文化領域, (3)文化景観, (4)文化史(誌), (5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら, 文化地理学的手法による地域分析について議論する。

空中写真判読法及び測量学

小池 一之

測量学の基礎的事項を中心に講義する。随時課題を出すので, かならず締切日までに提出すること(課題数は年間5-6)。また, 対数, 三角関数(数学I程度)の復習もしておくこと。実習も含まれる。

本年度は, 自然地理の基礎となる写真判読法にも力を入れる予定である。

- (1)誤差論 (2)角の測定 (3)距離測定
- (4)水準測量 (5)多角測量 (6)地形測量
- (7)写真測量 (8)写真判読法
- (9)リモートセンシング

〔教科書〕〔前期〕小田部和司著『図解土木講座 測量学』(技報堂出版)
¥2,800

地理学特講 I (半期)

長野 覚

高等学校・中学校社会科の教員を目指す希望者を対象とする。指導内容は1学年以来学習した地理学の内容を, 整理・集約すること。また教員採用試験の体験や教育現場の地理・社会科教育の実情, カリキュラムの変更に伴う地歴科・公民科分離への対応など, 現職教員と対話の機会をつくりながら学習を進めたい。

〔参考書〕教育小六法・文部省学習指導要領・高等学校地理教科書(地図帳を含む)・中学校社会科教科書(地図帳含む)。

地理学演習

小田 匡保

卒業論文作成の指導を行なう。既往の研究や自身の調査結果などについて, 各自に中間発表を行なってもらう。

地理学演習

今朝洞 重美

地理学の本質論の研究と地誌学および一般地理学(人文地理学)に関する卒業論文の演習を行う。

地理学演習

小池 一之

前期: 地理学調査方法(野外調査・文献調査)の習得, 調査資料の分析法, データの統計処理などについて学ぶ。

後期: 各人のテーマにそった具体的な指導を中心とする演習。

地理学演習

こも 茨口 善美

ここでは4年生を対象とする卒業論文の作成の指導を行う。前期においては, 各履修者の論文の主題に包含される問題点の指摘と研究方法について, 後期には, 実態調査にもとづく論文作成の技術的方法について重点をおく。

地理学演習

桜井 正信

地理学の演習を通じて, 最終学年の成果をあげるよう努力します。また卒業論文の作成の指導もしたい。

地理学演習

高木 正博

卒業論文の作成指導を主体とする。まず, 各自のテーマや, 参考文献・資料の選択整理, 現地調査の方法などを検討する。現地調査後は, 各自その成果を発表し, 討論のうえ論文作成へと導く。

地理学演習

土谷 敏治

前半は、各自の研究テーマに関する論文を読み、内容の紹介をするとともに、研究の進め方、論文の書き方について学習する。後半は、各自が研究の中間報告を行ない、お互いに議論し合いながら、論文の完成をめざす。

出までの指導を行なう。必ず中間発表と、卒論提出直後に論文要旨の発表を行なうことを必要条件としている。

地理学演習

早船 元峰

卒業論文を作成する学生に対する演習である。前半には論文の作成・現地調査・文献資料の収集・整理等の方法について講じ、後半は卒業論文のテーマにしたがって調査研究した成果の発表（中間報告）や関連した論文の内容の紹介をさせる。

地理学演習

佐藤 哲夫

卒業論文の作成を指導する。前半は演習参加者の研究主題について、問題点があればそれを明らかにしながら、テーマの設定および調査の方法を指導する。後半は各自が行なった調査結果に基づいて、資料の整理法および論文の構成について指導する。参加者の発表と討論を中心に進める。

地理学演習

中村 和郎

卒業論文の作成指導を中心に行う。テーマの決定、研究の進め方、文献収集とその読み方、資料の整理のし方、現地調査の方法、論文の書き方、口頭発表のし方などについて指導する。

地理学演習

長沼 信夫

卒業論文の作成指導を中心におこなう。前期は論文の書き方、文献資料の蒐集・整理・調査方法、文献紹介等についておこなう。後期は各自の卒論テーマによる調査・研究成果を報告してもらう。出席を重視し、平常点で評価する。なお、前期・後期に各1回合宿（総合報告・中間検討会）を行う予定である。

地理学演習

長野 覚

卒業論文の課題に即して、調査・研究と論文提

歴史学科

基礎教育科目

基礎歴史学 (飯島 武次)	112
基礎歴史学 (廣瀬 良弘)	112
基礎歴史学 (久保田 真継)	112

専門教育科目

史学概論 (椽川 一朗)	112
日本史概説 I (古代・中世) (渡辺 直彦)	112
日本史概説 II (近世・近代) (木槻 哲夫)	112
東洋史概説 I (古代・中世) (阿部 肇一)	112
東洋史概説 II (近世・近代) (渡辺 惇)	113
西洋史概説 I (古代・中世) (椽川 一朗)	113
西洋史概説 II (近世・近代) (青木 道彦)	113
考古学概説 I (日本) (前期:大三輪 龍彦) (後期:倉田 芳郎)	113
考古学概説 II (外国) (飯島 武次)	113
日本史学史 (葉貫 磨哉)	113
東洋史学史 (阿部 肇一)	113
西洋史学史 (石川 澄雄)	113
考古学史 (西江 清高)	114
演習 I (久保田 真継)	114
演習 II (久保田 真継)	114
演習 I (葉貫 磨哉)	114
演習 II (葉貫 磨哉)	114
演習 I (廣瀬 良弘)	114
演習 II (廣瀬 良弘)	114
演習 I (南 和男)	114
演習 II (南 和男)	114
演習 I (山口 一之)	115
演習 II (山口 一之)	115
演習 I (渡辺 直彦)	115
演習 II (渡辺 直彦)	115
演習 I (阿部 肇一)	115
演習 II (阿部 肇一)	115
演習 I (渡辺 惇)	115
演習 II (渡辺 惇)	115
演習 I (石川 澄雄)	115
演習 II (石川 澄雄)	115
演習 I (椽川 一朗)	116
演習 II (椽川 一朗)	116
演習 I (伏島 正義)	116
演習 I (飯島 武次)	116
演習 II (飯島 武次)	116
演習 I (加藤 晋平)	116
演習 II (加藤 晋平)	116

演習 II (前期:大三輪 龍彦) (後期:倉田 芳郎)	116
日本史各説 II (久保田 真継)	116
日本史各説 III (土肥 鑑高)	117
日本史各説 IV (山口 一之)	117
東洋史各説 I (古代) (宇都木 章)	117
東洋史各説 III (中世) (町田 隆吉)	117
東洋史各説 VI (近世) (吉田 寅)	117
東洋史各説 VII (近・現代) (安藤 正士)	117
東洋史各説 VIII (周辺史) (松田 俊道)	117
東洋史各説 IX (周辺史) (片岡 一忠)	117
東洋史各説 X (周辺史) (田中 通彦)	117
西洋史各説 II (岩本 裕子)	118
西洋史各説 IV (伏島 正義)	118
西洋各国史 I (青木 道彦)	118
西洋各国史 II (阿部 三樹夫)	118
西洋各国史 IV (石川 澄雄)	118
考古学各説 I (西江 清高)	118
考古学各説 II (関根 孝夫)	119
古文書学 (葉貫 磨哉)	119
古文書講読 I (久保田 真継)	119
古文書講読 II (廣瀬 良弘)	119
日本史特講 I (古代) (渡辺 直彦)	119
日本史特講 II (中世) (宮本 由紀子)	119
日本史特講 III (中世) (久保田 真継)	119
日本史特講 III (中世) (芥川 龍男)	119
日本史特講 IV (近世) (土肥 鑑高)	120
日本史特講 V (近世) (小暮 正利)	120
日本史特講 VI (近代) (南 和男)	120
日本史特講 VII (近代) (山口 一之)	120
東洋史特講 I (古代) (宇都木 章)	120
東洋史特講 IV (中世) (町田 隆吉)	120
東洋史特講 IX (近世) (吉田 寅)	120
東洋史特講 X (近・現代) (渡辺 惇)	120
東洋史特講 XI (近・現代) (安藤 正士)	120
東洋史特講 XII (周辺史) (片岡 一忠)	121
東洋史特講 XIII (周辺史) (田中 通彦)	121
西洋史特講 I (長谷川 岳男)	121
西洋史特講 II (三小田 敏雄)	121
西洋史特講 V (中村 純)	121
考古学特講 I (高浜 秀)	121
考古学特講 III (飯島 武次)	121
日本仏教史 III (廣瀬 良弘)	121
日本文化史 II (廣瀬 良弘)	121
西洋文化史 I (椽川 一朗)	122
西洋文化史 II (三小田 敏雄)	122
考古発掘実習 (千葉 基次)	122
考古学実習 (写真) (鈴木 昭夫)	122
考古学実習 (測量) (栗山 稔)	122
考古学実習 (石器) (田中 英司)	122
考古学実習 (土器) (酒井 清治)	122
地誌学 (今朝洞 重美)	123
地誌学 (長野 覚)	123
地誌学 (宮口 侗廸)	123

人文地理学概説 (小林 高壽)	123
歴史地理学 (桜井 正信)	123
哲学史 (丸山 豊樹)	123
歴史哲学 (麻生 建)	123
美術史概説 (中島 亮一)	124
西域美術史 (相馬 隆)	124
仏教美術 (中島 亮一)	124
中国歴史文学 (中村 璋八)	124
ラテン語特講 (野島 利彰)	124
日本民俗学 (谷口 貢)	124

歴史学 科

基礎教育科目

専門教育科目

基礎歴史学

飯島 武次

中国史の入門的研究。
〔教科書〕貝塚茂樹『中国の歴史』上・中・下
(岩波新書) 各¥520

史学概論

椽川 一朗

歴史学研究法とくに比較史的方法につき、社会
経済史および思想史を中心に講述する。
〔教科書〕追って指定する。

基礎歴史学

廣瀬 良弘

歴史とは何か、なぜ歴史を学ぶのか、など歴史
研究を行っていく上での基本的な問題をはじめと
して、研究方法論や史料批判等について講述する。
テキストはコピーして配布。ただし実費を徴収す
る。

日本史概説Ⅰ(古代・中世)

渡辺 直彦

平安時代の諸様相について概観する。
〔教科書〕『日本の歴史5 王朝の貴族』
〔中公文庫〕(中央公論社) ¥640

基礎歴史学

久保田 真継

「歴史」とは何か、また「歴史」を学ぶとはど
ういうことか。この基本的な問いかけについて考
える機会としたい。その際、さまざまな歴史観や、
研究を進めるうえでの方法論、史料論などを紹介
する。
これらを通じて「歴史」をみる眼を自分なりに
ひろげてほしいと思う。テキストは適宜コピーし
たものを配布する。

日本史概説Ⅱ(近世・近代)

木槻 哲夫

明治期を中心に、近世・近代にわたる日本社会
の発展を概観し、併せて、新たな研究視角・問題
点の発見に資するよう努めたい。教科書は特定し
ない。
〔参考書〕『地方史研究必携』(岩波書店)
¥4,800

東洋史概説Ⅰ(古代・中世)

阿部 肇 一

東洋史とくに中国史を中心に、古代・中世まで
の政治社会の変化、展開をのべ、併せて文化史に
も及ぶ。

〔教科書〕『東洋史概説』（南雲堂深山社）
¥1,500

東洋史概説Ⅱ（近世・近代）

渡 辺 惇

中国の近世（明・清）、近代（アヘン戦争～辛亥革命）の政治、対外関係、社会経済、文化等について、総合的に講義する。

〔教科書〕特に定めない。プリント資料を配布する。

〔参考書〕授業の中で指示する。

西洋史概説Ⅰ（古代・中世）

椽 川 一 朗

西洋古代より近代前期までの社会経済史および思想史を総合的に講述する。

西洋史概説Ⅱ（近世・近代）

青 木 道 彦

ヨーロッパの近世初頭から現代に至る歩みを概観するが、必要な限りにおいてヨーロッパ中世にもふれて講義したい。中世においては必ずしも他の文化世界に対して優位にたつてはなかった西欧世界が、なぜ近代工業化の先頭にたつて、他の文化世界に強い衝撃を与えるようになったのかという問題を念頭において、受講して頂きたい。西洋史に関する平易な文献を指定し、読書レポートを提出させる課題を課す。4年生を除き、この課題を提出しない者には受験資格を与えないので、注意すること。

〔参考書〕祇園寺信彦編『西洋史要綱』（御茶の水書房）¥1,200

大下・西川・服部・望田編『西洋の歴史』（近現代編）（ミネルヴァ書房）
¥2,000

考古学概説Ⅰ（日本）

（前期）大三輪 龍 彦
（後期）倉 田 芳 郎

日本考古学を中心に、考古学的思考とはどのようなものかを考え、学問の目的、意義について講義する。また後半では、歴史時代特に中世考古学における事例を紹介しながら歴史学との関係についても触れてみたい。

考古学概説Ⅱ（外国）

飯 島 武 次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』

（山川出版社）1985年 ¥7,000

飯島武次『中国新石器文化研究』

（山川出版社）1991年 ¥11,000

日本史学史

葉 貫 磨 哉

古代から近代に至る歴史書の成立過程と、その概要について講義する。

東洋史学史

阿 部 肇 一

中国における歴史思想の展開について、古代より近代にいたるまでの説明を、それぞれを代表する著作を通して行う。

〔参考書〕内藤虎次郎著『支那史学史』

西洋史学史

石 川 澄 雄

西洋史学専攻者必修の課目。主要な西洋史の古典について、重要部分を原文（欧文、おもに英語、他に独・仏文）で読みながら進めるゼミ形式を一

部採用の予定。プリントその他開講後配布する。西洋史概説の知識のほか、十分な外国語の勉強をもって臨むこと。

〔教科書〕簡単なテキスト使用の予定、開講時に指示する。

考古学史

西江清高

今世紀における中国考古学の研究史を中心に、東洋考古学の流れを概論する。また欧米に生まれ発展した考古学研究の枠組や方法と比較することで、東洋考古学の特質を理解し、さらにその現状を把握することを目標としたい。必要な資料は授業の中で配布する。

〔参考書〕関野 雄監訳『新中国の考古学』（平凡社）1988年 ¥18,000

演習 I

久保田 真 継

織田信長の給人太田牛一の著した「信長記」（池田本）をテキストとして、史料の読解力を養いながら、室町幕府の滅亡から織田政権の形成過程を考えていきたい。なおテキストについてはプリントしたものを使用する。

演習 II

久保田 真 継

室町・戦国期の諸相を追究し、あわせて卒業論文作成の指導を行なう。なお参考書は適宜指示したい。

演習 I

葉 貫 磨 哉

『蔭涼軒日録』の文明19年8月より講読して、室町將軍の動静や時代思潮などを考える。また五山派のあり方を理解するために見学も行う。

演習 II

葉 貫 磨 哉

鎌倉・室町時代の歴史を通観し、研究発表を通して問題点を探り、併せて卒業論文の指導も行う。

演習 I

廣 瀬 良 弘

下記の史料を用いて近世幕藩体制社会の成立過程を考察し、併せて近世史料の読解力・分析力を養う。

〔教科書〕歴代將軍の事歴を記録した『徳川実紀』、家康の家臣である松平家忠の『家忠日記』と江戸前期から中期にかけて町奉行から町方へ出された法令を集めた『正宝事録』のコピーを配布する。

演習 II

廣 瀬 良 弘

近世史料を講読し、その読解力を養い、併せて受講者の研究発表を通じて卒業論文の指導を行う。

〔教科書〕史料はコピーして配布。

演習 I

南 和 男

幕末の諸史料を読みながら、諸問題を考察する。
〔教科書〕コピーを配布する。

演習 II

南 和 男

幕末維新の諸問題の研究発表を通して、卒業論文の作成指導をする。

演習 I

山口 一之

近代文書のコピーを使用し、史料の読解力と批判力をつけることに主眼を置く。教材については当方で準備するが、下記の書物を用意して活用してもらいたい。

〔参考書〕児玉幸多編『くずし字解読辞典』
〔普及版〕（近藤出版社）¥2,000

演習 II

阿部 肇 一

『入唐求法巡礼行記』（円仁）の講読と研究発表。

〔教科書〕プリント配布。

演習 II

山口 一之

下記の書物を使用して研究発表と討論を行う。各人のこれまでの勉強の程を示す時間である。

〔教科書〕筒井若水等編『法律学教材 日本憲法史』（東京大学出版会）¥3,200

演習 I

渡辺 惇

趙翼著『二十二史劄記』の明代の部分（漢文）を講読する。

〔教科書〕プリントを配布する。

演習 I

渡辺 直彦

桓武天皇の延暦十五（796）年七月条から、順次史料を講読する。

〔教科書〕『日本後紀』（吉川弘文館）¥2,060

演習 II

渡辺 惇

范文瀾著『中国近代史』のアヘン戦争の部分（現代中国文）を講読する。

〔教科書〕プリントを配布する。

演習 II

渡辺 直彦

律令官制とその定員とを規定した「職員令」を講読する。

〔教科書〕『令義解』（吉川弘文館）¥3,300

演習 I

石川 澄雄

西洋史近・現代，3年。欧文のテキスト輪読形式を進める。教材は開講時に指示する。山川出版社『世界史小辞典』のほか、できたら平凡社『カラー世界史百科』をも携行すること。（卒業論文作成のための予備指導を兼ねる。）

演習 I

阿部 肇 一

『二十二史劄記』趙翼撰，前巻部分の講読と研究。

演習 II

石川 澄雄

卒業年次生の卒論指導を兼ねるので，該当者は必ず出席すること（出席重視）。古典の熟読を行う。

テキストは開講時に指示する。

演習 I

椽川一朗

外書（フランス語古典）講読（卒業論文予備指導を兼ねる）。

演習 II

飯島武次

卒業論文の指導を兼ね、考古資料の調査研究を行なう。発表方法については、最初の授業の折りに指示する。また考古学におけるパソコンの使用について研究指導をする。

演習 II

椽川一朗

外書（フランス語古典）講読および卒業論文のための指導。

演習 I

加藤晋平

旧石器時代から縄文時代にかけての生業活動に関する論文をとりあげ、講読する。講読資料は、授業時に配布する。

演習 I

伏島正義

歴史に抱く興味は人により多岐に亘るとはいえ、この演習では前半において受講生にとって共通となる文献（論文、専門書）を分担発表などにより輪読する。後半はその文献に関する史料の輪読を試みる。その目的は、まずその文献に示された見解の根拠の確認は言うまでもなく、なによりもその作業の中で史料は問かけることにより汲めども尽きない豊かな内容を語りかけてくれることを感得し、そもそも歴史（認識）の進歩・創造は史料から出発せるものであり、また史料に基づかなければならないことを了解してもらいたいためである。当該演習はまたこのような課程を通して4年次に課される卒論作成の準備段階としての役割をも負わんとするものである。

〔教科書〕受講生と相談の上、決める。

演習 II

加藤晋平

先史時代に関し、受講者それぞれが抱く関心について、適当な論文を与え、講読する。講読資料は、授業時に配布する。

演習 II

（前期）大三輪 龍彦
（後期）倉田 芳郎

論文作成上の留意点に触れながら、各自の研究テーマやその進行状況、疑問点などを発表してもらい、それを中心にして、討論することによって論文完成へ向けての指導を行う。

演習 I

飯島武次

中国語原典の講読。

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』
（山川出版社）1985年 ¥7,000

日本史各説 II

久保田 真 継

鎌倉・室町時代について、研究史を紹介しながら講義する。とくに教科書・参考書は指定しない。

日本史各説Ⅲ

土肥鑑高

江戸時代の元禄—天保期について、いわゆる三大改革を中心に講ずる。田沼時代や化政期についても再評価してゆきたい。

〔教科書〕『改革の虚像』（秀英出版）¥1,200

東洋史各説Ⅶ（近・現代）

安藤正士

1930年代の中国の政治史を国内建設の諸問題と日本をはじめとする列強との関係を西安事変を中心に概論する。教科書および参考書は開講時に指示する。

日本史各説Ⅳ

山口一之

資料を通じて近代日本の問題点を把握するということを主眼とし、下記の書物を使用して勉強する。

〔教科書〕筒井若水等編『法律学教材 日本憲法史』（東京大学出版会）¥3,200

東洋史各説Ⅷ（周辺史）

松田俊道

西アジアのイスラム社会の諸特徴を明らかにする。特に都市、農村、遊牧民といった要素に重点を置き講義を行なう。

〔教科書〕板垣雄三・佐藤次高編『概説イスラム史』（有斐閣）¥1,900

〔参考書〕日本イスラム協会編『イスラム事典』（平凡社）¥3,200

東洋史各説Ⅰ（古代）

宇都木章

中国古代史の概説。特に各時代の特色ある文化を中心に説明する。

東洋史各説Ⅸ（周辺史）

片岡一忠

近代における中国と日本の政治・文化上の関係について概説する。

東洋史各説Ⅲ（中世）

町田隆吉

魏晋南北朝～隋唐時代の政治史・社会経済史について最近の研究成果をふまえて概観し、問題の所在を明らかにするとともに、とりわけ当該時代の国家と社会について考察する。

東洋史各説Ⅹ（周辺史）

田中通彦

ウエスタン・イムパクト（西欧の衝撃）を受ける前後の朝鮮の伝統的社会的基礎構造の叙述から始めて、それ以後日本支配の崩壊するまでの苦渋に満ちた朝鮮の近代史の展開を考察する。その際、それぞれの時代を代表し、画期ともなるべき歴史事象・事件を主題として取り上げ、その事象・事件を具体的に詳説するとともに、歴史的意義づけを行いつつ、しかも全体としての歴史の流れを見失わないようにする。取り上げる予定の各主題の全体は、講義の最初の日に配布する。各時間ごとの講義内容の理解を容易にするため、その都度資料を配布する。

東洋史各説Ⅵ（近世）

吉田寅

明・清時代における中国史の発展を概説的に講述する。なお歴史的考察と関連しつつ、史料の解説を行い、明・清時代史研究への導入とすることを期している。

〔教科書〕史料プリントを配布する。

西洋史各説Ⅱ

岩本裕子

アメリカ「合衆国」史を概観する。1年目は、縦軸として時代順に通史(植民地時代～現代)を概観し、2年目は、アメリカ史の特徴と思われる様々なトピックを中心に、横割りでアメリカ社会の断面をとらえていく。2年間をかけて縦横にアメリカを語ることで、とかく歴史が浅く、若い国と言われやすい合衆国の抱える諸問題に対して、学生諸君の興味を引き出す糸口としたいと考える。入門的な概説書である以下を教科書とし、参考書は、時代、トピックに応じ適宜講義の中で指示する。今年度は通史を概観するが、前期は南北戦争終了及び再建期まで、後期は再建終了後から現在に至る、現代史の講義を行う。

〔教科書〕有賀 貞・大下尚一編『概説アメリカ史』(有斐閣選書)

〔参考書〕清水 博編『アメリカ史』(増補改訂版)(山川出版社)

西洋史各説Ⅳ

伏島正義

中世史に興味がひかれる契機は、ある伝説的物語のもつ魅力に負うところが少なくない。本講ではそうした物語を選んでみたい。そして、そうした物語がある特定の歴史的背景を反映したものであるとの認識に立ち、それがいかなる社会的背景に基づくものであるかについて考えてみたい。具体的にどのような物語を扱うかについては、受講生と相談のうえ決める。文献、関係論文(邦文、英文)、史料などを読みつつ、演習形式により授業を進めたい。テキスト、文献等は授業時に指示する。

但し、受講生の希望により、必ずしも物語に限定されるものではない。

西洋各国史Ⅰ

青木道彦

「ピューリタニズムの発展と変容」をテーマとする講義の四年目にあたり、イギリス革命期の国王処刑、共和政成立からプロテクター政権期の問題を扱う。ピューリタン内部の分裂・対立が、どのように展開していったかを理解することによって、ピューリタニズムの本質に迫ってみたいと考

えている。ステュアート朝に入ってからピューリタニズムの動向の基本的知識を整理して貰うために、担当で作成の英文年表についてのレポートを提出させる課題を課す。4年生を除き、この課題を提出しない学生には、期末試験の受験資格を与えないので注意すること。

〔参考書〕A. シンプソン著、大下・秋山訳『英米におけるピューリタンの伝統』(未来社)
浜林正夫『イギリス宗教史』(大月書店)
田村秀夫編『イギリス革命と千年王国』(同文館)

西洋各国史Ⅱ

阿部三樹夫

ロシアの近・現代史上の諸問題を多民族国家の歴史という視点から考察することを課題とする。主としてロシア帝国及びソ連の西部国境地方(エストニア・ラトビア・リトアニア・白ルーシ・ウクライナ等)に重点を置き、その併合・統合の経過とこれらの地域が近代ロシア史上にもつ意義を考えていくとともに、ペレストロイカの中で「歴史の見直し」として浮び上がってきている諸民族や連邦制を巡る問題も取り上げる。

〔教科書〕特になし。

〔参考書〕授業中に適宜紹介する。

西洋各国史Ⅳ

石川澄雄

主にドイツ史を専攻する学生に対して、独文によりドイツ文化の理解を深めたいと考える。ゼミ形式で進める。2、3年生のほか、4年生の出席をも期待する。教材は開講時に指示する。

考古学各説Ⅰ

西江清高

中国華南、インドシナ半島の先史時代を扱う。土器の出現期から在地固有の青銅器文化が成立する時期までを概観することで、当該地域における基層的文化の性格を考えてみたい。授業では、可能なかぎり演習形式をとりいれて、特定のテーマについても掘りさげてゆきたい。

〔参考書〕講義の中でそのつど紹介する。

考古学各説Ⅱ

関根孝夫

弥生時代から古墳時代への移行の問題を土器研究を通じて検討したい。後半には、とくに関東地方を事例としてとり上げる。

古文書学

葉貫磨哉

文書作成の目的や様式・保存・伝来等の理由、文章・料紙・筆蹟等の鑑賞用に至るまで、古文書についての概括的な講義を行う。後期は演習も行う。

古文書講読Ⅰ

久保田真継

普段は兎角、活字などで読みがちな史料としての古文書を、写真版で解説することにより、古文書に親しむことにつとめる。なおとくに中世古文書を中心に講読する。一応教科書を設定するが、随時コピーなども使用していきたい。

〔教科書〕『演習古文書選（古代・中世編）』（吉川弘文館）¥1,400

〔参考書〕『古文書解説辞典』（柏書房）¥2,500

古文書講読Ⅱ

廣瀬良弘

どこの市町村にも豊富に存在するのが近世以降の古文書であろう。これらの新しい史料を解説し、地域の歴史を組み立てていくのは歴史を学ぶ者にとっての醍醐味である。しかし、せっかくの史料も解説できないのでは、どうすることもできない。本講座では、ともかく古文書に親しみ、読解できる力を養い、原文書から歴史を読みとる作業を試みたいと思う。古文書の写真等のコピーも随時配布する。

〔教科書〕日本歴史学会編『演習古文書選（近世編）』（吉川弘文館）¥1,500

〔参考書〕『くずし字解説辞典』（近藤出版社）

¥2,000

『古文書解説辞典』（柏書房）

¥2,500

日本史特講Ⅰ（古代）

渡辺直彦

平安初期の政治や文化について、基本史料を解説しながら講述する。

〔教科書〕『史料による日本の歩み 古代編』（吉川弘文館）¥2,900

日本史特講Ⅱ（中世）

宮本由紀子

特に中世という時代にとらわれず、古代から近世に至る女性観について各階層の女性に焦点をあて、その時代の社会構造と関連させて講義する。具体的に女性の地位、性的役割分担などの考察によって「歴史のなかの女性」の実像に迫りたい。ノート中心とし、教科書の指定はない。

日本史特講Ⅲ（中世）

久保田真継

戦国期の社会を日本史上、中世封建制から近世封建制へのたんなる移行（過渡期）とみるか、固有の社会とみるかは意見の分れるところであるが、戦国期の社会が中世の総括として、また近世の先駆としての時代的要請をうけていたことは認められよう。こうした問題関心により、本講座では「東国戦国大名」を例としながらその実態と歴史的意義を考えたい。

日本史特講Ⅲ（中世）

芥川龍男

本年度は中世の初期、つまり鎌倉期を中心にし、武士の基本的性格・武士団・惣領制などについて考察する。一方的な講義でなく、教科書以外にも史料・文献を読破し発表するなどのゼミナル方式もとり入れるので積極的な学習を期待する。

〔教科書〕石井進著『鎌倉武士の実像』（平凡社）¥2,300

日本史特講Ⅳ（近世）

土 肥 鑑 高

近世は「米遣い経済」といわれている。そこで、米を軸としてその流通→統制の過程を考えるとともに、「天下の台所」といわれる大坂の市場構造にもふれてゆきたい。

〔教科書〕『米と江戸時代』（雄山閣出版）

¥1,800

『江戸の米屋』（吉川弘文館）¥1,200

日本史特講Ⅴ（近世）

小 暮 正 利

江戸幕府の中下級家臣団を構成した旗本の、在地支配と村落との関係について取り上げる。特に、最近の研究を踏まえて、旗本知行割と地頭法、相給村落の構造などについて述べてみたい。

日本史特講Ⅵ（近代）

南 和 男

幕末期の政治や社会の推移を考察する。

日本史特講Ⅶ（近代）

山 口 一 之

日清戦争とその後の中国問題を講義する。

東洋史特講Ⅰ（古代）

宇 都 木 章

春秋時代史概説。特に晋と楚の南北対立を中心に説明する。

〔教科書〕小倉芳彦訳『春秋左氏伝』（岩波文庫）
上¥700，中¥700，下¥720

〔参考書〕海音寺潮五郎『中国英傑伝』下（文春文庫）¥440

東洋史特講Ⅳ（中世）

町 田 隆 吉

中国の西北に位置する新疆ウイグル自治区の吐魯番盆地の古墳群から出土した古文書の内容の整理・分析を通して、3～8世紀の吐魯番盆地の歴史を概観するとともに、その社会の特質を論じ、あわせてこの地域と中国の諸政権（晋-唐）・北方の遊牧民族及び西方諸地域との関係に言及したい。

東洋史特講Ⅸ（近世）

吉 田 寅

明・清時代以降の中国キリスト教史を、中国文化史の流れの上において講述する。特にヨーロッパ文化の中国流入および、それに対する中国人の対応を中心に考察する。なお、講義の展開と関連しつつ、史料の解説を行い、より深い研究への手引きとする。

〔教科書〕史料プリントを配付する。

東洋史特講Ⅹ（近・現代）

渡 辺 惇

近代中国民衆結社史：近代中国における民衆の動きを理解する一環として、秘密結社（会党・帮会）をとりあげ、その発生、発展、組織の特色、時代背景等について講義する。

〔教科書〕特に定めない。

〔参考書〕講義の中で紹介、指示する。

東洋史特講Ⅻ（近・現代）

安 藤 正 士

第二次世界大戦後の日本と中国との関係を、中国の国内建設、国際環境、日本の政治、経済発展の視角から考察する。教科書および参考書は開講時に指示する。

東洋史特講Ⅷ (周辺史)

片岡 一 忠

満洲族の王朝、清朝の「周辺」に対する政策を、清代(1644-1912)を通じて考察する。

西洋史特講Ⅴ

中 村 純

古代ギリシアの歴史は、そこに固有の国家形態であるポリスの形成と発展、そして衰退の歴史に他ならない。このポリス社会の政治的・文化的側面について考える予定である。

〔教科書・参考書〕開講時指示。

東洋史特講Ⅳ (周辺史)

田 中 通 彦

近代以前の朝鮮半島及び中国東北を舞台に活躍した諸民族とその文化、国家形成とその展開の過程を概説する。その際、この地域の特異な地理的・生態的条件とも関連させ、その基層文化、生活文化のあり方にも触れ、平板な王朝交替史に陥らないようにするとともに、近代以前の東アジア世界におけるこの地域の史的展開の特異性を、中国・日本の史的展開とも比較しつつ認識できるようにする。各時間ごとの講義内容の理解を助けるための資料等をその都度配布する予定である。

考古学特講Ⅰ

高 浜 秀

ハンガリーから中国の北方オルドス地方に至るユーラシア北方草原地帯では、紀元前1000年紀に青銅器時代から初期鉄器時代へ移行すると共に、紀元前8～7世紀頃、スキタイ系騎馬遊牧民文化、あるいは初期遊牧民文化と総称される一連の文化が興った。今回の講義では、これらの文化を概観する。

西洋史特講Ⅰ

長谷川 岳 男

西洋史を専攻する学生諸君は、将来に備えて語学力を養うことが望まれる。この特講Ⅰでは、平易な英文をテキストとして、西洋史の概説的知識を身につけるよう、演習形式をとる。新2年生および昨年度履修できなかった西洋史専攻希望の3年生は必ず出席すること。テキストは第1時限目に指示する。

考古学特講Ⅲ

飯 島 武 次

周文化の考古学研究。

西洋史特講Ⅱ

三小田 敏 雄

原始キリスト教から現代までのキリスト教を概説する。西洋史概説の講義と重複する部分は省略して、各時代のキリスト教の特色と問題点を明確にしてみたい。教科書および参考書は開講時に指示する。

日本仏教史Ⅲ

廣 瀬 良 弘

仏教の歴史の流れを概観し、のちに平安末・鎌倉・室町・近世にかけての仏教と社会・文化とのかわりについて講述する。

〔参考書〕参考史料は随時コピーして配布。

日本文化史Ⅱ

廣 瀬 良 弘

日本文化の流れを概観し、とくに北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元

緑文化等、中世から近世にかけての文化について詳述する。

西洋文化史 I

椽川 一 朗

西洋の都市（とくにドイツ都市）の歴史を、社会構成を中心に講述する。

〔参考書〕椽川著『ドイツの都市と農村』（吉川弘文館）¥2,900

西洋文化史 II

三小田 敏 雄

平成3年度ヘレニズム世界を取り上げ、ローマの出現までを学んだ。本年度はローマ帝国の歴史を前31年から紀元後150年頃までを取り上げ、その間の政治・社会の情勢、法律、教育、軍隊、文学、芸術など文化の諸相を詳しく学んで行きたい。前・後期2回のレポートを提出して貰う。

〔教科書〕ベンコ編 新田一郎訳『原始キリスト教の背景としてのローマ帝国』（教文館）¥4,635

- 〔参考書〕
1. モンタネッリ『ローマの歴史』（中央公論社）
 2. モンテスキュー著『ローマ人盛衰原因論』
 3. ギボン『ローマ帝国衰亡史』（筑摩書房）

考古発掘実習

千葉 基 次

一般的に言えば、考古学は机上の実習の一方で、遺跡を調査するための技術も必要とする。十分な技術は、一回の実習で身に付くと思えないが、いつの場合も基本・基礎の変わることはない。発掘調査は、一人では実施できないので、学友とこの基礎を、汗と泥にまみれて野外実習する経験も良いでしょう。

考古学実習（写真）

鈴木 昭 夫

前期に於ては、講義を主体とし随時実技実習を組み込み写真基礎技術をマスターし、後期には、実技を中心とし特殊写真特に考古、美術写真の撮影及び暗室技術の習得を目ざす。年度第1週目の講義に必ず出席のこと。

尚夏期に於て、発掘現場写真撮影の実習を行なう事も考慮している。

〔参考書〕鈴木昭夫他共著『研究者のための資料写真の撮り方』（理工学社）

考古学実習（測量）

栗 山 稔

遺跡調査等において必要となる測量の基礎知識と技術取得、特に後者に重点を置き講義・実習を行う。夏休みに3～4日の集中実習に参加することが必要である。年度第1週目の講義に必ず出席のこと。

〔教科書〕壇原 毅著『測量の基礎』（山海堂）

考古学実習（石器）

田 中 英 司

石器研究の基礎である石器の観察と石器実測図についての講義を行う。石器の研究史と実測図の歴史、石器製作と打撃の原理、投影法、表現法等の基本的知識と、それをふまえた実技を通して、考古資料の記録と観察法を学ぶ。

〔教科書〕プリントを配布する。

考古学実習（土器）

酒 井 清 治

出土遺物である「もの」の調査は考古学の基本であるとともに、その後の研究の基礎資料となる。出土遺物の一つである土器を通して、実測の目的および基礎技術、観察の方法などを理解できるようにする。

〔参考書〕大井晴男著『野外考古学』（東京大学出版会）

『発掘調査の手びき』（国土地理協会）
服部敬史著『発掘と整理の知識』

(東京美術)
『考古学調査研究ハンドブック 2.
室内編』(雄山閣)

地誌学

今朝洞 重 美

地誌学の本質を説明しつつ、日本地誌と外国地誌を講義する。

地誌学

長 野 寛

前期は地理学における、地誌学の概念と役割を発達史的に講義する。後期は学習時点で、国際的に関心をもたれている地域の中から、当事国の地誌を学習することにしたい。講義はプリント資料を中心に進めるが、教科書・参考書は開講後に指示する。

地誌学

宮 口 侗 妣

日本という「地域」をどのように理解すればよいかということテーマとしながら、地誌学のあり方を講じていきたい。風景の持つ意味を理解してもらい、日本を相対化するために非日本的な世界にもふれる。

人文地理学概説

小 林 高 壽

教職のための人文地理学を概説するのである。そのために①人文地理とは何か(本質論)②人文地理をどう教えるか(教授論)③教える立場と教わる立場の考察(教育論)④人文地理の基盤となるべき自然地理の内容はどうなっているか(体系論)⑤自然環境及社会環境とは(相互作用論)⑥地図と地理統計をどう読むか(教材論)⑦地理学にあらわれてくる人物をどうとらえるか(主体論)⑧人文地理の教育と研究について(教養論)等にわたって講述したい。

地図帳と最新地理統計(小冊子になっている)は持参して貰いたい。

[教科書] 長谷川典夫編著『教養のための地理学トピックス』(大明堂) ¥2,800

[参考書] 高校用地図帳(アトラス)と、二宮書店編『地理統計』

歴史地理学

桜 井 正 信

歴史と地理を、実証と理論に基礎をおいて、総合的にみていきます。

哲学史

丸 山 豊 樹

この講義の内容は「近代哲学史」である。近世哲学も古代・中世の哲学の発展であるから、最初は古代・中世の哲学との関連を概観した後で、近世独自の思想を論ずる。

近代を特徴づける最初の哲学は「イギリス経験論」と「大陸合理論」であるが、それを総合するカントの哲学は、近代の「科学」を対象とする最初の哲学とみなすことができ、その内容は現代においてもなお多くの問題を含んでいる。まずカントを重点的に論じた後で、その後の多様な現代哲学に論及するつもりである。

[教科書] その都度指示する。

[参考書] その都度指示する。

歴史哲学

麻 生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

[教科書] 麻生 建『解釈学』(世界書院)
¥2,500

美術史概説

中 島 亮 一

昨年度は日本の美術を古代（藤原京時代から平安時代末期まで）を中心にみて来た。それをうけ今年度は中世から近世の一部（鎌倉時代から江戸時代前期まで）に重点をおいて、スライドや文書・記録類も併用して考察する。

〔教科書〕辻 惟雄他編著『美術史〈日本〉』（近藤出版社）¥2,060

〔参考書〕適宜指示する。

西域美術史

相 馬 隆

東西文化交流史、東西美術交渉史の視点より、ターリム盆地周辺地区の所謂オアシス国家群と其の美術はいうまでもなく、葱嶺の西に横たわる壮大な絹の道に就いて、道程、宿駅等隊商路の実相を復元究明し、併せて、東西にまたがる文物の有機的連関関係に関し、講述を進めるものである。（スライド使用）

仏 教 美 術

中 島 亮 一

仏教美術全般の問題を背景にして、仏教美術が展開して来た過程をスライドも併用し、諸尊像が出現して来る背景、その表現の様式的な変化、さらにそこにこめられた精神的（宗教的）な意味などを考察する。

〔教科書〕佐和隆研編『仏教美術入門』（社会思想社・教養文庫576）¥720

〔参考書〕久野 健著『仏像の歴史』（山川出版社）¥1,600

中国歴史文学

中 村 璋 八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間

行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』（明徳出版）¥2,170

ラテン語特講

野 島 利 彰

かつてヨーロッパ文化を支えた教養言語であるラテン語を、平易な教材を用いて初級の段階から学びます。

〔教科書〕樋口・藤井著「詳解ラテン文法」（研究社）¥1,640

日本民俗学

谷 口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

社会学科

基礎教育科目

社会学概論(坪井 健)	127
社会福祉原論(伊藤 秀一)	127
心理学概論(篠原 英壽)	127

専門教育科目

社会統計学(川崎 賢一)	127
社会学史(安藤 喜久雄)	127
社会学方法論(金丸 由雄)	128
社会調査(川本 勝)	128
社会調査実習(坪井 健・川崎 賢一 山本 康正)	128
マスコミュニケーション(川本 勝)	128
産業社会学(安藤 喜久雄)	128
都市社会学(文屋 俊子)	128
農村社会学(文屋 俊子)	129
家族社会学(山手 茂)	129
法社会学(小林 弘人)	129
宗教社会学(芳賀 学)	129
社会心理学(坪井 健)	129
社会病理学(山本 康正)	129
外書講読Ⅰ(金丸 由雄)	130
外書講読Ⅱ(坪井 健)	130
社会学特講Ⅰ(橋爪 敏)	130
社会学特講Ⅱ(山本 康正)	130
社会学特講Ⅲ(川崎 賢一)	130
社会学原論(渡辺 源樹)	130
図書館学Ⅰ(山崎 慶子)	130
図書館学Ⅱ(源 昌久)	131
社会福祉調査論(坂田 周一)	131
社会福祉援助技術総論(田村 健二)	131
社会福祉援助技術各論ⅡB (社会福祉調査技法)(小林 昭二)	131
法学(福祉)(小林 弘人)	131
社会福祉援助技術各論ⅠA (ケースワーク論)(高橋 重宏)	131
社会福祉援助技術各論ⅠB (グループワーク論)(川廷 宗之)	132
社会福祉援助技術各論ⅡA (コミュニティ・ワーク論)(永田 幹夫)	132
リハビリテーション論(原田 信一)	132
社会福祉計画論(和田 敏明)	132
社会福祉運営論(永田 幹夫)	132
家族福祉論(田村 健二)	133
児童福祉論(高橋 重宏)	133

障害者福祉論(原田 信一)	133
老人福祉論(前期:東條 光雅) (後期:中野 いく子)	133
地域福祉論(永田 幹夫)	133
公的扶助論(伊藤 秀一)	134
医療福祉論(春見 静子)	134
婦人福祉論(林 千代)	134
保健福祉論(安梅 勅江)	134
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ (障害児(者)施設・機関等)(伊藤 秀一)	134
社会福祉援助技術演習Ⅰ(児童・家族) (高橋 重宏)	134
社会福祉援助技術演習Ⅱ(児童・家族) (高橋 重宏)	135
社会福祉調査実習(前期:東條 光雅) (後期:坂田 周一)	135
社会福祉学特講Ⅰ(児童)(長谷川 重夫)	135
社会福祉学特講Ⅱ(老人)(長浜 恭子)	135
社会福祉学特講Ⅲ(障害児・者) (金子 勇)	135
社会福祉学特講Ⅳ(相談・援護) (松本 栄二)	135
社会福祉学特講Ⅴ(保健・医療) (安梅 勅江)	136
社会保障論(近藤 功)	136
社会福祉発達史(林 千代)	136
社会福祉外書講読(伊藤 秀一)	136
海外社会福祉論(中野 いく子)	136
社会学(福祉)(山手 茂)	136
心理学(福祉)(井上 孝代)	137
医学一般(小林 臻)	137
介護概論(石黒 チイ子)	137
社会福祉援助技術現場実習Ⅰ〔社会福祉実習Ⅰ〕 (前期:東條 光雅)	137
(後期:永田 幹夫)	137
障害児教育原論(井田 範美)	137
心理学史(佐久間 章)	137
心理統計学(篠原 英壽)	138
心理学実験(実習)(篠原 英壽・小野 浩一 谷口 泰富・茅原 正)	138
心理学研究法(小野 浩一)	138
基礎心理学Ⅰ(人格)(谷口 泰富)	138
基礎心理学Ⅱ(発達)(篠原 英壽)	138
基礎心理学Ⅲ(学習)(小野 浩一)	138
基礎心理学Ⅳ(社会)(萩原 滋)	138
基礎心理学Ⅴ(臨床)(中村 昭之)	139
心理学研究Ⅰ(実習)(佐久間 章)	139
心理学研究Ⅱ(実習)(茅原 正)	139
心理学研究Ⅲ(実習)(中村 昭之)	139
心理学研究Ⅳ(実習)(篠原 英壽)	139
心理学研究Ⅴ(実習)(小野 浩一)	139
心理学研究Ⅵ(実習)(谷口 泰富)	139
生理心理学(谷口 泰富)	140
環境心理学(山本 多喜司)	140

情報処理Ⅰ（大塚 秀治）	140
情報処理Ⅱ（大塚 秀治）	140
児童心理学（横山 剛）	140
産業心理学（高橋 誠）	140
カウンセリング（鈴木 順一）	141
心理検査法Ⅰ（森山 敏文）	141
心理検査法Ⅱ（森山 敏文）	141
禅心理学（茅原 正）	141
心理学特講Ⅰ（佐々木 雄二）	141
心理学特講Ⅱ（佐々木 宏幹）	141
心理学特講Ⅲ（讃岐 真佐子）	142
精神医学（柴田 出）	142
社会政策（小越 洋之助）	142
民法（青山 尚史）	142
労働法（藤本 茂）	142
行政法（鶏徳 啓登）	143
経済原論（浅野 克巳）	143

〔 〕内は昭和62年度以前入学生適用科目名

社 会 学 科

基礎教育科目

社会学概論

坪 井 健

社会学は、多くの人にとって初めて出会う学問である。「社会学とは何か?」。この問いに答えることは難かしいが、要は私たちの日常的な様々の社会経験を社会システムとの関連で理解するための知的枠組の1つであると言える。

この講義では、そうした点を考慮して社会の経験的な諸事象に対する社会的な見方の獲得を主眼とし、当初は社会学の基礎的概念の理解に努め、その後、現代社会の諸現象を選択的に分析していく中で、社会的分析の有効性を見極めていきたい。

〔教科書〕『社会学概論』『統計からみる社会学』(学文社)

社会福祉原論

伊 藤 秀 一

本講では、受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることに留意しつつ、まず、社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで、社会福祉の生成過程、制度的なしくみ、各分野の現状に論及する。

さらに、社会福祉の今日的課題を講述し、一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕仲村優一著『社会福祉概論』(誠信書房) ¥1,700

心理学概論

篠 原 英 壽

この講座は基礎教育科目に組入れられているが、専門科目であるので、心理学の関与している問題を全般的に取上げたい。そこで、心理学とはどの

ような学問か。その研究方法・研究対象、及び意義について講義し、さらにこれまでの研究成果をもとに具体的事例に即して、上述したこととの関連を紹介したい。

〔教科書〕『心理学概説』(八千代出版)

専門教育科目

社会統計学

川 崎 賢 一

社会調査を企画・実施し、調査結果を集計・分析するための、知識と技術を習得することを目的とする。前半は、①社会調査のプロセス、②記述統計の理解、③ワープロソフトの基本操作、を目指す。後半は、①クロス集計、②統計的検定、③多変量解析、等の、分析法を中心にする。

いづれにしろ、出席を前提として、簡単なテストやパソコン実習なども、平行して行なう予定である。

〔参考書〕ホーエル(浅井・村上(訳))『初等統計学』(培風館)

ボーンシュテット、ノーキ(海野・中村(訳))『社会統計学』(ハーベスト社)1990年 ¥2,987

社会学史

安 藤 喜 久 雄

過去から現代に至る主要な社会学理論を概観するとともに、社会学理論の中であって現代に大きな影響を与えている主要な理論を中心に講義を進める予定である。

〔教科書〕新睦人 他著『社会学のあゆみ』(有斐閣新書) ¥800

新睦人 他著『社会学のあゆみ—パートⅡ』(有斐閣新書) ¥700

社会学方法論

金丸由雄

社会学に於いては、しばしば社会構造という言葉が用いられているが、この言葉ほど実は人により様々な使い方がなされてきた概念はないと言って良い。にも拘らず、社会の構造という概念は、社会の安定した状態のみならず変化を考える為にも不可欠である。本講に於いては、従来行われて来たいくつかの定義を比較検討し、更にそれらをいくつかの調査結果に適用し、より満足すべき定義を試みる。

〔参考書〕その都度指示する。

マスコミュニケーション

川本勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようななかかわりをもっているか、社会学的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

社会調査

川本勝

社会調査は、社会的現実を科学的、実証的に把握、分析するための研究方法である。それは、直接現地調査によってデータを蒐集し、分析することに特色がある。

そこで、まず社会学理論と仮説と社会調査との関係を考察し、社会調査の手順にしたがって講義を進める。社会調査実習で具体的なテーマのもとに調査を実施するので、実習とのかねあいを配慮しながら、調査を実施する上で特に注意しなければならない点やデータ蒐集の技法、データの読み方、検定の仕方などを検討する。

産業社会学

安藤喜久雄

産業社会学の生成、発展について概観するとともに、主要な領域について解説し、そこでの諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているか考察する。

〔教科書〕安藤喜久雄他著『産業と組織の社会学』（学文社）

都市社会学

文屋俊子

都市社会学の成立と展開、都市化、都市的生活様式、都市の社会構造についてとりあげる。とくに現代日本の大都市におけるひとびとの生活様式、生活の場としての都市における諸問題について、最近の研究をとりあげ、議論したい。

参考文献として、外国の新旧の論文を集めたものとして、鈴木 広編『都市化の社会学（増補）』誠信書房 3,800円

日本の論文を集めたものとして、『リーディングス 日本の社会学7 都市』『リーディングス 日本の社会学5 生活構造』東京大学出版会 各 2,500円などが適切かと考えている。

社会調査実習

坪井 健・川崎 賢一
山本 康正

社会調査の技法をマスターすることを目的として、主として統計調査の実習を行う。まず社会調査の手順をひととおり理解した上で、調査の企画、設計、データの収集、集計、分析、報告書の作成の一連の作業を実施する。

データの集計及び解析には、コンピュータも併用する予定である。

尚、調査実習は、通常の講義科目とは異なり、実際の作業を通じて社会調査の技法を修得することが目的であるので、遅刻、欠席は厳しくチェックする。

〔参考書〕その都度指示する。

農村社会学

文 屋 俊 子

現代の農村をとりまく環境は、さまざまな意味で大変厳しい状況にある。かつて日本文化のひとつの型を代表し、その基底にあった農村社会がうちつづく構造変化の波のなかでどこへ行こうとしているのか、新旧の研究・報告を通じて考えるてがかりを求めている。

1. 都市と農村
2. 村落共同体
3. 村落の伝統的組織と集団構造
4. 農村の家族
5. 農村の都市化
6. 農村の社会問題と地域開発
7. 現代の農業問題と農村の将来

〔参考書〕『リーディングス 日本の社会学 6 農村』東京大学出版会 2,500円

家族社会学

山 手 茂

家族は最も古い社会集団のひとつであるが、社会の変化とともに不断に変化しており、現代においては家族解体化・家族機能の縮小化が進み、家族問題・家族病理現象が深刻化している。このような観点から、この講義では次のようなテーマをとりあげる。

- I. 家族社会学の課題と方法
- II. 社会の変化と家族の変化
- III. 家族構成と家族関係
- IV. 家庭生活と国民生活
- V. 家族問題・家族病理現象と家族福祉

なお、夏休みにはレポートの作成を求める。

〔教科書〕使用しない。

〔参考書〕随時紹介する。

法社会学

小 林 弘 人

前期は、法社会学の基礎理論（学説の説明が中心になる）の解説、後期は、法と社会の関連について、具体的テーマを設定して講義する予定である。

その他、諸般のことからについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕及川 伸著『法社会学入門』（新版）

（法律文化社）

〔参考書〕六本佳平著『法社会学』（有斐閣）

宗教社会学

芳 賀 学

宗教と社会との関係について、以下の2つのテーマを扱う。

まず、一つ目は、近代化（≒産業化）と宗教との関わりについてである。古典的なウェーバーの論説から近年の所謂「世俗化論」までをこのテーマの中で扱っていくこととしたい。

二つ目は、より現代に限定して、若者と宗教の関わりを扱う。新新宗教の動向を中心に、古い・セミナーについても考察を加えていくこととする。

〔教科書〕なし

〔参考書〕開講時以降に指示する。

社会心理学

坪 井 健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会学的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理（行動）に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理（行動）に関心をもち、社会過程を重視する社会学のアプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。

〔教科書〕穴田義孝編『こころ・行動そして社会』（人間の科学社）

社会病理学

山 本 康 正

前期には、社会病理現象の分析に使用されてきた諸理論を歴史的に概観する。後期には、犯罪、非行、公害といった具体的な病理現象について、わが国の現状を明らかにする。教科書は特に指定しないが、参考文献については講義の中で随時指示する。

外書講読Ⅰ

金丸由雄

講読する英文は易しすぎても難しすぎてもいけない。又内容は参加者の興味と出来るだけ合致することが望ましいので、テキストはクラスの諸君と相談して決定する。

外書講読Ⅱ

坪井健

外書講読Ⅱは、原書(英文)の講読を通して社会的なものの方の見方や考え方を深めることを目的とする。具体的には、いくつかの論文を輪読しながら、討議し、理解を深めていくことになるが、テキストは開講時に指示する。

社会学特講Ⅰ

橋爪敏

本講では、政治社会学的諸問題について取り扱うことになる。政治社会学は、政治現象について社会的アプローチを試みる一分野である。したがって、社会学の対象としての人間諸関係の政治的側面とそれ以外の社会的諸側面との関連が問題となる。そこで、政治社会学とは何かを問うことを始め、大衆民主主義社会の状況、大衆とエリート、政治(社会)運動、政治的社会化等を問題としたい。“特講”と名づけられているが、講義という形式よりも、参加学生諸君の主体的研究を促す意味において、文献の講読ならびにディスカッションを中心として授業を行うことになる。
〔教科書〕未定。

社会学特講Ⅱ

山本康正

災害の社会的な研究について、その歴史と現状を講義する。前期には、災害全般について、その本質論、意識論、及び災害現象分析のための理論的枠組みについて講義する。後期には、いくつかの具体的な災害事例をとりあげて、人々の行動特性や組織的、地域的な対応について検討する。教科書は特に指定しないが、参考文献については講義の中で随時指示する。

社会学特講Ⅲ

川崎賢一

文化について、比較社会学の観点から講義する。前半は、高度情報化が現代文化に与える影響について論じる。(具体的には、①メディア文化(TV・ビデオ・パソコン等)、②情報化と社会秩序(英・米・日の比較を中心に)、を予定している。後半では、国際化と日本文化について講じる。予定としては、①比較青年文化あるいは青年の国際化に関する諸問題、②映画にみる日本人の国際化(黒沢明を中心として)、等を考えている。
〔参考書〕高橋勇悦・川崎賢一(編)『メディア革命と青年』(恒星社厚生閣)1989
吉田民人(編)『社会学理論でとく現代のしくみ』(新曜社)1991

社会学原論

渡辺源樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

図書館学Ⅰ

山崎慶子

小学校、中学校、高等学校等各々の学校の教育目標を達成するために学校図書館はなくてはならぬ設備である。

人格形成期にある児童生徒たちが多くの事を学び教養や趣味を豊かに育てるためには、教科書の他にたくさんの資料が必要となる。児童生徒たちが生涯にわたって学ぶことの面白さを知る魅力ある学校図書館はどうあるべきか、そのためにはどのような研究や工夫が必要か。学校図書館を預かり教員の中心的存在として活躍する司書教諭の職務内容全般について、特に読書指導の意義及び資料利用の技能育成について考察を深めたい。

前期講義は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」、後期は「学校図書館の利用指導」「読書指導」。

〔教科書〕図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』(学芸図書)¥1,442

図書館学Ⅱ

源 昌 久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕日本図書館協会分類委員会改訂編集『日本十進分類法 新訂8版』（日本図書館協会）
日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則1987年版』（日本図書館協会）

社会福祉調査論

坂 田 周 一

本講義では、社会福祉の分野でなされる調査の特質をおさえた上で、調査ならびに統計に関する基本的な知識・技術について講じてゆく。

本科目は、「社会福祉調査実習」に結びつき、実習前教育としても位置づけられるものであるため、調査技法に関しても具体的に展開するつもりである。

〔教科書〕開講時に指示する。
〔参考書〕随時紹介する。

社会福祉援助技術総論

田 村 健 二

個と集団・社会の生活統合のバランスが重大化しつつある今日にあって、これに対応する社会福祉実践の基本的態度と技術を学ぶことが中心となる。

具体的には、社会福祉専門技能の基礎知識と関連理論、歴史的展開過程、現代社会におけるその独自の社会的機能、専門職倫理等を明確化させてゆきたい。また同時に、臨床事例を用いて、これらができる限り単なる知識ではなく、身についた態度・技能として生かせるよう、体験的学習を図ってゆく。そして最後に、21世紀の人類の最大の課題となろう人間同志、さらには人間と自然を生かし合う自己実現展開の方途を考究しておきたい。

〔教科書〕追って指示する。

〔参考書〕田村健二・田村満喜枝『離婚の人間学』（システム・ファイブ社）¥1,854
福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉援助技術総論』（中央法規出版）¥2,500

社会福祉援助技術各論Ⅱ B （社会福祉調査技法）

小 林 昭 二

この講義では社会福祉を考えてゆくのに必要な、調査と統計に関する知識と技法を説明する。

社会福祉に関する調査統計は、人口をはじめとし一般の世帯や、高齢者世帯、生活保護世帯、身体障害者等特定のニーズを有するものなど、範囲がきわめて広い。

このような調査の実施や統計の分析が、どのようにして実証性と客観性を持ち得るかを、具体的に取扱う。

〔教科書〕『厚生統計テキストブック』（厚生統計協会）¥1,500

〔参考書〕教場で指示する。

法 学（福祉）

小 林 弘 人

本講義は、教科書『社会福祉のための法入門』を使用して、憲法25条を具体化する社会福祉・社会保障に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕小林弘人編著『社会福祉のための法入門』（川島書店）¥2,000

〔参考書〕小川政亮著『社会事業法制』（第2版）（ミネルヴァ書房）¥2,500

社会福祉援助技術各論Ⅰ A （ケースワーク論）

高 橋 重 宏

社会福祉援助活動の専門技術の1つである個別援助技術（ソーシャル・ケースワーク等）について、まず、ケースワークの意義、定義、歴史的展開過程、原理、ソーシャル・トリートメント過程、関連理論などについて論及する。さらに、ケースワークの臨床事例を紹介し、ソーシャル・ケースワークとは何かが、一応体系的に理解できるよう

につとめたい。また、関連する個別援助技術についても概説したい。

なお、後期の臨床事例研究では、小グループでのディスカッション、発表など、学生の主体的参加を求めるので留意しておくこと。

〔教科書〕高橋重宏他編『ソーシャルワークを考える』（川島書店）

〔参考書〕福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉援助技術各論Ⅰ』（中央法規出版）
¥2,500

社会福祉援助技術各論ⅠB (グループワーク論)

川 廷 宗 之

グループ・ワークは、ソーシャル・ワークにおける一つの専門技術と理解されるが、その原理および技術は単にソーシャル・ワークのみにおいて活用されているばかりではなく、生涯教育活動や企業内研修などにおいても広く活用されている。この科目では、そのグループ・ワークについて、原理となっているグループ・ダイナミクス理論、実際のグループ・ワーク実践上の各種の原理原則、そして、具体的実践における専門技術について、具体的な課題にもとづく演習を中心しつつ、講義や実験（授業内での）実習などの方法で学ぶ。なお、テキストとして、大塚達雄他編著『グループワーク論』（ミネルヴァ書房）を使用するので用意されたい。

〔教科書〕大塚達雄他編著「グループワーク論」
(ミネルヴァ書房)

社会福祉援助技術各論ⅡA (コミュニティ・ワーク論)

永 田 幹 夫

社会福祉援助技術各論ⅡAは社会福祉援助技術の中で、コミュニティ・オーガニゼーションまたはコミュニティ・ワーク（地域援助技術）を指すものとされている。今日の社会福祉改革期に当たり、方法技術論についても視座を変えて研究をすすめる時期にあるが、本講ではそうした問題にふれつつ、方法技術の理論的概要、発展過程および実践的適用のあり方について明らかにしていきたい。

〔教科書〕永田幹夫著『地域福祉論』
(全国社会福祉協議会) ¥2,000

リハビリテーション論

原 田 信 一

リハビリテーション領域のなかで、学問的にいちじるしく遅れをみせているのが社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも現実的で、しかも難解な社会福祉問題を抱えていることが、いちじるしい遅滞をもたらす原因になっているといわれる。そこで、本講義はとくに、社会リハビリテーションの基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等について概説したい。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕随時指示する。

社会福祉計画論

和 田 敏 明

地域福祉を基調とする社会福祉の転換が、地方分権化、社会福祉供給システムの多様化、責任主体の多元化を伴い進行している。こうした状況を踏まえ、社会福祉ニーズを社会福祉の組織運営的に的確に反映し、福祉サービスを系統化・総合化したり、広く市民の社会福祉への参加を促すことをねらいに、社会福祉の計画化が要請されている。その内容は、処遇計画・社会資源の調達計画・社会計画のなかの社会福祉計画・行政計画・活動・行動計画等の社会福祉計画である。平成5年度から都道府県および、市町村行政は「老人保健福祉計画」の策定が義務づけられた。講義では国・都道府県・市町村・小地域の各段階の計画や今日の焦点である「地域福祉計画」「老人保健福祉計画」を中心に、その理論と方法及び具体的事例についての検討を行ないたい。

社会福祉運営論

永 田 幹 夫

社会福祉サービスの普遍化に伴ってその規模は急速に拡大・複雑化し、社会福祉の運営管理を包括的にとらえるソーシャル・アドミニストレーションの研究が注目され、重視されてきている。本講ではその概念成立に至る歴史的経過、手法技術、現代的課題及びこれらに関連して社会福祉政策、

行政を含む今日の社会福祉実践上の問題点に迫ってみたいと思う。

〔教科書〕改めて指示したい。

家族福祉論

田村 健二

現代の家族生活の状況を、社会との関係、および家族内の関係から明らかにし、そこでの問題と課題を考察してゆく。次いで、こうした問題と課題をもつ家族の機能をいかに支援してゆくか、主に現今の家族福祉にかかわる制度とサービスの側面、ならびに今後に要望される福祉機能の側面について、解明してゆく。個別化し孤独化しつつある現代にあって、国民にわたる健全な在宅福祉は、家族生活に基盤がある。家族福祉が重視されるゆえんである。

〔教科書〕田村健二『家族—社会の鎖・夫婦親子の鎖—』（金子書房）
¥2,000

〔参考書〕田村健二監修『老人と家族の相談ケース集』1, 2（誠信書房）
各¥2,200

児童福祉論

高橋 重宏

「児童福祉」が社会福祉の制度として成立している以上、それはただ単に子どもの幸せを願うというものではなく、子どもが権利主体であることを前提として、その権利を保障する社会の責任を明確に打ち出すものでなければならない。なぜなら、制度としての児童福祉は、社会が子どもを保護・養育する責任を分担することによって展開してきたからである。

本講義では、主として児童福祉法と子どもの権利条約の考察を通して、児童福祉の基本理念と児童福祉制度の概要を明らかにする。

〔教科書〕高橋重宏編『児童福祉を考える』（川島書店）

〔参考書〕開講時に指示する。

障害者福祉論

原田 信一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に溯りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識

を基盤においた正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって惹起が予測される障害者問題発生メカニズムを究明すると同時に、また、その対応方法、さらに政策、処遇のあり方などに加え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たな課題構築点などに重点をおき講じたい。

〔教科書〕星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』（改訂版）（有斐閣）

〔参考書〕(1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』（高文堂）

(2)原田・吉田編『心身障害児（者）の心理・教育・福祉』（文化書房博文社）

老人福祉論

(前期) 東 條 光 雅
(後期) 中 野 いく子

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想され、老人福祉施策は近年流動的に変化している。わが国においては、約30年後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、現状改善という視点からだけでなく、長期的な展望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では、老人福祉施策の歴史的変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔教科書〕冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編

『老人福祉』第2版（海声社）¥1,640

〔参考書〕三浦文夫編『図説高齢者白書1991』（全社協）¥2,700

厚生省大臣官房老人保健福祉部老人福祉課監修『老人福祉関係法令通知集1991年度版』（老人福祉開発センター）
¥3,500

地域福祉論

永田 幹夫

今日における急速な社会福祉改革の方向を示すものとして1970年代以降に登場したのが現代的意味での地域福祉論である。地域福祉の概念およびその支柱たる在宅福祉サービス提供システムの開発とその方法に関する基礎理論を実践動向に即し

で論究し、地域福祉の全容把握をはかりたい。
〔教科書・参考書〕永田幹夫著『地域福祉論』
(全国社会福祉協議会)
¥2,000

公的扶助論

伊藤 秀一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

なお、テキスト等については開講時に指示する。

医療福祉論

春見 静子

現代の社会福祉は多くの領域で医療との関係をますます緊密なものとし、両者を分離することはできない。児童、障害、老人福祉施設の職員が処遇を行ううえで、医療スタッフとどのように協力していくか、また、病院、保健所、リハビリテーション施設等のソーシャルワーカーが社会福祉をいかに実践しているかを実例を踏えて検証する。

教科書・参考書は授業時に指示する。

婦人福祉論

林 千代

私は、婦人問題の視点から婦人福祉論を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。その状況として、主に母子家庭になった時(父子家庭とも関連)、売買春の問題(性とは何か、婦人保護事業について)、女と老い(老後問題の中で)等が考えられる。どの場合も、女子労働との関連が深いので、主に女子労働をめぐるさまざまな問題を主軸において上記三者に焦点をあわせ講義する。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕随時紹介。

保健福祉論

安梅 勅江

急速な人口の高齢化や国際化、地方の時代といった社会構造の大きな節目と相まって、福祉に対するニーズは大きく変貌してきており、わが国の保健・医療・福祉の諸領域は、今や連携から統合化の時代へと推移しつつあると言える。

従って、本講義では、人間の生涯における身体的・精神的・社会的に健康で豊かな生活を維持する原理及び方法論の希求を目的とした保健福祉学の理念に基づき、健康を基軸に据えた真の生涯福祉のあり方について理論的な整理を行う。さらに、学際的学問領域としての保健福祉学の概念、歴史、方法論を踏まえ、保健福祉の実践に根ざした体系につき概説する。

〔教科書〕日本保健福祉学会編 平山宗宏・高山忠雄監修

『保健福祉学』(川島書店)

社会福祉援助技術現場実習Ⅱ (障害児(者)施設・機関等)

伊藤 秀一

本実習は、「社会福祉士」国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。実習の具体的な展開内容は、「社会福祉士養成のための社会福祉援助技術現場実習指導マニュアル」に基づいて行うことになる。

なお、本実習は、前年度末に学科が実施した選考試験に合格し、かつ、担当教員が許可した、学生が履修できる。履修定員は20人である。

社会福祉援助技術演習Ⅰ (児童・家族)

高橋 重宏

本演習は、「社会福祉士」国家試験受験資格取得の指定科目の一つである。

社会福祉士(ソーシャルワーカー)の業務は相談・援助が中心となる。そこで、社会福祉士として必要な専門援助技法の体得が演習Ⅰ、Ⅱの課題となる。

具体的には事例研究やロール・プレイ(役割演技法)の方法をもちいる。

なお、本科目は、「社会福祉援助技術現場実習」履修者で児童・家族福祉分野専攻の20人のみが履修可能である。

〔参考書〕追って指示する。

社会福祉援助技術演習Ⅱ
(児童・家族)

高橋重宏

社会福祉援助技術演習Ⅰを基盤に、主として、ソーシャルワーカーに必要な自己覚知 (Self-awareness)を深めるために自画像法により展開する。

社会福祉学特講Ⅱ
(老人)

長浜恭子

○高齢化社会問題と老人福祉施設
○施設ケアの特質とその課題
○施設ケアの実際
主に痴呆性老人ケアとグループ活動

社会福祉調査実習

(前期) 東 條 光 雅
(後期) 坂 田 周 一

本実習においては、実際に調査実査をすることによって、調査の企画・設計から集計・分析・報告書の作成に至る一連の作業を体得してもらう。集計・分析には、パーソナル・コンピュータを使う予定である。

具体的には、4名程度の班を作り、班ごとに社会福祉に関する調査を企画・設計してもらう。実査後、集計・分析結果をもとに報告書形式のレポート提出を各人に課す。

なお、パーソナル・コンピュータの使用法については、必要に応じて教授するので未経験だからといって心配する必要はない。

〔参考書〕必要に応じて適宜紹介する。

社会福祉学特講Ⅲ
(障害児・者)

金子 勇

日々の障害者福祉実践の中から導き出された身体障害者に対する専門的援助についての基本的な考え方及び諸技術(一般意味論、ケースワーク、カウンセリング、心理療法等)を障害者の様々な問題(生きがい、職業、結婚、人間関係、年金等)に沿って具体的に展開していくこととしたい。

なお、今年度は、昨年以上に人間理解を得るための実習を多く取り入れ、皆さん自身の課題の解決にも役立つよう配慮することとしたい。

社会福祉学特講Ⅳ
(相談・援護)

松本 栄 二

将来社会福祉士として福祉実践に携わる専門職者となるために、最近必要な(=基本的な)社会福祉援助技術の習得をめざしたコース。ソーシャルワーク実践記録、事例を用いた技術の解明。ビデオによる面接技術の訓練。映画をみての感受性訓練。ロールプレーなどによる自己覚知を通じての対人援助技術の向上等々をめざす。

必要に応じて、援助技術についての理解的基礎についての文献研究と、その検討を集団話し合いによって確めあってゆく。

尚この特講は90分ではなく180分になる事もあるので、その時間帯には他の講義をとらず空白にされる事を望む。

〔教科書〕必要に応じてプリントを配布(実費徴収)

〔参考書〕Skills for Direct Practice in Social Work ; by R.R.Middleman, Columbia Uni.Pres.1990

社会福祉学特講Ⅰ
(児童)

長谷川 重 夫

社会福祉・児童福祉の発達史のなかで最古の歴史をもち、児童福祉の原型ともいわれ、いまも児童福祉体系の中の児童入所施設の中核的位置にある養護施設を中心に、施設養護全般並びに里親養護の理念、歴史および具体的な方法論等について講述したい。

後半では、ケース研究を加え、また施設現場を見学しながら、理論と実践についての統合的理解が深まるようにしたいと願っている。

〔教科書〕特定のものはない。

社会福祉学特講V
(保健・医療)

安 梅 勅 江

わが国の保健・社会福祉の領域から21世紀を見据えた時、社会福祉学といった単一専門領域にとどまる事なく、保健学とのより柔軟性に富んだ形での支援の統合は、社会的要請であると言える。人口の高齢化、生活の質の向上に伴うニーズの多様化の進展とともに、より人間中心的保健福祉の統合への関心が極めて高まってきている現況である。

本講義では、このような背景を鑑み、社会福祉を保健・医療の連携と統合に関する概念、歴史、方法といった基本的な課題は元より、実践に根ざした応用例を課題として、今後の保健・福祉のあり方等を概説するものである。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

社会保障論

近 藤 功

社会保障は、憲法第25条に規定する国民の生存権の保障のための重要な政策体系であり、国政において、優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について、欧米諸国を含め、歴史的發展過程、体系、財政、国際比較等を検討し、その問題点を明らかにする。

特に、わが国の社会保障について、その主要な部門としての所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当等）、医療保障（健康保険等）その他について、制度の現状及び課題を講じる。

〔参考書〕開講時に指示する。

社会福祉発達史

林 千 代

いつの時代にも、人々の生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等

々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』
(ミネルヴァ書房)

〔参考書〕随時紹介。

社会福祉外書講読

伊 藤 秀 一

わが国の社会福祉が「変革」期にある今日、英・北欧諸国の社会福祉の動向には極めて強い関心を持たざるをえない。

本講では、社会福祉に関する原文を輪読しながら、討議し、国際的な視野を広めることに努めた

い。なお、テキストは受講者と相談のうえ決定したい。

海外社会福祉論

中 野 い く 子

前半では、福祉国家を世界で最初に成立させたイギリスを中心に社会福祉・社会保障のアイデアとその政策・制度的変遷を講じることにする。

後半では、受講生の関心に基づいてグループを編成し、北欧やヨーロッパ大陸諸国、アジア諸国の社会福祉の政策、制度を研究・発表してもらうことにしたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕社会保障研究所編『イギリスの社会保障』『フランスの社会保障』『スウェーデンの社会保障』『西ドイツの社会保障』『アメリカの社会保障』

(東大出版会)

社会学(福祉)

山 手 茂

社会福祉学の基礎科学としての社会学の概論を講義する。講義内容は、次のとおりである。

- I. 社会学と社会福祉学
- II. 現代社会と現代人の生活・意識
- III. 現代社会と科学技術
- IV. 現代社会と専門職
- V. 現代社会における家族
- VI. 現代社会における地域社会
- VII. 現代社会における社会問題
- VIII. 福祉社会の形成

〔教科書〕福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座・12・社会学』中央法規出版（新学年度までに改訂版が出版される予定、価格未定）

〔参考書〕山手 茂『社会問題と社会福祉—社会学・社会福祉学論集—』亜紀書房
¥2,800

心 理 学（福祉）

井 上 孝 代

欧米諸国において、社会福祉実践の方法論として心理学が広汎に取り入れられているという現況に基づき、社会福祉にかかわる基礎科学として心理学の分野全般を講義する。

重点的な内容としては、①人間の心理学的理解における心理機能と基礎的概念、②人間の成長発達の様相と障害、③人間理解の学説および諸理論の実際、④心理学的援助の技術と実践、など、社会福祉士の養成における指定科目である「心理学」で学ぶべき内容を整理する。

教科書の指定は特に行わないが、必要に応じて資料、参考プリントなどを用意する。

医 学 一 般

小 林 臻

長寿社会を迎え、各自が心身ともに健全なライフサイクルを送れるための、医学に基礎をおいた健康科学の考え方を述べ、さらに社会福祉専門職としての社会福祉士・介護福祉士に要求されると考えられる保健学・医学の専門的知識について講義する予定である。

〔教科書〕講義開始時に指示する。

介 護 概 論

石 黒 チイ子

人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健医療における介護の役割について理解させ、介護行為の基礎知識、技術、態度を教授する。

後半では、特に成人期にある健康の維持増進の重要性を理解させ、また、老年期にある健康の特徴を理解し、老化に応じた介護、健康障害をもつ老人とその家族に対する介護について教授する。

さらに、社会福祉士及び介護福祉士と福祉関係者との連携の意義とすすめ方等について教授する。

社会福祉援助技術現場実習Ⅰ

（昭和62年度以前入学生：社会福祉実習Ⅰ）

（前期）東 條 光 雅
（後期）永 田 幹 夫

社会福祉の基礎理論として学習した理論・知識・技術を総合的に体得し、専門職員としての倫理性を明確化し併せて自ら積極的に社会福祉の実際を学ぶ態度を確立するためには、社会福祉実習は欠くことができない。本講は実習効果を高めるために、実習の意義を理解して実習分野を自己決定し、かつ社会福祉現業の実態を把握することを目的に、実践現業との接触、見学を行い、各種の教材を活用して講義および討議を行うこととする。

〔参考書〕必要に応じてその都度、指示する。

障害児教育原論

井 田 範 美

障害児教育の理念、目標、内容について健常児の教育と比較対照しながら論述する。しかし、障害児教育は障害種別により成立基盤、発展の過程は異なる。

そこで、障害児全般にわたる基本的知識として各障害、（視覚障害、聴覚障害、運動障害、病弱虚弱、知能障害、情緒障害、等々）に関する諸概念ならびに教育の概要について講述する。さらに知能障害教育の立場から、学校、施設、家庭、社会の各面からの諸問題について論述する。

〔参考書〕佐藤泰正編『障害児教育概説』

（学芸図書）¥1,300

原田・吉田編『心身障害児（者）の心理・教育・福祉』（文化書房博文社）
¥2,800

井田範美著『知能障害児の指導』（明治図書）¥2,700

心 理 学 史

佐久間 章

「心理学は長い過去を持つが、しかしその歴史は短い」と言われる。二千年を越える学問の長い歴史の中で人々は常に人間の本性について考えてきたが、それは心理学というよりむしろ哲学であった。研究者が探究の手段として、自然科学と同様に周到に計画された観察と実験的方法を用いるようになったとき、心理学は初めて独立した新し

い科学の道を歩み始めたのである。

この講義では、前半で心理学を育てる土壌となった哲学的背景、特に17-19世紀の『時代精神』、及び初期の心理学、構成主義と機能主義への生理学及び進化論の影響について述べ、後半では現代心理学の主要な学派、特に行動主義とゲシュタルト心理学について詳述する。

〔参考書〕D. シュルツ著・村田孝次訳『現代心理学の歴史』（培風館）¥7,500

心理統計学

篠原英壽

精神現象の測定に伴う問題点——精神現象の数量化と尺度化に関する問題点、統計的、推計的処理方法の心理学への適用とその限界、心理学において工夫された測定法、処理方法などについて説明したい。

〔参考書〕随時示す。

心理学実験（実習）

篠原英壽・小野浩一
谷口泰富・茅原正

心理学の各領域から基礎的な実験を選び、心理学における実験のデザインの組み方、実施方法、結果の処理法等を実習を通して理解してもらう。さらに、実験レポートの作成について指導する。

〔教科書〕依田 新監修『基礎実験』（心理学実験演習Ⅰ）（金子書房）

吉岡一郎編著『心理学基礎実験手引』（北大路書房）

心理学研究法

小野浩一

心理学における主要な研究法について概観する。その中で、心理学の方法全般にわたる根本的な問題、個々の技法の根底にある基本的な考え方や問題点を明らかにしながら、それぞれの具体的な手続き、また効用や限界について解説する。

基礎心理学Ⅰ（人格）

谷口泰富

人格（パーソナリティ）とは、個人の内部に存在する複雑で力動的な体制である。この講義は人格心理学の概論として、人格の本質論、形成発達論、諸々の人格理論の紹介、研究法の考察などを中心に進めてゆくつもりであるが、折りに触れて人格に関する興味あるトピックスを盛りこんでゆく予定である。

〔教科書〕講座心理学Ⅳ入門人格心理学（八千代出版）

基礎心理学Ⅱ（発達）

篠原英壽

基礎心理学Ⅱにおいては、発達心理学を講述する。その内容は、心理学的成長の各位相である幼乳時期から青年期までを取扱う連続的過程としてのパーソナリティ発達に主眼を置きたい。

上述のことを特に、E. H. エリクソンの精神分析的理論、及びJ. ピアジェの認知理論を中心に取上げたい。

〔参考書〕随時指示する。

基礎心理学Ⅲ（学習）

小野浩一

学習心理学の基礎的な理論ならびに手法について解説し、それらが現代の行動科学の中でどのように活用されているかについて概観する。さらに、人間を含む生物体の行動をコントロールしている変数について実験的行動分析の立場から吟味する。

教科書はとくに指定しないが、参考書および参考文献については講義の際に詳しく教示する。

基礎心理学Ⅳ（社会）

萩原 滋

対人関係に直接的なかわりをもつようないくつかのトピックスをとりあげながら個人の社会行動に関する心理学について概説する予定。

〔教科書〕青木孝悦・萩原 滋・箱田裕司『資料中心一般心理学』（関東出版社）
¥2,000

基礎心理学V（臨床）

中 村 昭 之

- I. 心理療法について
- II. 行動療法について
- III. 認知療法について
- IV. 認知・行動療法について
- V. その他

心理学研究 I（実習）

佐久間 章

現代の言語の科学は社会科学や行動科学、とくに人類学と心理学を利用している。また20世紀の哲学の特徴である記号システムに対する関心も深く、さらに生物科学のいろいろな分野、とくにことばを話したり、聞いたりするのに関わる神経生理学、人間の言語を他の動物のコミュニケーション・システムと比較する比較生物学の分野とも密接に関わっている。さらにまた、コミュニケーション技術の急速な進歩の恩恵をもこうむっている。

このように、科学の新しい分野が目まぐるしく分化していく中で、多くの学問分野が言語を中心にして収束しつつあることは注目に値する。本講義では、実習を基礎にした言語の科学的究明を心理学の立場から試みる。

〔教科書〕G.A.ミラー著、無藤 隆・久慈洋子訳
『入門 ことばの科学』（誠信書房）
¥2,300

心理学研究 II（実習）

茅 原 正

応用心理学の諸研究を通して、文献、実験計画、方法、結果、論文のまとめ方、などを学ぶ。照明、騒音、温熱など、実際の生活場面における社会的・物理的条件が、人間の行動に如何なる影響を及ぼすか、基本的な実験を行う。

参考書、文献については講義の際に指示する。

心理学研究 III（実習）

中 村 昭 之

臨床心理学の理論の講義。各種ジャーナルの輪読、ロール・プレイング、心理テスト、その他の

実習を行なう。

心理学研究 IV（実習）

篠 原 英 壽

心理学研究IVは、これまで開講されていた実験実習（上級）が各領域ごとに分化されて開設されたものである。したがって本来ならば実験心理学の内容を備えるべきものである。しかし取扱う領域が発達心理学であるため、装置及び被験者等の関係上、実験の内容を実習的に行うことには問題もある。

そこで本年は、欧文の専門書及びジャーナルを精読し、その中で扱われている実験・調査研究の方法を習得し、追試可能なものを選択し、その方法に準拠して実験等を行いたい。

なお主たる参考書は下記のもので、そのコピーを用いる。

〔参考書〕Readings in Child Development & Personality: Edited by P.H. Mussen, J.J. Conger, J. Kagan. Harper & Row, 1965

心理学研究 V（実習）

小 野 浩 一

心理学研究のプロセスを統一的に習得することを目的として、文献検索法、論文の読み方、実験デザインの組み方、実験の実施方法、結果のまとめ方、論文の書き方などを含めた総合的な実習を行う。前期は知覚、学習、思考に関する代表的な研究をモデルとして、そこでなされた実験を追試するという形で進めるが、後期には受講者と相談の上適当なテーマを設定して実験を計画したいと考えている。

心理学研究 VI（実習）

谷 口 泰 富

ここでは主に、生理学的指標を用いた種々の測定を行う。実習内容については、初めの時間に説明する。

本講を受講する人は、予め、生理心理学を履修しておくことが望ましい。

〔参考書〕随時紹介する。

生理心理学

谷口泰富

統合的有機体としての人間の行動を明らかにするため、本講は、心理学と生理学の隣接するところから出発し、意識・学習・知覚・情動などの諸概念について考えてゆく。

〔参考書〕 随時紹介する。

環境心理学

山本多喜司

環境が人間に与える影響と、人間が環境に及ぼす影響の相互作用を心理学と境界領域の科学の両面から考えてみたい。環境を物理的環境（自然・都市・建造物）、対人環境（家庭・学校・社会集団組織）、社会文化的環境（規則・慣習・社会制度）の3つに分ける。

具体的なテーマとしては、環境の認知（認知地図）、空間行動（ウェイファインディング）、パーソナルスペース、なわばり、プライバシー、混み合い、環境アメニティ、環境ストレスとメンタルヘルス、環境評価、環境計画、教育環境（子ども部屋、学級環境）、災害と人間行動、公害、交通問題などがある。環境心理学はこれからの学問である。

情報処理 I

大塚秀治

現在、大学においてコンピュータリテラシイは必要不可欠なものとなっている。心理学を研究する上でもコンピュータの利用範囲は広く、その必要性はますます高まっている。

本講座では①パソコンの基本的操作の習得、②統計計算、ワープロ、図形処理、データベース等の基本的ソフトウェアの利用法の習得等を目的とし、一部ビデオ教材を利用した実習形式で行う。

受講にあたってコンピュータの基礎知識は必要ない。遅刻、欠席を許さないので注意を要する。また、期末試験は行わないが十数回のレポート課題の提出が必要である。なお、実習機材の関係で第1回目の講義に出席しないものは履修届を提出しても履修できないので注意されたい。

〔教科書〕 実習資料はすべて配布する。

〔参考書〕 随時紹介する。

情報処理 II

大塚秀治

現在、コンピュータ技術は心理学にとって必要不可欠なものとなっている。人間の情報処理といった、コンピュータモデルは心理学の各領域に取り入れられつつある。また、実験では刺激の生成・制御、反応計測、時間制御、自動化、データ変換等に応用されている。更に、データの統計処理等は心理学全般で利用されており、活用の範囲はさらに拡大している。

本講座では、①応用プログラムを作成するためのコンピュータ言語を習得する、②コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの構造を理解する、③心理学実験のプログラムを実際に作成して応用力をつける、ことを目的とする。

受講にあたっては、1年程度の（心理学特講 III・情報処理 I 修了程度）コンピュータ経験が必要である。期末試験は行わないが、数回のプログラム作成を含むレポート課題の提出が必要である。

〔参考書〕 随時紹介する。

児童心理学

横山剛

ひとは、物理的環境・社会的環境との相互交渉を通して、その潜在的な可能性を実現してゆく。この発達の様相や発達のメカニズム、それを促進する働きかけについて講義する。内容としては、児童期までの行動・知覚・思考・言語・情緒・社会性などの諸側面の発達を考えていく。

〔参考書〕 随時紹介する。

産業心理学

高橋誠

近年のコンピュータ技術革新によって、産業構造、労働組織、労働環境、業務形態、労働意識がどのように変化したか、また、変化しつつあるか、産業現場における実態をとおして明らかにしたい。オフィスないし工場における実態把握の方法論についても、産業心理学史のレビューを加えながら検討していきたいと思う。

カウンセリング

鈴木 順一

カウンセリングにおけるPerson Centered Approach を確立したCarl Rogers の実践する「人間中心の教育」を現実化したい。カウンセリング・ロールプレイ、サイコ・ドラマ、ゲシュタルト・ワーク、エンカウンター等の体験学習を通じて、お互いのパーソナリティの理解と開発（自己実現）をめざす。

〔教科書〕『カウンセリングの理論』（誠信書房）

〔参考書〕『暮しの中のカウンセリング』

（有斐閣）

『カウンセラーへの道』（創元社）

¥1,200

『カウンセリング』（芸林書房）

『新訂カウンセリング』（誠信書房）

『エンカウンター』（誠信書房）

『人間尊重の心理学』（創元社）

『エンカウンター・グループ』

（創元社）

心理検査法 I

森山 敏文

近年、特殊教育の領域、矯正教育の現場、精神神経科領域、さらに産業関係の領域などにおいて、各々の主な目的は異なるものの、様々な心理テストが行われています。中でも質問紙法によるパーソナリティ・テストや知能テストあるいは器具を用いた知能テストなどは、その評価や解釈に伴う専門的なトレーニングは常識的なこととしても、少なくともある程度の知識や技能を習得していることは、時代の要請といえましょう。

本講座では、心理テスト・マニュアルとして、受講者の実際の体験を基本にしながらも、グループ・ディスカッション、レポート作成などを通じて、心理テストの原則について学んで頂きたいと考えています。

〔教科書〕必要に応じて紹介したいと思います。

心理検査法 II

森山 敏文

本講座では、ロールシャッハ・テスト、描画法、TAT、SCTなどという、いわゆるプロジェクトブ・テクニクについて体験学習を中心に進

めていきたいと考えています。実際の臨床場面に役立つことを目指すという意味では、心理診断法としては勿論ですが、心理的なケアや心理療法のための基礎になる体験になれば、さらに良いと思います。

専門性はともかく、一般的な興味や関心のある方々にとっても、プロジェクトブ・テクニク・マニュアルとして学ぶことは、自分や他人の理解に役立つでしょうし、心の健康について考えていく上での手掛かりとなると思います。

〔教科書〕必要に応じて紹介したいと思います。

禅心理学

茅原 正

複雑で、ストレスに満ちた現代、瞑想に関する科学的研究がさかんに行われ、心身に及ぼす良好なる効果が数多く発表されている。本講では、坐禅を主とする禅の心理生理学的研究の歴史、および研究の成果について概観するとともに、実験的課題と展望、禅の心理論理学などについても考察する。

参考書、参考文献については、講義の際に指示する。

心理学特講 I

佐々木 雄二

1. 心理療法

- (1) 心理療法とは何か
- (2) 心理療法の歴史
- (3) 心理療法の対象
- (4) 心理療法の種類

2. 自律訓練法

- (1) 自律訓練法とは何か
- (2) 自律訓練法の歴史
- (3) 心理療法における自律訓練法の位置づけ
- (4) 標準練習の理論と実習
- (5) 特殊練習の理論と実習

〔教科書〕佐々木雄二『自律訓練法の実際』

（創元社）¥1,000

心理学特講 II

佐々木 宏幹

日本を含む東アジア諸社会において、人生観・世界観の形成に宗教はどのように関わっている

か、個人や社会の危機に宗教はどのような役割を果たしているか、また教祖的・カリスマの人格とは何か、その影響は何か、などの諸問題について考察する。時おりスライドを使用する。

〔参考書〕佐々木宏幹著『憑霊とシャーマン』

(東京大学出版会) ¥1,800

心理学特講Ⅲ

讃岐 真佐子

臨床心理学の勉強では、①人間の心をどう把握するのかという“理論的学習”，②多様な体験をとおして自分自身を理解していく“体験的学習”，そして③実際のカウンセリング場面で起こり得る様々な事柄を、事例によって学んでいく“事例研究”などが重要だと考えられる。

この講義ではこれらの点も考慮しつつ、主に事例の理解の仕方、そのプロセスの読み方などについて学んでいくことにしたい。扱う事例は幼児から成人まで多岐にわたる予定である。

〔参考書〕随時紹介する。

精神医学

柴田 出

現代の厳しい現実社会で生きている現代人は、多くのストレスにさらされ、心を病む人も少なくない。しかし、現実の組織や集団に所属するからといって、全ての人が心の病いにおかされるわけではない。このように考えると、個人を取り囲む組織の問題だけに帰すわけにはいかず、個人の自我の成熟度も大きく関わっていることがわかる。演者はこのような観点に立って、個人の心の発達過程を臨床例にあげながら述べていきたい。

とくに、コドモからオトナへの移行過程の時期であり、コドモとオトナが共存している青年期を中心に述べていくつもりである。

〔参考書〕『こころ自己分析』(有斐閣) ¥1,300

社会政策

小越 洋之助

本年度は賃金問題を中心に、現実の日本の状況をふまえて具体的に説明していく。前半では日本の賃金体系の基礎をなす年功賃金の特徴、その成立史、高度成長期の変容(年功賃金の職務給化)、低成長期の変容(年功賃金の職能給化)、最近に

おける「複線型人事＝賃金制度」の特徴、問題点などを述べる。後半は日本の賃金水準の決定の仕組み(賃金決定機構)を中心に具体的に説明していく。ここでは春闘方式とその変遷、人事院勧告、最低賃金制などについて述べ、全体としての賃金水準決定のメカニズムを理解してもらうことを目的とする。

〔教科書〕特に指定しない。

〔参考書〕講義中に指示する。

民法

青山 尚史

生活の基礎であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最少限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の概要を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕鍛冶良堅著『親族法講義』(啓文社)

労働法

藤本 茂

わが国労働法は、戦後、戦前の労働保護法制を受け継ぐとともに、国際的規準を受け入れたり、アメリカ法制を導入するなどして、発展してきました。その法理は、社会経済構造の変化、労働運動のあり様や社会生活における労働者意識の変化などによって、たえず既存の法理の妥当性が検証され、深化してきました。雇用平等、労働時間、労働協約、組合活動保障など、現在もそうです。

他方、諸君にとって労働法は、将来就職し労働生活をおくるなかで、最も身近な法領域であるといえます。

授業は、諸君が見聞きするであろう事項を念頭に、それについての基礎的な考え方を、具体的な事例を取り入れておこなうつもりです。

〔教科書〕最初の講義のときに話します。

〔参考書〕ジュリスト増刊『労働法の争点』

(有斐閣) ¥2,200

菅野和夫著『労働法』(弘文堂)

行政法

鷄 徳 啓 登

現代国家は、一般に福祉国家又は文化国家といわれるようになり社会問題も多くなっている。そして、例えば指紋押捺問題のような社会問題では、必ずといってよいほど行政のあり方が問われるのである。このような問題を考える場合に、行政に関する法令はどんなものであり、行政はどのように行われるのか、ということを経理的側面から考えてみることも、社会問題を客観的に考慮できるようになるための1つの方法であると思われる。

その意味で、「行政法」とはどのような法律であるのかを知っておくことは、公務員をめざす学生ばかりでなく、一般の学生にも、今後増々要求されてくるようになるだろうと思われる。

〔教科書〕『行政法の話』（第一法規）¥1,800

〔参考書〕教場にて説明致します。

経済原論

浅 野 克 巳

現実の経済問題を念頭におきながら、現代経済学の基礎理論をできるかぎり平易に解説してゆきたい。なお、公務員試験（其他国家試験）の受験志望者には必要に応じて問題の解説も行うので、以下の問題集も用意されたい。

I ミクロ経済学の理論

1. 消費者行動の理論
2. 企業行動の理論
3. 市場と価格決定

II マクロ経済学の理論

1. 経済循環と国民所得の概念
2. 国民所得の決定
3. 経済の変動と成長

III 公共政策

IV 国際経済学

〔教科書〕浅野・荒木・浅田『エコノミックス』

（成蹊堂）1988年、¥3,400

〔参考書〕青山編著『経済原論の頻出問題』

（実務教育出版）1990年 ¥906

他 学 部 履 修 科 目

(全学部・短大共通)

※他学部科目の講義内容が掲載されているが、受講できる科目は各学部・短大によって異なっている。(履修についての詳細は、「他学部科目の履修方法」を参照すること。)

目 次

禅学特講 I (原田 弘道)	1	日本経済史 (古庄 正)	7
禅学特講 II (黒丸 寛之)	1	中小企業論 (三井 逸友)	8
禅学特講 III (石井 修道)	1	教育経済論 (谷敷 正光)	8
禅学特講 IV (鈴木 格禅)	1	アメリカ経済論 (瀬戸岡 紘)	8
禅学思想史 (峰岸 孝哉)	1	財務会計論 (小栗 崇資)	9
哲学史 (中村 友太郎)	1	管理会計論 (中原 章吉)	9
インド仏教史 (田上 太秀)	2	会計監査論 (飯岡 透)	9
中国仏教史 (佐藤 達玄)	2	商業政策 (岩下 弘)	9
日本仏教史 (山内 舜雄)	2	貿易論 (古沢 紘造)	10
日用経典 (皆川 広義)	2	マーケティング (曾我 信孝)	10
仏教美術 (中島 亮一)	2	原価計算論 (加藤 利安)	10
現代哲学概説 (田島 節夫)	2	労務管理論 (石井 脩二)	10
上代文学 (小野 寛)	2	行政法 II (齊藤 寿)	11
中世文学 (水原 一)	3	民法 IV (1) (青山 尚史)	11
近代文学 (富士 昭雄)	3	民法 IV (2) (青山 尚史)	11
近代文学 (片岡 懋)	3	比較憲法 (竹花 光範)	11
中国文学 (中村 璋八)	3	地方自治法 (梅木 崇)	11
英文学特講 I (石原 孝哉)	3	経 済 法 (川井 克俊)	11
英文学特講 II (高野 正夫)	3	国際関係論 (首藤 素子)	12
英文学特講 III (高野 正夫)	3	西洋政治史 (浦田 早苗)	12
英文学特講 IV (中岡 洋)	3	宣伝広告論 (上條 末夫)	12
英文学特講 V (高松 雄一)	4	政 党 論 (早川 純貴)	12
英文学特講 VI (丸小 哲雄)	4	経営学史 (北村 健之助)	12
英米演劇特講 (落合 和昭)	4	国際経営論 (桑名 義晴)	12
米文学特講 I (東 雄一郎)	4	保険経営論 (石名坂 邦昭)	13
米文学特講 III (山縣 敏夫)	4	経営情報論 (高井 徹雄)	13
時事英語 (大沢 一雄)	4	経営分析論 (片桐 伸夫)	13
地 形 学 I (小池 一之)	4	税務会計論 (高木 克己)	13
地 質 学 (貝塚 爽平)	4	経営労務論 (中村 真人)	13
人口地理学 (土谷 敏治)	5	商 業 史 (山田 勝)	14
応用地理学 I (高木 正博)	5	国文講読 I (上代) (佐原 作美)	14
文化地理学 (葵口 善美)	5	国文講読 II (中古) (鈴木 裕子)	14
日本史特講 VII (近代) (山口 一之)	5	国文講読 III (中世) (岡崎 正)	14
東洋史特講 X (近・現代) (渡辺 惇)	5	国文講読 IV (近世) (嶋田 彩司)	14
西洋文化史 I (椋川 一朗)	5	国文講読 V (近・現代) (安藤 幸輔)	14
考古学特講 III (飯島 武次)	5	国文講読 V (近・現代) (尾形 国治)	14
歴 史 哲 学 (麻生 建)	5	国文特講 V (近・現代) (大室 英爾)	14
哲学史 (丸山 豊樹)	5	英文タイプライティング II (竹内 美恵子)	15
日本民俗学 (谷口 貢)	6	時事英語 (岡本 誠)	15
マスコミュニケーション (川本 勝)	6	英語演習 I (岡本 誠)	15
産業社会学 (安藤 喜久雄)	6	計算機言語概論 (杉田 徹)	15
都市社会学 (文屋 俊子)	6	臨床放射線特論 I (本間 襄)	15
社会福祉発達史 (林 千代)	6	応用計測学 (樞尾 英次)	15
ソビエト経済論 (山縣 弘志)	6		
社会政策 (小越 洋之助)	7		
国民所得論 (吉野 紀)	7		
中国経済論 (小杉 修二)	7		
アジア経済論 (小林 英夫)	7		

他学部履修科目

禅学特講 I

原 田 弘 道

禅宗と公案

公案は禅宗における經典観と深いかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禅の成立 (2)曹洞宗と公案 (3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

禅学特講 II

黒 丸 寛 之

道元禅師と『法華経』について、『正法眼蔵』の所説を中心として講述し、併せて良寛の『法華転』『法華讃』を読む。主な講本となる『正法眼蔵』は、既刊本の何れでもよいから、各自に必ず用意して受講されたい。

禅学特講 III

石 井 修 道

平成3年度につづいて『大慧書』を読む。大慧宗杲は看話禅の大成者である。その後の禅思想に大きな影響を与えた大慧の看話禅の性格は、『大慧書』に最もよくあらわれている。書とは、手紙のことであり、大慧が居士に与えた手紙を中心としているので、主張は明瞭である。宋代禅の性格を知る入門書と言えるであろう。荒木見悟博士の訳注本もあるが、まず禅録になれる意味もふくめて和刻本をテキストにして、和刻本の誤読についても言及したい。

〔参考書〕『大慧書』（筑摩書房）¥3,500

禅学特講 IV

鈴 木 格 禅

『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に往した損翁宗益（1649～1708）のことである。損翁は面山瑞方（1683～1769）の師であり、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が一貫して流れている。本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕『続曹洞宗全書（法語・歌頌）』

P.411～P.445 までをコピーすること。

禅学思想史

峰 岸 孝 哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが、本年は日本禅、とりわけ永平道元（1200～53）の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し、そこにみられる教学・思想の歴史的な性格を跡付けてみたい。

〔教科書〕『道元禅の歴史』〔講座道元Ⅱ〕

（春秋社）

〔参考書〕鈴木泰山著『禅宗の地方発展』

（吉川弘文館）

廣瀬良弘著『禅宗地方展開史の研究』

（吉川弘文館）

哲学史

中 村 友 太 郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書的信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼と

したい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシヤ哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕 クラウス・リーゼンフーバー『西洋古代中世哲学史』（日本放送出版協会）
¥2,060

〔参考書〕 その都度指示する。

インド仏教史

田上太秀

1. 仏教の起源と発展
2. 経典の成立・種類・思想など。
3. 仏教の人間観・政治批判・経済倫理・自然観・教育思想・家庭倫理など。

〔教科書〕 プリント使用

〔参考書〕 田上太秀『禅の思想』（東京書籍）
¥1,009

『禅語散策』（東京書籍）¥1,000

中国仏教史

佐藤達玄

中国民衆の仏教受容と、固有思想との関係を概観した上で、隋代より唐宋代に至る間の儒仏道三教の交渉史を中心に考察したい。

〔教科書〕 『仏教史概説—中国篇』（平楽寺書店）

日本仏教史

山内舜雄

下記の教科書に依り、上古より中世を経て、鎌倉仏教までを概説する。特に鎌倉新宗の発生母胎になった、中世は中古天台本覚法門を詳説する。

〔教科書〕 宇井伯寿著『日本仏教概史』（岩波書店）は絶版となっているが、古本もあり、必要箇所のみをコピーしてもよい。

日用経典

皆川広義

曹洞宗における日常依用の経典ならびに宗典に

ついて回向文をふまえて解説し、宗門儀礼の意義と新しい表詮を考察する。

仏教美術

中島亮一

仏教美術全般の問題を背景にして、仏教美術が展開して来た過程をスライドも併用し、諸尊像が出現して来る背景、その表現の様式的な変化、さらにそこにこめられた精神的（宗教的）な意味などを考察する。

〔教科書〕 佐和隆研著『仏教美術入門』（社会思想社・教養文庫576）¥720

〔参考書〕 久野健著『仏像の歴史』（山川出版社）¥1,600

現代哲学概説

田島節夫

今世紀哲学の多岐にわたる動向を統一ある視点から概説することは容易でないが、まず固有な意味での現代哲学の創始者たちとして、現象学におけるフッサール、分析哲学におけるフレーゲ、プラグマティズムおよび記号論におけるパースの各場合をとりあげ、相互の関連を考えながらそれぞれの業績に注目したい。西洋哲学の過去の遺産にたいして彼らのもたらしたものを問いなおすことから、今日までにあらわれた今世紀の重要な哲学的営為の意味を再考しつつ、哲学の新しい可能性をひらく道を探ることにしよう。本講義の主要部分を含むテキストとしては田島著『現象学と記号論』を参照されたい。ただし講義ではテーマに即し新たな題材をも取り扱うであろう。

〔教科書〕 田島節夫著『現象学と記号論』（世界書院）¥2,500

上代文学

小野寛

上代は日本文学の草創期である。日本文学のすべての原点である。説話文学として『古事記』や『日本書紀』の神話・伝説がある。『古風土記』の地名起源説話などもおもしろい。『古事記』『日本書紀』にはまた、「うた」が多く含まれている。古代人たちが曲節をつけ、所作をつけ、楽

器を伴奏に唱ったものである。これを『記紀歌謡』という。そして「うた」はやがて書記されるようになり、記載文学としての「うた」の集である『万葉集』が登場する。これら上代文学の神髄に触れてみよう。

〔教科書〕適宜指定し、あるいはプリントを使う。

中世文学

水原 一

『とはずがたり』（後深草院二条の日記）を読み、題材となった作者の生涯・運命・人間関係について考察し、日記文学としての特色について考えてみたい。

〔教科書〕富倉徳次郎『とはずがたり』（筑摩書房）

近世文学

富士昭雄

近世の俳文の講読を通して、俳諧文学の特質を考察する。芭蕉の代表的な俳文『幻住庵記』、也有の『鶉衣』、蕪村の俳文などを考察の対象とする。

〔教科書〕中村俊定等編『近世俳文集』（笠間書院）¥824

近代文学

片岡 懋

夏目漱石の『坑夫』と『三四郎』以後の作品について考察する。

中国文学

中村 璋 八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間

行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』（明德出版）¥2,170

英文学特講Ⅰ

石原孝哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕ノースロップ・フライのシェイクスピア講義（三修社）

英文学特講Ⅱ

高野正夫

ロマン主義への移行期の詩人、Gray, Cowper, Collins などの作品を読んでいます。

〔教科書〕教場にて指示します。

英文学特講Ⅲ

高野正夫

イギリス・ロマン派の主要な詩人について、それぞれの時代的背景や特徴をふまえながら読んでいく予定です。

〔教科書〕教場にて指示します。

英文学特講Ⅳ

中岡 洋

イギリス小説の代表的傑作 *Jane Eyre* や *Wuthering Heights* を残した Brontë sisters について、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講V

高松雄一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。世紀末の唯美主義批評、イエイツ、イマジズム、エリオット、ジョイスらの作品や批評を取りあげて、モダニズム文学運動の意味を考えたい。

〔教科書〕必要があれば開講時に指示する。

英文学特講VI

丸小哲雄

文学（虚構）テキストを批判的に検討する理論と実践。とりわけテキスト研究をすすめる。テキストの読み（物語構成を捉える遠近法）。テキストの解釈（テキストの意味と主題の捉え方）。そしてテキストの読みと解釈の後でどのようにしてテキスト批評を行なうか。前期では文学理論としてロシア・フォルマリズム、受容理論、構造主義、記号論、ポスト構造主義などを主として講義します。後期ではテキストの読み・解釈・批評の実践として、英米及び日本文学からテキストを選び、実践批評の機能とその快樂を目指します。

〔教科書・参考書〕開講時に指示。また、適宜、プリントも配布します。

英米演劇特講

落合和昭

前期はギリシャ時代から現代までの劇場史を学び、後期は演劇の要素について学ぶ。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が多く載っているアメリカの大学生用テキストを用いる。課題としてはレポートを十回（一回につき四百字の原稿用紙二枚程度）ほど提出してもらう。

米文学特講I

東雄一郎

19, 20世紀のアメリカ詩を扱う。

〔教科書〕開講時に指示します。

〔参考書〕開講時に指示します。

米文学特講III

山縣敏夫

アメリカにおける人種差別の問題について考察する。アメリカ人にはWASPという人種的な優越意識が根深く浸透しており、白人でアングロサクソンでプロテスタントであることが彼等の誇りとされてきた。そのような社会の中で黒人奴隷がどのように扱われ、黒人文学がどのようにして生まれたかを探り、代表的な作家と作品を紹介する。又、ユダヤ系作家やその代表作品についても研究したい。

〔教科書〕開講後に指示する。

時事英語

大沢一雄

時事英語の研究をおこなう。時事英語とは大まかにいうと、新聞、テレビ、ラジオ等のmass media すなわちマスコミで用いられる英語である。

地形学I

小池一之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心にする。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント、スライド、ビデオを使ったわかりやすいものにしたい。（内容は最先端の知見を含む）

〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）¥4,532

地質学

貝塚爽平

関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象 — たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁分布帯の形成 — についても講ずる。後期には教科書を使う予定。

人口地理学

土谷 敏治

人口の分布やその変化、人口移動について、研究の方法やこれまでの地理学の分野からの研究成果を紹介する。

応用地理学 I

高木 正博

河川と地域の関係を、災害・利水・親水などの視点から捉える。水と人とのかかわりあいについて、地理学と他の研究分野を関連させてのべる。
〔参考書〕高橋 裕著『河川工学』（東京大学出版会）

文化地理学

こも
菱口 善美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

日本史特講Ⅶ(近代)

山口 一之

日清戦争とその後の中国問題を講義する。

東洋史特講Ⅹ(近・現代)

渡辺 惇

近代中国民衆結社史：近代中国における民衆の動きを理解する一環として、秘密結社(会党・帮会)をとりあげ、その発生、発展、組織の特色、時代背景等について講義する。

〔教科書〕特に定めない。
〔参考書〕講義の中で紹介、指示する。

西洋文化史 I

椽川 一朗

西洋の都市(とくにドイツ都市)の歴史を、社会構成を中心に講述する。
〔参考書〕椽川著『ドイツの都市と農村』(吉川弘文館) ¥2,900

考古学特講Ⅲ

飯島 武次

周文化の考古学研究。

歴史哲学

麻生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそも「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』(世界書院) ¥2,500

哲学史

丸山 豊樹

この講義の内容は「近代哲学史」である。近世哲学も古代・中世の哲学の発展であるから、最初は古代・中世の哲学との関連を概観した後で、近世独自の思想を論ずる。

近代を特徴づける最初の哲学は「イギリス経験論」と「大陸合理論」であるが、それを総合するカントの哲学は、近代の「科学」を対象とする最初の哲学とみなすことができ、その内容は現代に

おいてもなお多くの問題を含んでいる。まずカントを重点的に論じた後で、その後の多様な現代哲学に論及するつもりである。

〔教科書〕その都度指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

日本民俗学

谷 口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

マスコミュニケーション

川 本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかかわりをもっているか、社会学的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

産業社会学

安 藤 喜久雄

産業社会学の生成、発展について概観するとともに、主要な領域について解説し、そこでの諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているか考察する。

〔教科書〕安藤喜久雄他著『産業と組織の社会学』（学文社）

都市社会学

文 屋 俊 子

都市社会学の成立と展開、都市化、都市的生活様式、都市の社会構造についてとりあげる。とくに現代日本の大都市におけるひとびとの生活様式、生活の場としての都市における諸問題について、最近の研究をとりあげ、議論したい。

参考文献として、外国の新旧の論文を集めたものとして、

鈴木 広編『都市化の社会学（増補）』

（誠信書房）¥3,800

日本の論文を集めたものとして、

『リーディングス 日本の社会学7 都市』

『リーディングス 日本の社会学5 生活構造』

（東京大学出版会）各¥2,500

などが適切かと考えている。

社会福祉発達史

林 千 代

いつの時代にも、人々の生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本資は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』

（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介

ソビエト経済論

山 縣 弘 志

ソビエト経済は移行期の混乱を経験している。その領土的枠組すらも流動的である。しかし、ヨーロッパとアジアにまたがるユーラシア地域に、従来の歴史的背景に想定された独特の経済活動が今後も展開されていくであろうことは疑いない。

ところで、何から何への移行期なのか、という問題は、前段の「何から」を抜きに議論を進めることができない。これは、何が崩壊したのか、19

17年から1980年代までのソビエト経済とは何だったのかという問題である。これに答えるためには、第1に、社会主義とは何かを問わなければならない。それとの対比において、ソビエト経済が何であったのか、の解明が可能である。講義においては、次いで、ソビエト経済の個々の側面の分析に進むが、その要素は、(1)「計画経済」の実態、(2)工業・農業・流通をはじめとする経済構造とその機能、(3)「経済改革」からペレストロイカに至る道程などである。

全体として、1930年代に形成された独特の体制への認識が深まり、我々の時代の当面している課題が明らかになれば、自らの姿を鏡に映すという外国研究の基本的役割をいささかでも果たしたことになるであろう。

〔参考書〕講義の中で指示する。

社会政策

小 越 洋之助

本年度は賃金問題を中心に、現実の日本の状況をふまえて具体的に説明していく。前半では日本の賃金体系の基礎をなす年功賃金の特徴、その成立史、高度成長期の変容（年功賃金の職務給化）低成長期の変容（年功賃金の職能給化）、最近における「複線型人事＝賃金制度」の特徴、問題点などを述べる。後半は日本の賃金水準の決定の仕組み（賃金決定機構）を中心に具体的に説明していく。ここでは春闘方式とその変遷、人事院勧告、最低賃金制などについて述べ、全体としての賃金水準決定のメカニズムを理解してもらうことを目的とする。

〔教科書〕特に指定しない。

〔参考書〕講義中に指示する。

国民所得論

吉 野 紀

本講は現代マクロ経済理論の内容を経験的検証と具体的な政策への応用とに言及しつつ体系的に解説することを目的とする。主たる関心の対象は家計・企業等の集計部門であり、政府や海外部門を取り込んだ国民経済全体である。これら諸部門の経済活動水準がどのように決定され、また相互に影響し合うのかを解き明かすことによって、生きた経済現象を変貌して止まない姿としてとらえることができれば目的の過半は達成できたといえる。相互的関連の全体像を描くためにはIS-LM分析が教育的効果を依然持ち続けているので、早い

時期にこれを扱い、徐々にこの枠を崩しながら現実の日本経済への応用力を高めてゆきたい。

手始めに、GNP統計を多面的に使って、日本の経済の実相をつかみ取ることからとりかかってゆこう。

中国経済論

小 杉 修 二

現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6・4天安門事件」等々話題にこと欠かない状況である。

本講義ではこのような目前的変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

〔教科書〕小杉修二著『現代中国の国家目的と経済建設－超大国志向・低開発経済・社会主義』（龍溪書舎）¥3,300

アジア経済論

小 林 英 夫

今年度は、戦後の日本とアジアの経済関係に焦点をあてその歴史的推移を論ずる。まず最初に日本とアジアの経済関係を戦前から概観し、その後戦後をⅠ.賠償過程 Ⅱ.借款過程 Ⅲ.直接企業進出の三つの時期に時期区分してその過程を追う。そして、輸出地区や工業団地での日系企業の具体的活動を論ずる。参考書は、追って指示する。

日本経済史

古 庄 正

ロンドン大学教授森嶋通夫は、『日本はなぜ成功したか』（TBSブリタニカ）という書物を書き、日本経済の発展とその矛盾を、「日本的儒教」（「仁」のない儒教）との関連で論じた。森嶋が提起したこの問題を、経済史の観点からみた場合、どういうことがいえるだろうか。この講義ではこの点を中心に考えてみたいと思っている。

中小企業論

三井逸友

「中小企業」を論じるというのは実は存外に容易ではない。世界的な「中小企業フィーバー」の続いた80年代をへて、今日こそさまざまな俗論や安直な先入観念を排し、きちんとした学問的方法と総合的でグローバルな現状認識をはかり、さらに21世紀を展望した「政策観」をつくり上げていく必要がある。

日本の中小企業は約600万、企業の99%、従業員80%を占め、製造業中小企業に限っても80万をこえ、付加価値の50%以上を生み出している。つまり日本の経済社会にとって中小企業はきわめて重要な「メジャー」な存在であるとともに、諸外国からうらやましがられる「日本産業の競争力」を支えているのである。しかしこのことは、中小企業の地位が安定し、そこに働く人々が恵まれていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差、不利、経営不安などの「問題状況」も依然広くみられる。しかもこうした「期待」と「困難」の交錯する事態は先進国に共通して確認されているのである。

この講義ではこうした中小企業の存在状況と役割、当面する問題を概観し、次にこうした中小企業の存立と問題性をめぐるこれまでの理論・研究を批判的に検討し、「中小企業問題」の二面性と、現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけを明らかにする。講義の後半では、「下請制」、「地場産業産地」などの中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追い、結合生産力の「効率性」と、これに対する競争と統制・管理が貫徹がもたらす「経済的關係」のうえでの問題状況を示す。事態は独占大企業の「支配・利用」と「過剰・淘汰」の間で現われるのである。さらにこうした「中小企業問題」に対応して展開されてきた「中小企業政策」の国際比較研究を行い、「生産力」的に成功を収めてきた日本の「中小企業近代化政策」の特徴と限界、これに対する欧米の政策の相違点と近年の「収斂傾向」を解明する。加えて補論として、最近の政策課題として注目される、分業にもとづく結合生産力の目的意識的な組織としての、企業間連携・共同促進策、新規開業促進策についてもふれてみたい。

〔構成予定〕

- I. 中小企業論の課題と対象、規定と構成、問題状況
- II. 「中小企業論」研究の方法と「存立」論・「問題」論
- III. 中小企業の現代的存在形態

IV. 「中小企業政策」の展開と国際比較

〔教科書〕三井逸友『現代経済と中小企業』
(青木書店) ¥2,800 (税抜)

〔参考書〕巽・佐藤編『新中小企業論を学ぶ』
(有斐閣)

中小企業庁編『中小企業白書』
〔各年次〕

教育経済論

やしき
谷 敷 正 光

経済発展に教育の果たした役割とその意義について考察する。特に、本年度は、戦前・戦後の日本経済の発展と産業教育を中心に講義する予定である。

戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した日本経済から現在までを経済団体の産業教育要請とそれに対応した政府の経済政策、産業教育政策を日本経済の発展との関連で考察する。

授業中は、できるだけ必要な資料を配布する。

〔教科書〕豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』
(東大出版)

〔参考書〕高浜介二著『現代資本主義の発展と教育』(汐文社)

本庄良邦著『産業教育体制論研究』

(三和書房)

文部省『産業教育百年史』(ぎょうせい)

アメリカ経済論

瀬戸岡 紘

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情についてのトータルな解説をおこなう(アメリカの社会・国家・宗教とアメリカ資本主義の関連、財政と金融の制度と問題点、先端産業の役割と限界、農業の現状と諸問題、多国籍企業の実態、日米経済摩擦の経過と展望、アメリカの生活様式、ほか)。講義では、一回ごとにひとつずつテーマをかかげ、受講者諸君の関心にてらして問題をたて、それを具体的な資料やデータにもとづいて解明する。授業は極力たのしく、理路整然とわかりやすくすすめるつもりであるが、定刻に開始するので遅参しがちな学生を出席を遠慮されたい。なお、この講義の性格上、3年次で履修することをすすめる。

(中央経済社)

財務会計論

小栗 崇 資

会計学の領域は、大きく財務会計と管理会計の2つに分けられる。財務会計は経済的社会的関係の調整・維持のために企業の外部に向けて行なわれる会計であり、管理会計は経営管理のために企業の内部で行なわれる会計である。領域や目的以上に2つの会計の違いを特徴づけるのは、法や制度との関係である。特に財務会計は、企業や経済を支える重要なしくみの1つとして法や制度によって様々な規制を受けている。この講義では、こうした財務会計の特徴に光を当てながら、会計の理論と制度について勉強していきたい。講義の予定としては、簿記から会計への発展過程、近代会計の理論、日本の会計制度、アメリカの会計制度、現代会計の諸問題などをテーマとして取り上げるつもりである。

今日の会計は大きな変化の波にさらされている。日本の会計制度も日本構造協議の議題の1つとして出されるほどに多くの問題を抱えており、その見直しが必要となってきた。講義でも技術的知識の習得に力を入れると同時に、今日の会計をめぐるトピックスにも触れながら生きた知識が身につくように努めるつもりである。

〔教科書〕野村秀和編著『企業会計—実務・理論・制度』（青木書店）

〔参考書〕遠藤 孝『企業会計論』（白桃書房）
¥2,500

管理会計論

中原 章 吉

会計学とは何かという考察の上で管理会計が財務会計との関連のうえでどのように位置づけられるのか。そして、管理会計とはどのような基礎のうえで成立しているものなのかを検討することから始めて、管理会計の内容に入って行く。とくにこの講義では企業における財務諸表分析と付加価値会計を内容としてとりあげていく。OAやメカトロニクスそして産業用ロボットによって第2の産業革命がさげばれているわが国の企業経営の中で、会計は、そして付加価値会計はどのように対応していくのか。また、欧米など諸外国の企業経営の中での会計の現状や歴史と、わが国との関連も考慮に入れて講義を展開していきたい。

〔教科書〕中原章吉著『企業付加価値計算書の研究』（白桃書房）¥3,500

〔参考書〕中原章吉編著『経営財務と管理会計』

会計監査論

飯 岡 透

財務諸表監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて監査人が意見を表明することにあり、企業規模の拡大及び企業活動の複雑化に伴い、近年その役割はますます重要になっている。

本講義では、わが国をはじめ、英・米・西独の監査制度、監査人の財務諸表への関与方式、監査役と会計監査人、監査証拠、個別財務諸表・連結財務諸表・中間財務諸表の監査手続、監査報告書などについて教授する。

〔教科書〕飯岡 透著『中間財務情報制度論』（中央経済社）

〔参考書〕飯岡 透著『株式会社会計監査論』（創成社）

飯岡 透編『会計監査基本規則集』（創成社）

商 業 政 策

岩 下 弘

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 80年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売小保護政策
 - 2 流通近代化政策
 - 3 流通システム化計画
 - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 1) 東京商工会議所 2) 日本小売業協会
 - 3) 日本チェーンストア協会 4) 日本商業労働組合連合会 5) ゼンセン同盟
 - 3 90年代流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 79年改正大店法 3) 91

年改正大店法

- 5 凍結宣言、要綱及び条例
- 6 通産省による行政指導=抑制措置
- 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れ-前川レポート、行革審報告
 - 2) 日米構造問題協議
 - 3) 適正化措置

8 商業集積法

五 海外の流通政策

- 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策-都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題-商店法
- 2 フランス-ロワイエ法
- 3 ドイツ-土地利用計画
- 4 アメリカ-ゾーニング規制

六 「大形店問題」と訴訟-中小商業者運動論

- 1 大形店の出店をめぐる諸問題
 - 1) 社会問題としての大形店の出店
 - 2) 消費者と大型店
- 2 江釣子訴訟
 - 1) 北上市の商業とジャスコの出店及びその影響
 - 2) 訴状と判決の問題点
- 3 生業権訴訟

- 1) 名古屋市の大型店問題
- 2) 名古屋市の商業と小売市場
- 3) 生業権論

七 流通問題と消費者保護政策

- 1 消費者問題論
- 2 消費者保護基本法
- 3 消費者行政

八 流通問題と独禁政策

- 1 独占禁止法
- 2 不公正取引
- 3 取引慣行

以上

貿易論

古沢 紘造

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまで来ています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って日本の対外経済関係（貿易、投資、援助）を批判的に考察したいと思います。その際、構造的に、また、人々の生活の実態に触れながら検討をすすめたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との

共存などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提示する経済学です。

マーケティング

曾我 信孝

現代社会の矛盾点をマーケティングの側面から分析する。その展開は、1つめに矛盾点を明確にするための分析をする。2つめにその矛盾点がマーケティングとどう関連しているかを検討する。3つめにマーケティング政策が社会的にどのような影響を及ぼしているか、批判的な側面から考察する。4つめに勤労的消費がどのように収奪されているかを明確にする。

「矛盾点」は一応分配の不均衡に置いている。したがって、独占産業資本のみならず、独占商業資本の消費者支配のメカニズムも分析対象にする。〔参考書〕講義中に適宜紹介する。

原価計算論

加藤 利安

原価計算は企業会計の一領域を形成している。昨年度に続き本年度も、我が国の『原価計算基準』（原価計算制度）の内容を中心にして、原価計算の目的、役割、機能について講義するつもりである。またその際に、原価計算の発達や展開についてもできるだけふれることとする。試験は、中間と期末の2回行う予定である。講義はノートと以下の教科書、参考書を使用して行う。

〔教科書〕 諸井勝之助著『原価計算講義』（東大出版会）

〔参考書〕 津曲直躬著『原価計算論講義』（中央経済社）

労務管理論

石井 脩二

周知のように近年の日本企業をとりまく経営環境は、つとにその複雑さをまし、とりわけ国際化や情報化・ソフト化と称される経済基調や体質の転換のなかでその生き残り戦略が真剣に模索されている。この講義では、重大な経営環境の変化のなかで生き残り戦略の要となる「人事・労務管理」の新たな展開方向を検討するつもりである。特に、日本企業の海外進出が活発化するなかで従来日本

企業の競争力の源泉をなしているといわれてきたいわゆる「日本の経営」がどの程度の通用性をもちうるのか、また国内ではサービス経済化の波のなかでいかなる人事・労務管理が必要とされているのか、といった現在の諸問題を検討する。

〔参考書〕『労務管理先端シリーズ(1), (2), (3)』
(中央経済社) 各¥2,800

行政法 II

斉藤 寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、(2)公務員法、(3)公物法・営造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて、学んでいきます。そして、時間的に可能であれば、生活空間(環境)形成行政法などにも、および予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕『現代行政法論』(勁草書房)、
『行政法I・II』(評論社)など、拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

民法 IV (1)

青山尚史

生活の基盤であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最小限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の概要を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕鍛治良堅著『親族法講義』(啓文社)

民法 IV (2)

青山尚史

民法IV-(2)は、相続法(民法典第5編 882条~1044条)である。親族法が人間生活の基礎であり根源をなすところの種族保存の生活関係を直接規

律する純粹身分法を中心とするのに対して、相続法は親族生活の裏づけをなす身分財産法が中心となる。民法第5編は、大別すると、相続法と遺言法そしてこの両者の調節機能を果たしている遺留分法とから成り立っている。

〔教科書〕鍛治良堅著『相続法講義』(啓文社)

比較憲法

竹花光範

本年度も、昨年度と同様、次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法学とは
2. 憲法概念と分類
3. 国体と元首(共和制と君主制、元首、国のシンボル等)
4. 統治の原理と構造(民主政治の基本原則、議院内閣制と大統領制、一院制と二院制、社会主義国における議会制度等)

〔教科書・参考書〕講義中で述べる。

地方自治法

梅木 崇

憲法および行政法との関連を重視しながら、地方自治法における主要な制度を解説する。また、地方自治の運営について、行政の実態と裁判所の判例をとりあげ、その理解を深める。本講の目的は、地方自治法そのものを理解させることよりも、地方自治行政という行政の具体化過程を通じて、わが国における行政権の行使に関する基礎的なものの考えかたを学ぶとともに、統治の機構について、比較的詳細に考察する点にある。その際、諸種の公務員試験の問題についても説明するよう努める。

〔教科書・参考書〕開講にあたって指示する。

経済法

川井克倭

経済法—独占禁止法を中心として—

- 第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法の位置づけ。
- 第2部 独占禁止法。独占禁止法の目的・その他私的独占、カルテル、企業統合、独占的状态、不公正な取引方法等について、な

るべく条文に即して講義する。

このほか、最近でいえば経済の国際化を迎えて、国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり、臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップデートの問題に対して講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕川井克倭著『競争政策法概説』
(高文堂) ¥3,600

〔参考書〕講義の中で紹介する。
川井克倭著『カルテルと課徴金』
(日本経済新聞社)

国際関係論

首藤素子

第1に、1950年代以降現在までの国際関係における行動主体の多様化についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係について、日米経済摩擦、東南アジア諸国に対する援助の2点を中心に、これもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕渡辺昭夫編『講座 国際政治』第4巻
(東大出版会) 1989年 ¥2,266

〔参考書〕細谷千博・丸山直起編
『国際政治 ハンドブック』改訂版
(有信堂高文社) 1991年

西洋政治史

浦田早苗

ヨーロッパにおいて自由と民主化が今日ほど問われている時代はない。このような概念の実践と制度化をめざした政治が本格的に登場するのは、近代市民社会においてである。

講義では、近代市民革命から現代に至るまでの政治上の主要な問題を史的に整理しようと思う。

〔教科書〕開講後、追って指示する。

〔参考書〕開講後、追って指示する。

宣伝広告論

上條末夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そして実際について、具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は、これにどう対応していくべきか、あるいは社会人として、社会および個人との関係をどう調整していくべきか、という問題を解明していきたい。

〔参考書〕その都度指示する。

政党論

早川純貴

イギリスの二大政党政治について、とりわけ戦後の保守党と労働党による「合意の政治」から、70年代に始まる「敵対の政治」、そしてサッチャー政権の特質までを論じる。

〔教科書〕使用せず。

〔参考書〕講義時に随時紹介

経営学史

北村健之助

ドイツ経営経済学(前史、成立、1・2・3・4次方法論争、現代の経営経済学)およびアメリカ経営学(成行管理、科学的管理法、管理過程論、行動科学的展開)等々の発展過程を現代経営学を軸に探り、経営学の基本問題に迫ることができればと思います。テキスト、参考書は一応下記に示しましたが、必要があればその都度他の参考書をお勧めする積りです。

〔教科書〕藤芳誠一著『図説 経営学』(学文社)

国際経営論

桑名義晴

われわれの住む地球は、かつての人間が想像もしなかったほどに時間的にも空間的にも狭くなっている。このため現在、世界の企業の国際化やグローバル化も非常に活発になってきている。とくに近年の日本企業は、地球規模で事業活動を展開

するようになってきている。

本講義では、近年の日本企業にとって最も重要な経営課題の1つになってきている国際経営の諸問題を多面的な角度から検討していく。たとえば、国際環境の激変と政治リスク管理、グローバル競争戦略、国際情報システム、国際経営組織、国際人事管理、日本的経営の国際的適用性などの諸問題を、日本や欧米のグローバル企業のケースも織り込みながら講義していく予定である。

〔教科書〕中村久人・桑名義晴『最新国際経営論』
(中央経済社) ¥2,800

〔参考書〕講義中に紹介します。

保険経営論

石名坂 邦 昭

今日、日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり、一方国内の個人消費、住宅投資、設備投資が伸び悩むなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中であって高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においては、各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から、リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際の問題を取りあげながら行う。

〔教科書〕石名坂邦昭著『リスク・マネジメントの基礎』(白桃書房) ¥2,500

経営情報論

高 井 徹 雄

経営スタッフの役割は、意思決定を支援すること、すなわち、意思決定者が適切な意思決定を行えるよう、決定の指針となる情報を提供することに外ならない。

本講義では、将来、企業や官庁における経営スタッフを目指す諸君のために、経営情報に関するシステム的な観点と、情報処理技術の基礎について解説する。

I 総論：経営情報のシステムの観点

- (1) 経営情報と情報科学
- (2) 情報と意思決定
- (3) 情報ネットワークと情報環境

II 各論：経営情報の処理技術

- (1) データベース
- (2) 統計データ解析
- (3) シミュレーション
- (4) DSSとES

〔教科書〕高原康彦・高津信三編、高井徹雄他著『経営情報システム』

(日刊工業新聞社) ¥3,200

経営分析論

片 桐 伸 夫

経営分析の方法を大略、以下の要領で講義する予定ですが、特に伝統的、基本的方法である収益性、流動性の分析にポイントを置きます。

1. 収益性分析
2. 流動性分析
3. 生産性分析
4. 成長性分析

〔教科書〕開講の時指示します。

税務会計論

高 木 克 己

我々が社会生活を送って行く上で、一生逃れることが出来ないものに税の問題がある。その中で特に重要な位置を占めている法人税法を中心に講義を行う。法人税法の中心課題である課税所得計算の構造を明らかにし、企業会計と税務会計の考え方や処理の違いを、広範な事例を解説しながら講義を進めて行くが、随時、課題を設定し、レポートの提出を求める。なお、テキスト、参考書は開講時に指示する。

経営労務論

中 村 眞 人

経営労務論は、企業経営における労働・労働力・労働者の諸問題を研究する学問である。特に、個別企業の労務管理および労使関係の理論・歴史・実態の解明をめざす。

本講義では、まず、企業労働に関する諸概念、労務管理と労使関係の歴史的発展などにつき概説する。つぎに、賃金、労働時間、雇用管理、労使関係、その他について各論を解説する。最後に、以上の知識をふまえた上で、現代日本における企業労働の具体的な諸問題を取り上げる予定である。

講義の中では、現実の諸事例にも、適宜、言及していく。

商業史

山田 勝

現代商業の生成過程を、貿易を中心に講義する。特に商人(社)を中心にすえ、現代商業との関連に留意しつつ行う。対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

国文講読Ⅰ(上代)

佐原 作美

『万葉集』の中から代表的歌人である柿本人麻呂や山上憶良などの歌の中からを中心に鑑賞しながら講読していきたい。

〔教科書〕土橋 寛編『作者別 万葉集』(桜楓社) ¥1,600

国文講読Ⅱ(中古)

鈴木 裕子

『源氏物語』を「桐壺巻」から読む。光源氏の誕生から、多感な青年期の物語をたどりながら『源氏物語』の魅力を味わってみよう。

〔教科書〕新潮日本古典集成『源氏物語』一(新潮社) ¥2,300

国文講読Ⅲ(中世)

岡崎 正

中世の芸術として完成した能の中心的存在であった世阿弥の伝書『風姿花伝』を通して、その稽古論、演技論、作劇論、幽玄論について研究する。併せて中世の芸術全般の特色を考えてみたい。

〔教科書〕『風姿花伝』(岩波書店、ワイド版 岩波文庫)

国文講読Ⅳ(近世)

嶋田 彩司

『雨月物語』を読みます。江戸中期の知的状況、作者上田秋成の人生との相関などに言及しながら、

幾篇かを精読します。

〔教科書〕大輪靖宏訳註『対訳古典シリーズ 雨月物語』(旺文社、文庫サイズ) ¥620

国文講読Ⅴ(近・現代)

安藤 幸輔

室生犀星の文学作品を講読する。

順序として、(1)俳句 (2)詩 (3)小説 (4)評論ということになる。

〔教科書〕追って指示する。(岩波、新潮文庫)

〔参考書〕その都度指示する。

国文講読Ⅴ(近・現代)

尾形 国治

明治・大正・昭和期の名作を1年間でおよそ12~3作品じっくりと読む。作者とその時代、生い立ちの問題、さらにはその文学的特色と可能性、その限界など、さまざまな角度から考察してみたいと思う。

〔教科書〕各種文庫本

国文特講Ⅴ(近・現代)

大室 秀爾

島崎藤村の作品を読む。その人間と文学の統一されたかたちを長い作家生涯をかけてどのように作りあげていったか。作品の読みを通し、彼をとりまくあらゆる「外圧」を視野に入れつつ考えていきたい。

〔教科書〕各種文庫本。開講時に指示。

英文タイプライティングⅡ

竹内 美恵子

一年次に習得した基礎の上に、レター・各文書を中心に実務的な内容を学んでいきます。プリントしたものを課題とし、一定の時間内に文書等の処理ができるように授業を進めていきます。

なお、他学部の学生は、ブラインド・タッチをマスターしていること。

時事英語

岡本 誠

その日の朝の英語ニュースを聞く。受講者はこれを機会に世の中の政治経済の動きにも関心をもつことが肝要。また当日は耳をよく掃除してくること。

〔教科書〕テープ使用。

英語演習Ⅰ（ディクテーション）

岡本 誠

慣用句の成立背景を歴史的にみていくが、これを全講義ディクテーションで行なう。紙と鉛筆それに辞書を持ってくること。各自TOEFL 500点以上をめざしてほしい。

〔教科書〕テープ使用。

計算機言語概論

杉田 徹

高度情報化社会と呼ばれる二十一世紀の基盤技術のひとつにコンピュータが上げられる。その利用はあらゆる分野で急速に進められている。特に通信分野、医療関係の検査診断機器には、顕著なものがある。将来、診療放射線技師を目指す諸君にとって、コンピュータの基本知識は必要不可欠なものである。この講義ではパーソナルコンピュータの高級言語であるBASICを中心に、アルゴリズム的発想の習得とその活用を目標に授業を進める。講義は次のテーマで行う。

1. コンピュータ言語の基本理論
2. BASIC 言語
3. パーソナルコンピュータ (PC-9801)による
実習

〔教科書〕戸川隼人著『ザ・BASIC』
(サイエンス社) ¥1,750

臨床放射線特論Ⅰ

本間 襄

医療の中で、診療録・依頼箋の内容を理解し、相互のコミュニケーションに欠かせない外来医学用語の初歩的知識の修得を目的とする。

他学部履修では、将来病院や医学関係の仕事につく人に必要な知識といえる。

〔教科書〕定めず

応用計測学

樞尾 英治

医用画像診断装置は、コンピュータ技術の進歩と共に診断には不可欠なものとなってきた。この講義では、核医学機器（ガンマカメラ、シングルホトンECT、ポジトロンCT）、X線CT装置、MRI装置のハードウェアとソフトウェアについて概説する。また超音波診断装置、DSA、CRならびにPACSについても、その概要を講述する。

〔参考書〕岩井喜典他編著『医用画像診断装置』
(コロナ社)

教職および資格講座

教 職 課 程
学校図書館司書教諭講座
社会教育主事講座
博物館学講座
社会福祉主事 講座
社会福祉士基礎

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりである。
(履修についての詳細は、「教職課程・資格講座の履修要項」を参照すること。)

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
社会教育主事講座	全 学 部
博物館学講座	仏教学部・文学部
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	全 学 部

講義内容目次

I 教職課程

(1) 教職に関する専門科目(必修)

教育原理(上岡 安彦)	1
教育原理(北村 三子)	1
教育原理(坂本 信昭)	1
教育原理(村山 輝吉)	1
教育原理(小山 一乗)	1
教育心理学(教育方法論を含む) (大浜 幾久子)	2
教育心理学(教育方法論を含む) (改田 明子)	2
教育心理学(教育方法論を含む) (国眼 眞理子)	2
教育心理学(教育方法論を含む) (中村 均)	2
教育心理学(教育方法論を含む) (難波 和明)	2
青年心理学(教育方法論を含む) (大浜 幾久子)	2
青年心理学(教育方法論を含む) (川田 三夫)	2
青年心理学(教育方法論を含む) (小宮山 要)	3
青年心理学(教育方法論を含む) (牟田 悦子)	3
特別活動(中野目 直明)	3
生活指導(佐藤 尚人)	3
宗教科教育法(小山 一乗)	3
国語科教育法(神谷 道倫)	3
書道科教育法(金子 卓義)	4
英語科教育法(大沢 一雄)	4
社会科・地理歴史科教育法(川合 元彦)	4
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法(中島 義一)	4
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法(野呂 肖生)	4
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・公民科教育法(長谷部 八朗)	4
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・公民科教育法(谷敷 正光)	4
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・公民科教育法(大久保 治男)	5
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
社会科・公民科教育法(橋爪 敏)	5
(平成元年度以前入学生:社会科教育法)	
職業科教育法(前田 幸一)	5
商業科教育法(谷敷 正光)	5
道德教育の研究(上岡 安彦)	6
教育実習(上岡 安彦)	6
教育実習(坂本 信昭)	6

教育実習(村山 輝吉)	6
教育実習(北村 三子)	7
教育実習(小山 一乗)	7
(2) 教職に関する専門科目(選択)	
教育哲学(汐見 稔幸)	7
教育社会学(高島 秀樹)	7
現代社会の諸問題と教育(高島 秀樹)	8
教育評価(大浜 幾久子)	8
教育情報学(難波 和明)	8
教育調査(鈴木 規夫)	8
教育史(北村 三子)	8
教育関係法規(広沢 明)	8
社会教育の基礎(社会教育概論) (村山 輝吉)	(8)
社会教育施設(村山 輝吉)	(8)
図書館学Ⅰ(山崎 慶子)	(8)
図書館学Ⅱ(源 昌久)	(8)
青少年問題研究(和田 謙寿)	9
視聴覚教育(赤堀 正宜)	(9)
教育臨床心理学(牟田 隆郎)	9
教育法規研究(神田 修)	9
児童文化(湯山 厚)	9
宗教教育(松本 皓一)	9

(3) 教科に関する専門科目

【社会 地理 歴史 公民】

日本史概説(大久保 俊昭)	10
日本史概説(小松 寿治)	10
世界史概説(井村 行子)	10
世界史概説(渡辺 惇)	10
地誌学概説(今朝洞 重美)	10
地誌学概説(長野 寛)	10
地誌学概説(宮口 侗迪)	10
人文地理学概説(小林 高壽)	10
自然地理学概説(早船 元峰)	11
自然地理学概説(高木 正博)	11
民法Ⅰ(青野 博之)	11
民法Ⅰ(林 幸司)	11
政治学原論(上條 末夫)	11
社会学原論(渡辺 源樹)	11
経済原論(阿部 弘)	11
経済原論(荒木 勝啓)	12
経済原論(小野 俊夫)	12
哲学概説(篠原 壽雄)	12
哲学概説(國嶋 一則)	12
倫理学概説(久保 陽一)	12
宗教学概説(脇本 平也)	12
宗教学概説(洗 建)	12
宗教学概説(松田 文雄)	13

宗教人類学 (佐々木 宏幹) ……………	(13)
民間信仰論 (谷口 貢) ……………	13
東洋思想研究 (館野 正美) ……………	13
民衆宗教成立史 (洗 建) ……………	13
歴史哲学 (麻生 建) ……………	13
日本文化史Ⅱ (廣瀬 良弘) ……………	(13)
美術史概説 (中島 亮一) ……………	(13)
日本宗教文化史 (脇本 平也) ……………	13
日本仏教史 (廣瀬 良弘) ……………	13
【職業】	
産業概説 (前田 幸一) ……………	14
職業指導 (山田 勇治) ……………	14
商業実習 (前田 幸一) ……………	14
【商業】	
職業指導 (山田 勇治) ……………	(14)

Ⅱ 学校図書館司書教諭講座

図書館学Ⅰ (山崎 慶子) ……………	15
図書館学Ⅱ (源 昌久) ……………	15

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉) ……………	16
社会教育計画 (村山 輝吉) ……………	16
社会教育実習 (村山 輝吉) ……………	16
社会教育実習 (上岡 安彦) ……………	16

(2) 選択必修科目

現代社会の諸問題と教育 (高島 秀樹) …	(16)
婦人問題と社会教育 (矢口 悦子) ……………	16
青少年問題研究 (和田 謙寿) ……………	(17)
青少年指導演習 (和田 謙寿) ……………	17
社会教育施設 (村山 輝吉) ……………	17
図書館学Ⅰ (山崎 慶子) ……………	(17)
博物館学Ⅰ (太田喜美子) ……………	(17)
博物館学Ⅱ (竹内 順一) ……………	(17)
企業内教育・職業訓練 (塩川 正人) ……………	17
社会体育Ⅰ (古田 潤子) ……………	18
社会体育Ⅱ (古田 潤子) ……………	18
視聴覚教育 (赤堀 正宜) ……………	(18)
教育原理 ……………	(18)
教育心理学 (教育方法論を含む) ……………	(18)
青年心理学 (教育方法論を含む) ……………	(18)
社会心理学 (坪井 健) ……………	18
教育社会学 (高島 秀樹) ……………	(18)
教育調査 (鈴木 規夫) ……………	(18)
教育史 (北村 三子) ……………	18
児童文化 (湯山 厚) ……………	18
社会教育行政 (牧野 篤) ……………	18
成人学習論 (牧野 篤) ……………	19

Ⅳ 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学Ⅰ (太田喜美子) ……………	20
---------------------	----

博物館学Ⅱ (竹内 順一) ……………	20
教育原理 ……………	(20)
社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉) ……………	(20)
視聴覚教育 (赤堀 正宜) ……………	20
博物館実習Ⅰ (館務) (倉田 芳郎・飯島 武次・ 太田喜美子) ……………	20
博物館実習Ⅱ (収集) (所 理喜夫・葉貫 磨哉 恵津森智行・太田喜美子) ……	20
考古発掘実習 (千葉 基次) ……………	21
博物館実習Ⅲ (見学) (倉田 芳郎・飯島 武次・ 太田喜美子) ……………	21

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅱ (廣瀬 良弘) ……………	21
インド仏教文化史 (奈良 康明) ……………	21
西洋文化史Ⅰ (椽川 一朗) ……………	21
西洋文化史Ⅱ (三小田 敏雄) ……………	21
仏教美術 (中島 亮一) ……………	22
現代美術 (宮崎 克己) ……………	22
禅美術 (海老根 聰郎) ……………	22
美術史概説 (中島 亮一) ……………	22
西域美術史 (相馬 隆) ……………	22
考古学概説Ⅰ (日本) (前期:大三輪龍彦) (後期:倉田 芳郎) ……………	22
考古学概説Ⅱ (外国) (飯島 武次) ……………	22
考古学特講Ⅰ (高浜 秀) ……………	22
考古学特講Ⅲ (飯島 武次) ……………	23
日本民俗学 (谷口 貢) ……………	23
仏教民俗学 (和田 謙寿) ……………	23
宗教人類学 (佐々木 宏幹) ……………	23
地形学Ⅰ (小池 一之) ……………	23
地質学 (貝塚 爽平) ……………	23

社会福祉主事

講座

V

社会福祉士基礎

※社会福祉原論 (伊藤 秀一) ……………	24
※社会福祉原論 (原田 信一) ……………	24
※老人福祉論 (前期:東條 光雅) (後期:中野いく子) ……………	24
※障害者福祉論 (原田 信一) ……………	24
児童福祉論 (高橋 重宏) ……………	24
※社会保障論 (近藤 功) ……………	25
※公的扶助論 (伊藤 秀一) ……………	25
※地域福祉論 (永田 幹夫) ……………	25
※心理学 (福祉) (井上 孝代) ……………	25
※社会学 (福祉) (山手 茂) ……………	25
※法学 (福祉) (小林 弘人) ……………	26
リハビリテーション論 (原田 信一) ……………	26
社会福祉計画論 (和田 敏明) ……………	26

社会福祉運営論 (永田 幹夫)	26
家族福祉論 (田村 健二)	26
医療福祉論 (春見 静子)	26
婦人福祉論 (林 千代)	27
保健福祉論 (安梅 勅江)	27
社会福祉発達史 (林 千代)	27
海外社会福祉論 (中野 いく子)	27

上記科目のうち

※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用する科目、それ以外は社会福祉主事のみ対象とする科目

注 () 頁は他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示している。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する専門科目（必修）

教育原理

上岡安彦

『エミール』（上・中・下）を年間を通して読みます。次に出てくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕『エミール』（上・中・下）

（岩波文庫）

上 ¥570，中 ¥520，下 ¥520

教育原理

北村三子

若者の生き方を歴史的に展望することを通して、近代の青年期教育思想の性格を吟味したい。講義は、近代以前の若者の有り様を概観した後、近代青年期の成立とその特性にふれ、次いで青年期教育思想の検討へと進む予定である。

〔参考書〕教場で指示

教育原理

坂本信昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、ともに考えていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達
3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐくむ
5. 学校への期待
6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる
9. 教育制度をみなおす
10. 障害児とともに
11. 内なる差別を考える

12. 学びへの出発

さらに、教育問題にかかわるVTRを視聴する予定です。

〔教科書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

〔参考書〕教師養成研究会『教育原理』

（学芸図書）¥950

チューイ著、宮原誠一訳『学校と社会』

（岩波文庫）¥200

教育原理

村山輝吉

テキストにそいながら、下村湖人の著作などを手がかりとして、人間の発達と教育、文化、社会のかかわりについて原理的考察をおこない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしたい。

〔参考書〕『下村湖人全集』〔全10巻〕（国土社）『教育の原理Ⅰ・Ⅱ』（東大出版会）

〔テキスト〕堀尾輝久著『教育入門』（岩波新書）¥480

教育原理

こやまかずのり
小山一乗

教科書や適宜配布する資・史料等に刺激されながら、日常生活の中で自明理のごとくに看過している教育の原初的事象や用語を意識的に対象化し、教育的・教育学的に考察していきたい。日常語と非日常語とに使い分けられている用語についてもとりあげてみたい。その際の留意項目は、①教育学研究の諸方向、②教育とは「何」か、③教育の目的・目標、④教育の内容、⑤教育の方法（教授学習・生活指導）、⑥教育の経営、⑦教育の制度、⑧教師論。生涯学習における学校教育の意義について一貫して考えるようにする。

〔教科書〕教師養成研究会『教育原理』

（学芸図書）¥950

『教育小六法』（学陽書房）¥2,200

小中高各『学習指導要領』（文部省、各¥230， ¥250， ¥370）

『生徒指導の手引』（文部省¥460）

〔参考書〕田村院司他『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

教育心理学
（教育方法論を含む）

大 浜 幾久子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方や、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また、知能テストなどの実習や初歩的な実験演習も随時、行う。

教育心理学
（教育方法論を含む）

改 田 明 子

教育心理学の基本的な問題について、学習、発達などの領域を中心に概説する。また、心理検査などの実習を行ない、受講者の経験を通して教育心理学上の問題を考察する。

〔参考書〕講義中に、そのつど紹介する。

教育心理学
（教育方法論を含む）

国 眼 眞理子

教育心理学は、教育という場に応用された心理学である。したがって広汎な領域が含まれるが、中学・高校の免許状取得を念頭において、「心の健康」、「対人関係とパーソナリティ」、「学習意欲と教育評価」の三領域を中心に学び、考えていきたい。

教育心理学
（教育方法論を含む）

中 村 均

教育心理学の研究によって得られた知見と研究の動向を概観し、それを教育方法に展開する方途を検討する。

1. 発達理論

- ・ゲゼル、ピアジェ、ヴィゴツキ等の発達理論から

2. 学習理論と教授方法

- ・刺激＝反応理論（行動主義）の立場から
- ・認知理論の立場から

3. 個人差の検討

- ・パーソナリティ理論
- ・知能観

4. 教育方法

- ・教育のシステム化
- ・教育メディア

教育心理学
（教育方法論を含む）

難 波 和 明

動機づけ、ATIなどを中心として、教える立場からだけでなく、学ぶ側の立場を考慮にいたした授業を行うために必要な心理学的な話題を扱うとともに、認知心理学の最近の成果にも触れながら、教育について考えていく。

〔教科書〕その都度指示する。

青年心理学
（教育方法論を含む）

大 浜 幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また、性格テストなどの実習や初歩的な研究演習も随時、行う。

青年心理学
（教育方法論を含む）

川 田 三 夫

今も昔も青年（期）をめぐる問題は少なくない。大きく見れば歴史、社会の問題とも言えるが、基本的には個人的・人格的な問題といえよう。

発達や人格に関する心理学理論の理解だけでなく、現代の青年を理解するために必要な“キー・ワード”やコンセプト、青年にかかわるためのアプローチといったものにも言及してみたい。

国際化が言われる今日、古くて新しい問題でもある“日本的な”心性といったものを今の青年がどの程度意識しているのかを、学生諸君に問いかけながら考えてみたい。

教科書は特に指定せず、話題や事例など、必要に応じて資料の形で学生に提示している。参考文献も講義の中で紹介している。

青年心理学
(教育方法論を含む)

小宮山 要

前半では青年期の発達課題、自我、感情、知性等について考察する。また、後半では親子関係、恋愛・結婚、職業、問題行動、時間的展望等について検討し、自己と他者の理解を深めていく。

〔教科書〕佐藤 正他著『青年心理学』（専修学校教育振興会）¥2,000

青年心理学
(教育方法論を含む)

牟田悦子

人間の発達の中で青年期がどのような意味をもつかを考えながら、青年期の身体的、知的、情緒的発達や人間関係の特徴、彼らへの対応について学ぶ。また、現在の学校教育の中で問題になっている様々な事象に対して、各自が考える契機をつくることもこの授業のねらいとしたい。

〔教科書〕岸本 弘編著『ポイント教育学－青年心理学』（学文社）¥1,000

特別活動

中野目直明

情報化、国際化、高齢化の進む現代社会において、広い視点から学校教育の意義やこれからの方向を考え、人間形成を目指す特別活動のねらいや内容を明らかにしたい。主として、次の内容を講義する。

1. 現代社会と学校教育の課題
2. 人間形成を目指す特別活動
3. 特別活動の内容とその指導

〔教科書〕宇留田敬一編『特別活動の基礎理論と実践』（明治図書）

〔参考書〕中野目直明著『教育情報管理と学校経営』（エイデル研究所）¥2,000

生活指導

佐藤尚人

児童・生徒の教育を考える時、教科学習の指導はもちろん、学習がスムーズに行われるための環境づくり、わけても1人ひとりの子どもの学習への積極的な姿勢を導き出すことは極めて重要であ

る。

本講義では、友だちができない・学習に集中できない・登校拒否・非行など具体的事例をもとに、子どもの精神発達の道すじを理解し、教師として子どもにどのように関わってゆくかについて考える。

〔教科書〕講義ノートに基づき進めてゆく。

〔参考書〕随時指示する。

宗教科教育法

小山一乗

先ず教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。特に各教科と宗教科との関係、「宗教教育」と「宗教科教育」との異同点にも留意する。我が国にかかわる第2次世界大戦後の、対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ、日本国憲法20条と教育基本法9条との関係、基本法9条と初期社会科学学習指導要領の文言との関係、基本法9条と初期社会科学学習指導要領の文言との関係等を検証する。その上で、「宗教の定義集」への着目をし、「『宗教に関する寛容の態度』の涵養」への展開を検討する。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して、異文化理解の課題にも備えるようにしたい。

適宜わらべうた等も導入し、幼稚園教育から高校教育までの接続も考察に含めたい。模擬授業を課します。

〔教科書〕『教育小六法』（学陽書房）¥2,200
小中高各『学習指導要領』（文部省、各¥230、¥250、¥370）

『生徒指導の手引』（文部省¥460）

その他必要に応じて指示する。資料を配布するのでファイルを用意しておくこと。

〔参考書〕『宗教教育の理論と実際』（鈴木出版、1985年）

その他必要に応じて多数指示する。

国語科教育法

神谷道倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、後期は実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究の

あり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕改編 中学校・高等学校『国語科教育法』（桜楓社）¥1,800

書道科教育法

金子卓義

芸術としての書を理解し、その学習法、表現法、鑑賞法を学び、その基盤の上で実際の指導法を修得する。

〔教科書〕未定

英語科教育法

大沢一雄

多くの学者によって唱えられてきたいろいろな外国語教育法を検討し、わが国の英語教育において、どのような教授法を用いたらよいか、発音、語彙（い）、文法等の指導はどのようにしたらよいか、などを考える。講義は、ノートとプリントによっておこなう。

社会科・地理歴史科教育法 （平成元年度以前入学生： 社会科教育法（地理））

川合元彦

社会科教育発足の背景を明らかにし、学習指導要領（社会）の変遷、社会科教育についての論争、地理の学習指導上の諸課題などを考察し、新学習指導要領（社会科・地歴科）についてもとりあげる。また、指導案の具体的な作成も行なう。地図帳は必ず持参すること。

〔参考書〕随時必要に応じて指示する。

社会科・地理歴史科教育法 （平成元年度以前入学生： 社会科教育法（地理））

中島義一

社会科（地理）教育の諸問題を講義し、後半は学生諸君に交代で壇上に立ってもらって授業演習を行う。下記教科書のほか、地図帳（高校用、中学用どちらでもよい）を忘れずに持ってくること。

出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適格である。

〔教科書〕山崎謹哉著『新訂 地理教育の本質と実践』（古今書院）¥2,266

社会科・地理歴史科教育法 （平成元年度以前入学生： 社会科教育法（歴史））

野呂肖生

「中学校で社会科、高等学校で地理歴史科の授業をするさいに役立つように」を目標とし、社会科・地歴科教育（とくに歴史）の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

社会科・公民科教育法 （平成元年度以前入学生：社会科教育法）

長谷部八朗

教育をめぐるさまざまな今日的課題にもふれながら、社会科公民科教育のあり方をともに考えてみたい。

前期は、社会科公民科の性格、目標、歴史、指導計画、指導案、教材研究、教育評価といった問題について、とりあげる予定である。

そして後期には、受講生にテーマを課し、発表してもらう機会を持ちたい。

より詳しい進め方については、最初の授業で述べる。

〔教科書・参考書〕適宜指示する。

社会科・公民科教育法 （平成元年度以前入学生：社会科教育法）

谷敷正光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後の政治・経済の発展とともに大きく変遷してきた。

したがって、しっかりと社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めると

ともに教員としての資質の養成につとめたい。年間の授業計画は次の通りである。

①戦後日本資本主義の発展と教育，②教育の基本概念，③日本資本主義の発展と社会科教育，④社会科教育の基本概念，⑤中学校の教育課程と社会科，⑥高等学校の教育課程と公民科，⑦社会科の学習指導，⑧学習指導案の作成，⑨中学校社会科の目標・内容・取り扱い，⑩高等学校社会科・公民科の目標・内容・取り扱い，⑪教育評価，⑫教育実習の意義，⑬模擬授業を通じての社会科授業実践の研究，⑭社会科教師論，⑮教員採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕大森・谷敷共著『社会科教育研究』（梓出版）

遠山 啓著『競争原理を超えて』（太郎次郎社）

〔参考書〕石川達三著『人間の壁』（新潮文庫）
灰谷健次郎著『兎の眼』（新潮文庫）
無着成恭著『山びこ学校』（角川文庫）
その他，若干のルポ，小説，社会科・公民科の教科書，中学校・高等学校学習指導要領も使用する。

〔注 意〕年間かなりの資料を作成配布するので，必ずファイルを用意すること。
視聴覚教室も使用するので，常に教場には注意しておくこと。

社会科・公民科教育法

（平成元年度以前入学生：社会科教育法）

大久保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ，社会科の教科教育法より効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の目標，構成，内容等について考究する。さらに具体的に指導計画，指導案，指導方法，教材研究，教育評価については，受講生をグループ別にし模擬教育実習を通じて実践させることで合目的教育方法を発見させるよう努める。OHP，スライド，8ミリ，ビデオ等視聴覚教育器機も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ，将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講義となるよう配慮する。

〔教科書〕その都度指示する。

〔参考書〕『学習指導要領』（中学・高校の社会）各自が使用した社会関係の教科書。

社会科・公民科教育法

（平成元年度以前入学生：社会科教育法）

橋 爪 敏

社会科は，戦後の民主的諸改革の一環として，民主的な国民の育成を目的として設定された。したがって，単に知識の習得のみを目的とした教科ではなく，戦後教育の中心を成すものと位置付けられてきた。しかし，現実の政治的状況・教育状況のなかで紆余曲折してきたのも事実であり，周知のように，高等学校の社会科は公民科と地歴科の二科に再編されることとなった。その分割再編の是非はともあれ，公民科・社会科教師に求められる「資質」は他の教科のそれにも増して，厳しいものがあると言ってよからう。

この授業では，こうした点を踏まえた上で，公民科・社会科教師に必要な基礎的認識や知識を習得する事を目的とする。また，模擬授業等の機会を設けて“教えること”を，実際の体験を通して学習することとしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

職業科教育法

前 田 幸 一

当授業は以下の項目で進めていく。

1. 「技術・家庭のあり方」について，新聞の切り抜きを通して考えていく。
2. 新旧の『中学校学習指導要領』の比較
3. 職業教育について

商業科教育法

や しき
谷 敷 正 光

「産業教育」（職業教育）の一つである商業教育は，日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され，産業構造の高度化，経営革新にもなっただけでなく，多様化してきた。そして，高度成長期の高校教育の「多様化」政策の破綻にもなっただけでなく，商業教育は大きく軌道修正され，さらに，先端産業化，国際化，情報化時代をむかえ，再び修正されている。従って，本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在，しっかりと商業教育を樹立するため，この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終らせることなく，より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり，本来的な意味での商業教育論，

職業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

産業教育振興中央会や全国産業教育振興会連絡協議会などから「近年、産業高等学校の専門教科の教員の確保は困難を極めており」「教員養成に一層のお力添えをお願いいたします」との要請が私立大学協会に行われており、商業の教員はまだ不足している（1988年11月）ので、しっかり勉強して教師をめざして欲しい。年間の授業計画は次の通りである。

①日本資本主義発展と教育・職業教育、②教育の基本概念、③職業教育、商業教育の概念、④高等学校における商業教育の現状と課題、⑤高等学校の教育課程、⑥商業科の教育課程、⑦商業科の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての商業科授業実践の研究、⑬商業科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）
城山三郎『素直な戦士たち』（新潮文庫）

灰谷健次郎『兎の眼』（新潮文庫）

〔参考書〕竹内 宏『日本の学歴社会は変わる』（有斐閣）

その他、高校商業の教科書、高等学校学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌、ルポ、小説なども使用する。

〔注意〕年間かなりの資料を作成して配布するので、必ずファイルを用意すること。視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

道徳教育の研究

上 岡 安 彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。

〔教科書〕『道徳教育の研究』（新訂版）（学芸図書）¥900

教育実習

上 岡 安 彦

事前指導

学校の教師としての仕事について講義

学習指導案作成実習

訪問指導

実習期間の研究授業参加

事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥370

デューイ『学校と社会』（岩波文庫）¥350

教育実習

坂 本 信 昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材「教育実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得などについての事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成—提出、教育問題にかかわるVTRの視聴、グループ編成による授業（ディスカッション）を行い、教育への理解を深め、教育とは何か、どうあるべきかについて各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像についても一緒に考えたいと思う。参考書は、下記以外にも授業で適宜紹介する。

〔参考書〕大村はま著『教えるということ』（共文社）¥480

田村皖司他著『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

教育実習

村 山 輝 吉

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めるよう、年間を通じて次の事項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ

2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

教育実習

北村三子

前半は教育実習の準備にあてる。後半は、教育をめぐる技術・技能を主題に、文献を読み合い討議をしたい。

教育実習

小山一乗

①教育実習前の段階では、教職課程履修の中での、教育実習の意義、目的・目標、内容、方法等に関する講義をする。各科学習指導案範例、授業記録、板書、授業形態分類、話し方の基本、発問

方法、授業展開の実際、授業参観の実際と記録の仕方等につき概説する。適宜視聴覚教材「教育実習の日々」等を視聴し、実習生としての「心がまえ」形成の事前指導をする。日常生活の諸事象に教育的関心を喚起すること。②実習期間中は、可能な限り、実習校を訪問して指導にあたる。③実習（体験）後は、口頭・レポート作成等による各自の報告を課し、各学校の実態報告等を通して比較考察し、広い視野から各自の体験を省察し再認識し、教職への理解を深め経験知化する。

- 〔教科書〕小中高の各『学習指導要領』（文部省、大蔵省印刷局、各¥230、¥250、¥370）
『中学校指導書 社会編』（文部省、大阪書籍、¥100）
『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（文部省、実教出版¥320）
『高等学校学習指導要領解説 公民編』（文部省、実教出版¥220）
『生徒指導の手引』（文部省、大蔵省印刷局、¥460）
『生徒指導 実践上の諸問題とその解明』（文部省、大蔵省印刷局、¥440）
『学級担任の教師による生徒指導』（文部省、大蔵省印刷局、¥230）
『教育小六法』（学陽書房、¥2,200）

〔参考書〕授業中指示する。

(2) 教職に関する専門科目（選択）

教育哲学

汐見稔幸

今年度も学校に焦点をあて、文化の変容と学校という基本テーマを立てて議論し合いたいと思います。今日の学校で生じている諸問題の多くは、社会の行動様式や価値観が大きく変化しているにもかかわらず、学校の内側のそれはそれに見合っていないことから生じていると考えられます。新しい学校はどうあるべきか、教材、教育方法、教育の目標などいくつかの角度から、現状を批判しつつ、考えてみます。教職を希望しつつも、教育の今後を少し理論的に考えようという人を歓迎します。参加者の意志によりますが、年何回かの簡単な合宿形式で行なう予定です。

教育社会学

高島秀樹

教育社会学は教育を社会的な事象ととらえ、社会学の方法をもって実証的に解明していこうとする教育学の一部門である。教育が個人の発達を目指す営みであることはいままでもないが、それは同時に人間を社会の成員にふさわしく形成し、次代の担い手を育成することを通して社会の存続・発展を可能にするという、きわめて社会的な営みでもある。

この講義ではこうした教育社会学の基本的な考え方を明らかにした上で、社会集団の教育（家族、遊びと仲間集団、地域社会など）と学校に焦点を合わせ、その基本的特質を明らかにするとともに、現代日本における実態・問題点をできる限り具体的に考察していきたい。

- 〔教科書〕福永安祥・高島秀樹『教育社会学』（明星大学）¥2,000

現代社会の諸問題と教育

高島 秀樹

現代日本の社会は多方面において急速な変動を遂げつつあり、そこに多くの問題を発生させている。それらの変動や問題は伝統的な学校中心の日本の教育のあり方にも大きな影響を与え、いかにあるべきかという鋭い問いを提起していると考えられる。

この講義では現代日本の社会の構造と特質を初めに明らかにした上で、子どもの生活実態と社会化、現代の青年、女性と教育、産業・職業の変化と教育、高齢化と教育、情報化と教育、国際化と教育、といった論点を取り上げてできる限り具体的にその実態を明らかにするとともに、受講生自身にこれらの問題について考え発表してもらうことを取り入れていきたい。

〔教科書〕近藤大生・有本 章編著『現代社会と教育』（福村出版）¥2,000

教育評価

大浜 幾久子

まず狭義の教育評価にとらわれず、教育心理学の研究手法 — 実験・観察・調査・テスト — の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価に関わる研究演習を行い、そのことを通して、教育評価の諸問題に対する考察を深めていきたい。

なお、パソコンによるデータ分析の実習も行う。

教育情報学

難波 和明

パソコンによる実習によってコンピュータはどのような道具かを紹介するとともに、CAI、CMI、コンピュータ・リテラシーなど、コンピュータと教育に関する話題を扱いながら、情報化時代の教育について考えていく。

教育調査

鈴木 規夫

教育調査あるいは社会調査を実際に行い、調査に必要な基本的プロセスを学ぶと共に調査に不可欠なデータの解析法についても学習する。主な内

容は、調査主題の設定、主題に関する討議、調査票の作成、調査の実施、結果の分析等である。なお、結果の分析は主としてパソコンを利用する。

教育史

北村 三子

日本の若者史および青年期教育に関する歴史的文献を読む。

教育関係法規

広沢 明

憲法、教育基本法、子どもの権利条約など教育に関する基本法規につき、具体的事例に触れながら講義を行う。校則、体罰、内申書、日の丸・君が代、教科書検定、学校事故、障害児教育、民族教育など今日的な教育問題について、法的観点から検討をしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

社会教育の基礎（社会教育概論）

村山 輝吉

(P.16) 参照

社会教育施設

村山 輝吉

(P.17) 参照

図書館学Ⅰ

山崎 慶子

(P.15) 参照

図書館学Ⅱ

源 昌久

(P.15) 参照

青少年問題研究

和田 謙 寿

校内暴力や家庭内暴力・いじめ、薬物乱用など、年々少年の不良化や犯罪が増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済ませられるものではなく、実際的な面からの考察が必要である。今年は特に中学校および高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者を志す人々を対象として、その理論と現実との両者を見つめて考察する事にする。更に生活指導教諭を希望する者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法として考えられるので、その旨を授業のはじめに申し込まれる事を希望する。

〔教科書〕和田謙寿著『少年補導の研究』訂正版
(大志堂印刷) ¥2,500

視聴覚教育

赤 堀 正 宜

(P.20) 参照

教育臨床心理学

牟 田 隆 郎

現代の青年や子どもをとりまく社会環境は、必ずしも適正なものとはいえない。そのために、感受性に富む若い人たちが、社会のもつさまざまな矛盾を、「問題」というかたちで表現している。

本講義では、社会の表面に現れた青少年の諸問題を種々の材料を用いてとりあげ、その発生の機序と対応について、心理面・社会面等から考察していく。

教育法規研究

神 田 修

教育法規、法制の原理、歴史のほか、学校制度の法制と運営、教職員の地位と権利、教育行財政のしくみなどについて学習する。

〔参考書〕①兼子 仁、神田 修編著『教育法規事典』1991年(北樹出版)

②『解説教育六法』1992年版(三省堂)

児 童 文 化

湯 山 厚

児童文化とはなにかとか、その史的推移とか、あるいはこれからのあり方は、といったように概論風ではなく、現に身近にある名作物の児童図書や、リバイバルソング風に歌われている童謡などを具体的に取り上げ、それらを歴史的に、あるいは他ジャンルとの関連、さらには公教育、民間教育運動との関係、といった観点からとらえなおし、子どもを取りまく環境の一部ともなっている文化財をみなおすとぐちとしたい。

〔参考書〕上笙一郎著『児童文学概論』(東京堂出版) ¥1,800 『日本唱歌集』『日本童謡集』(いずれも岩波文庫) 各 ¥450
坪田譲治編『赤い鳥傑作集』(新潮文庫) ¥400

H・A・レイ・光吉夏弥訳『ひとまねござる』(岩波書店) ¥1,300

宗 教 教 育

松 本 皓 一

宗教的情操を培うことは円満な人格完成にとって必須の要件である。とくに今日のように主知主義・科学主義の時代においては重要問題である。そうした点から、知識教育・情操教育を併せた広い立場で宗教教育の諸問題を考えてみる。

〔参考書〕必要に応じて適宜明示する。

(3) 教科に関する専門科目

教科に関する専門科目で各学科専門教育科目と兼用する科目の講義内容は「専門教育科目」欄に掲載されている。

【社会 地理 歴史 公民】

日本史概説

大久保 俊 昭

毎回文献資料（史料）のプリントを作成し、これをテキストとして、古代より順次通史的に日本史を検討したい。
〔教科書〕使用せず

日本史概説

小 松 寿 治

古代から近世にわたり政治史を中心に講義を行なう予定であるが、特に日本史を教える上で、最小限必要である事項を選び、授業を行ないたいと思う。教科書はとくに用意しない。

世界史概説

井 村 行 子

ヨーロッパ、アメリカの歴史を中心とするが、時間の許す範囲内においてアラブ・アフリカ世界についても言及していきたい。教科書等については開講時に指示する。

世界史概説

渡 辺 惇

アジアの歴史を地域的に東アジア、東南アジア、南アジア（インド）、西アジア、内陸アジアに分け、それぞれの歴史的世界の風土、歴史展開の特色等について講義する。
〔教科書〕特に定めず、プリント・資料を配布する。

地誌学概説

今朝洞 重 美

地誌学の本質を説明しつつ、日本地誌と外国地誌を講義する。

地誌学概説

長 野 寛

前期は地理学における、地誌学の概念と役割を発達史的に講義する。後期は学習時点で、国際的に関心をもたれている地域の中から、当時国の地誌を学習することにした。講義はプリント資料を中心に進めるが、教科書・参考書は開講後に指示する。

地誌学概説

宮 口 侗 迪

日本という「地域」をどのように理解すればよいかということテーマとしながら、地誌学のあり方を講じていきたい。風景の持つ意味を理解してもらい、日本を相対化するために非日本的な世界にもふれる。

人文地理学概説

小 林 高 壽

教職のための人文地理学を概説するのである。そのために①人文地理とは何か（本質論）②人文地理をどう教えるか（教授論）③教える立場と教わる立場の考察（教育論）④人文地理の基盤となるべき自然地理の内容はどうなっているか（体系論）⑤自然環境及社会環境とは（相互作用論）⑥地図と地理統計をどう読むか（教材論）⑦地理学にあらわれてくる人物をどうとらえるか（主体論）⑧人文地理の教育と研究について（教養論）等にわたって講述したい。

地図帳と最新地理統計（小冊子になっている）は持参して貰いたい。

〔教科書〕長谷川典夫編著『教養のための地理学
トピックス』（大明堂）¥2,800
〔参考書〕高校用地図帳（アトラス）と、二宮
書店編の『地理統計』

自然地理学概説

早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について
講じ、人間と自然とのかかわりあいについて論じ
る。

さらに受講生に 2.5万分の 1、5万分の 1 の地
形図を用意（10枚程度）させ、それらをもとに種
々な作業（土地利用図・切峰面図・带状平行投
影地形断面図等を作成）をさせてより一層の理解
を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒
インク等各人用意すること。

自然地理学概説

高 木 正 博

自然地理学の分野のうち、土地・水を基本的な
視点において、自然環境と人間生活とのかかわり
を展望する。

民法 I

青 野 博 之

民法のうち第一編「総則」と第二編「物権」を
対象とする。自分のことは自分で決めるとはど
ういう意味か、自分の物は何を使ってよいとはど
ういう意味か、借金をするとき土地を担保にす
るとはどういう意味か、自分と他人の間にあるさ
まざまなことを、権利・義務という面から考え
いく場合に参考となることを講義したいと願っ
ている。何ができるか（権利）、何をしなければ
ならないか（義務）を、受講生自身が考えてい
けるように、講義を進めたい。質問は大歓迎である。

教科書は下記のものを使うが、ほかに自分で
気に入ったもの、手持ちのものがあればそれでも
よい。

〔教科書〕我妻 栄・有泉 亨著『民法 I（総
則・物権法）』（一粒社）

民法 I

林 幸 司

民法典のうち第一編「総則」と第二編「物権」
第三編「債権」いわゆる「財産法」と呼ばれる分
野を対象とし、その基本的な構造の理解を目的と
する。

また本講義では、重要な法制度や権利・義務が
「受講生自身の日常生活とどのように密接に結び
ついているか」を実感できるように留意し、『鶴
呑み』ではなく『理解』する方法を習得してもら
えるよう努力していきたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

政治学原論

上 條 末 夫

国家、権力、イデオロギー、議会、選挙、政党
などの概念の解説を通じて政治の本質を明らかに
することに主眼をおくと共に、国際政治の本質と
システムについて解明する。また、政治システム
における主権者たる国民の政治参加のあり方や役
割を明確にし、民主政治のあるべき姿を示したい。
そのことによって、将来政治教育の一端を担う際
に必要な最小限の基礎学力が身につくような講義
とする。

〔教科書〕授業開始時に指示する。

社会学原論

渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点
をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関
らしめながら、集団論・組織論などを中心として
基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、
現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具
体的に講述する。

経済原論

阿 部 弘

現在私たちは「資本主義社会」で生活している。
この社会の「富」は何であろうか？「価値」を生
みだすものが「富」であると考えられている。そ

してそれは「商品」の生産・流通によっているのであるといわれている。さて私たちの社会はその意味で「商品社会」であるともいわれているが、そうすると「資本」とか「商品」とかは一体何なのであるか？そしてまた、このような社会のなかですべての人間が「自由」な関係のうちに働いているというが、はたしてそうなのであるか。

今年度はこのような問題提起のもとに、「商品」とは何か、「資本」とは何か、それらと私たちの「労働」との関係に焦点を当てて考察をしていく。
〔教科書〕阿部 弘『労働と所有 — 経済学の出発 —』（八千代出版）

経済原論

荒木 勝 啓

経済学全般の理解に必要な基礎理論をマクロおよびミクロの両面から解説する。

〔教科書〕浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』（成蹊堂）¥3,300

経済原論

小 野 俊 夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮し、現代経済学の基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを目指す。

〔教科書〕開講の際に指示する。

哲学概説

篠 原 壽 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかにかに受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び、併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕『莊子』（内篇¥360，外篇¥400）（中公文庫）

哲学概説

國 嶋 一 則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

〔参考書〕その都度示す。

倫理学概説

久 保 陽 一

善や正義などの倫理学上の基本的概念を歴史的に検討しながら、—アリストテレス倫理学、キリスト教の倫理、カント道徳哲学、ヘーゲルの法哲学、実存主義等—現代における倫理の問題—国際的正義、生命倫理等—について考えることにしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

宗教学概説

脇 本 平 也

—宗教学説史—経験科学としての宗教学の成立と展開を、問題中心に学説史的にあとづけてみる。

参考文献をその都度指示する。

宗教学概説

洗 建

宗教学の体系について概観し、その中から宗教社会学的問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。

〔参考書〕随時指示する。

宗教学概説

松田文雄

初めに宗教学の研究手法、その領域などを概説し、今年度は日本仏教の特色について述べる。
〔参考書〕随時指示する。

宗教人類学

佐々木宏幹

(P.23) 参照

民間信仰論

谷口貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていきたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。
〔参考書〕必要に応じて紹介する。

東洋思想研究

館野正美

本年度は、中国古代思想における運命論の問題について講じてゆきたい。前半には、孔子・孟子・墨子・荀子らの考え方を概観し、後半に至って、易経の哲学思想を中心に勉強する。
易占の持つ哲学的意義を明らかにしてゆきたいと考えている。
〔教科書〕プリント使用
〔参考書〕授業中に紹介します。

民衆宗教成立史

洗建

新宗教の規定をめぐる諸問題、新宗教の展開、発達史を概観し、主要な新宗教教団について紹介する。
〔参考書〕堀一郎編『日本の宗教』（大明堂）
¥2,000

歴史哲学

麻生建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそも「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。
〔教科書〕麻生建『解釈学』（世界書院）
¥2,500

日本文学史Ⅱ

廣瀬良弘

(P.21) 参照

美術史概説

中島亮一

(P.22) 参照

日本宗教文化史

脇本平也

教科書その他の参考文献を読み進めながら、日本宗教文化史における夢の位置や意味について考えてみる。
〔教科書〕西郷信綱『古代人と夢』（平凡社）

日本仏教史

廣瀬良弘

仏教の歴史の流れを概観し、のちに平安末・鎌倉・室町・近世にかけての仏教と社会・文化とのかわりについて講述する。
〔教科書〕参考史料は随時コピーして配布。

【職業】

産業概説

前田 幸一

日本の主要な諸産業を順次とりあげ、それらの産業の特性と歴史、現状と問題点を勉強していく。

〔参考書〕宮沢健一・竹内 宏編『日本産業教室』（有斐閣）

日本興業銀行産業調査部編『日本産業読本』（東洋経済新報社）

武藤博道・日本経済研究センター編『図説日本産業』（日本経済新聞社）

【商業】

職業指導

山田 勇治

(P.14) 参照

職業指導

山田 勇治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学のみならず、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸ばし、生徒自ら望ましい進路を選択・決定させ、その後の職業生活において自己実現できるように指導し、援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり職業教育についても講述する予定である。

〔教科書〕山田勇治著『会計教育論』（創成社）
¥1,300

〔参考書〕近藤大生・有本 章編著『職業と教育—職業指導論—』（福村出版）
¥1,500

商業実習

前田 幸一

商品取引における事務手続きについて勉強をしていく。

〔教科書・参考書〕講義の際指示する。

II 学校図書館司書教諭講座

図書館学 I

山崎 慶子

小学校、中学校、高等学校各々の学校の教育目標を達成するために学校図書館はなくてはならぬ設備である。

人格形成期にある児童生徒たちが多くの事を学び教養や趣味を豊かに育てるためには、教科書の他にたくさんの資料が必要となる。児童生徒たちが生涯にわたって学ぶことの面白さを知る魅力ある学校図書館はどうあるべきか、そのためにはどのような研究や工夫が必要か。学校図書館を預かり教員の中心的存在として活躍する司書教諭の職務内容全般について、特に読書指導の意義及び資料利用の技能育成について考察を深めたい。

前期講義は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」後期は「学校図書館の利用指導」「読書指導」

〔教科書〕 図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』（学芸図書）¥1,442

図書館学 II

源 昌久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕 日本図書館協会分類委員会改訂編集

『日本十進分類法 新訂8版』

（日本図書館協会）

日本図書館協会目録委員会編

『日本目録規則1987年版』

（日本図書館協会）

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎 (社会教育概論)

村山輝吉

社会教育の本質について理解を図ることを目的とする。その内容としておもに下記の事項をとりあげる。

1. 社会教育の意義 — 理念, 歴史, 現状, 外国との比較, 社会教育と学校教育
2. 多様な学習の機会
3. 社会教育の法と行財政
4. 社会教育の施設
5. 学習者の理解
6. 社会教育の内容と方法
7. 社会教育と生涯教育・生涯学習

[教科書] 碓井・倉内編『新社会教育』
(学文社) ¥2,000

[参考書] 『社会教育ハンドブック』
(エイデル研究所)

社会教育計画

村山輝吉

社会教育主事として社会教育計画を立てるに際して必要な事項について基礎的な理解を図る。社会教育の対象の理解と組織化, 地域社会と社会教育, 社会教育調査とデータの活用, 社会教育事業計画, 学習情報の提供と学習相談, 社会教育と広

報・広聴, 社会教育施設の経営, 社会教育の評価等が主な内容となる。

[参考書] 碓井正久・倉内史郎編著『新社会教育』
(学文社) ¥2,000

社会教育実習

村山輝吉

実習前の指導 — これまでの経験に学ぶ。

実習期間 — 個別の訪問指導。

実習後の指導 — 個別の体験の整理・検討とそこから生ずる課題の追求。

社会教育実習

上岡安彦

事前指導

社会教育分野の活動について講義

実習期間

社会教育施設訪問指導

事後指導

ジェルピ『生涯教育』によって自分の社会教育実習の体験を吟味し, 日本の教育を考えてみる。

[教科書] 永田良行著『成人教育への挑戦』

(全日本社会教育連合会) ¥773

ジェルピ著『生涯教育』(東京創元社)
¥1,500

(2) 選択必修科目

現代社会の諸問題と教育

高島秀樹

(P. 8) 参照

婦人問題と社会教育

矢口悦子

女性問題(婦人問題)の現状を明らかにし, その解決にむけて取り組まれている諸活動を紹介・分析する。年間の予定としては,

- I 女性問題を捉える基本的視点
(ライフサイクル論, フェミニズム論争など)
 - II わが国における婦人教育政策の歴史と現状
 - III 国際的動向と女性学の発展
 - IV 女性問題学習の実際
(社会教育のなかでの実践・グループ・サークル等での実践, その他の活動・実践など)
 - V 今後に向ける課題
- という内容を考えている。
〔教科書〕なし
〔参考書〕授業中に紹介する。

図書館学 I

山崎 慶子

(P.15) 参照

博物館学 I

太田 喜美子

(P.20) 参照

青少年問題研究

和田 謙寿

(P.9) 参照

博物館学 II

竹内 順一

(P.20) 参照

青少年指導演習

和田 謙寿

将来、青少年指導者を希望する者、つまり、社会教育主事や社会福祉主事、少年指導委員・補導教諭などの業務に従事しようとする人たちには是非とも必要な講座である。本年は少年の非行問題を中心に授業を展開して行きたいと思う。特に教師になった場合は専攻をした学問は当然のこと、受持ち生徒の生活指導にも多大な比重で尽くさねばならぬので、非行対策の問題は重要な課題となる。

更に少年の問題に興味を持ち、研究しようと心掛ける者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一つの方法であろう。

〔参考書〕和田謙寿著『少年補導の研究』訂正版
(大志堂印刷) ¥2,500

企業内教育・職業訓練

塩川 正人

「企業」は“生きもの”のように変貌し、成長しています。企業の生きた姿を知ることが、卒業後の未来をつかむ上で必須の条件といえそうです。

本講座は、企業人教育20年の経営コンサルタントが、実践事例を中心に、企業論と人間論を、学生諸君と対話しつつ展開します。

★教職や社教主事を希望する諸君へは「採用試験合格」への決め手を、企業人教育の手法を活用して指導します。

★会社就職を希望する人へは、会社選択のノウハウを、個人別指導をしつつ展開します。

〔教科書〕なし

〔参考書〕『MTS総力経営』

社会教育施設

村山 輝吉

1. 社会教育施設とは何か
2. 社会教育施設にかかわる人々
3. 公民館
4. 図書館
5. 博物館
6. 社会体育施設
7. その他の社会教育施設・関連施設
8. 社会教育施設をめぐる動向と課題

〔参考書〕小林文人編『公民館・図書館・博物館』
〔講座・現代社会教育 第6巻〕
(亜紀書房)

社会体育 I

古田 潤子

野口三千三氏の理論と方法論を基にして、私なりの考え方や方法を加味したものです。

“人間のからだはどうか” “いいからだとはどういうのか” “それにはどうしたらよいか” ということを動きを通じて考え、行動できるからだづくりを行います。

立つ・寝る・歩く等あらゆる姿勢に於て、地球の表面と接触しているからだの最下部に全体重を任せきることの出来る能力と感覚を身につけます。

「社会体育Ⅰ・Ⅱ」は必ず対で履修すること。
〔参考書〕野口三千三著『原初生命体としての人間』（三笠書房）¥980

社会体育Ⅱ

古田潤子

人間の動きと道具との関係。
動きに於ける人と人との対話。
動きと呼吸との関係。
動きのイメージ。
効率のいい力の使い方。
あらゆる行動に対して最良の適応が出来る基本姿勢…等について動きながらたしかめ、自己発見していきます。

視聴覚教育

赤堀正宜

(P.20) 参照

教育原理

(P.1) 参照

教育心理学 (教育方法論を含む)

(P.2) 参照

青年心理学 (教育方法論を含む)

(P.2・3)参照

社会心理学

坪井健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。本講義は、個人の心理（行動）に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチに

も留意しつつ、現実の社会における人々の心理（行動）に関心を持ち、社会過程を重視する社会的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。

〔教科書〕穴田義孝編『こころ・行動そして社会』（人間の科学社）

教育社会学

高島秀樹

(P.7) 参照

教育調査

鈴木規夫

(P.8) 参照

教育史

北村三子

(P.8) 参照

児童文化

湯山厚

(P.9) 参照

社会教育行政

牧野篤

生涯学習振興法の成立により国の教育政策全体が生涯学習体系の構築へと動き出した。それはまた従来の学校教育・社会教育の区別を曖昧にしかつ各々の固有の役割を否定し、生涯にわたる国民管理の体系への移行ともいえる側面を有している。この講義では、戦後の社会教育行政の基本理念をとらえ、社会教育固有のあるべき役割を見据えつつ、生涯学習体系の中において、国民の学習する権利を生涯にわたって保障する社会教育行政のあり方を考察したい。

成人学習論

牧 野 篤

生涯学習振興法の成立により、生涯学習体系の構築が政策として明確に位置づけられることとなった。しかし、そこでは人間とくに成人が生涯にわたって学び続けるとはどういうことなのかという根本的問題がとらえられているとはいえない。この講義では、生涯学習体系の理論的枠組を分析しながら、その問題点を指摘するとともに、成人が学ぶということの意味をとらえ返し、そこから成人学習のあるべき内容を考察したい。

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学 I

太田 喜美子

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「実習Ⅳ（特講）」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難しい。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事資格を取得希望の方は、「博物館学Ⅱ」（2単位）も履修することが必要である。受講方法については、誤りの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

博物館学Ⅱ

竹内 順一

博物館の運営について、以下の項目を中心に実際例をとりあげる。①展覧会実施マニュアル ②パブリシティ ③インスタレーション ④美術館エデュケイター ⑤レジストレーション ⑥学芸員の研究 ⑦学芸員の文章と翻訳 ⑧外国における特別展の実施。これらを通して、将来の博物館像を追求し、専門家の分業体制とともにレジストラの役割の重要性を考える。（しばしばレポート課題がある）

〔参考書〕講義時に指示する。

教育原理

(P. 1) 参照

社会教育の基礎（社会教育概論）

村山 輝吉

(P. 16) 参照

視聴覚教育

赤堀 正宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材やコンピュータなどの教育メディアの利用と選択について考える。

また、学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新とつながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔参考書〕プリント使用

博物館実習Ⅰ（館務）

倉田 芳郎・飯島 武次
太田 喜美子

博物館で10日間以上、学芸員の指導により実習を行なう。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習Ⅱ（収集）

所 理喜夫・葉 貫 磨 哉
恵津森 智 行・太田 喜美子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。無断欠席のものは、受講できない。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 12月か2月
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬

考古発掘実習

千葉基次

一般的に言えば、考古学は机上の実習の一方で、遺跡を調査するための技術も必要とする。十分な技術は、一回の実習で身に付くと思えないが、いつの場合も基本・基礎の変わることはない。発掘調査は、一人では実施できないので、学友とこの基礎を、汗と泥にまみれて野外実習する経験も良いでしょう。

博物館実習Ⅲ（見学）

倉田芳郎・飯島武次
太田喜美子

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅱ

廣瀬良弘

日本文化の流れを概観し、とくに北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけての文化について詳述する。

『アジア』(山川出版社)
奈良康明著『釈尊との対話』(NHK
ブックス)

西洋文化史Ⅰ

椽川一朗

西洋の都市(とくにドイツ都市)の歴史を、社会構成を中心に講述する。

〔参考書〕椽川著『ドイツの都市と農村』(吉川弘文館)¥2,900

インド仏教文化史

奈良康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されていく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑いない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいを見るところにはじめて仏教文化が全般的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕奈良康明著『仏教史Ⅰーインド、東南

西洋文化史Ⅱ

三小田敏雄

平成3年度ヘレニズム世界を取り上げ、ローマの出現までを学んだ。本年度はローマ帝国の歴史を前31年から紀元後150年頃までを取り上げ、その間の政治・社会の情勢、法律、教育、軍隊、文学、芸術など文化の諸相を詳しく学んで行きたい。前・後期2回のレポートを提出して貰う。

〔教科書〕ベンコ編新田一郎訳『原始キリスト教の背景としてのローマ帝国』教文館 ¥4,635

〔参考書〕1. モンタネリ『ローマの歴史』(中央公論社)

2. モンテスキュー著『ローマ人盛衰原因論』
3. ギボン『ローマ帝国衰亡史』
(筑摩書房)

- ・記録類も併用して考察する。
- 〔教科書〕辻 惟雄他編著『美術史〈日本〉』
(近藤出版社) ¥2,060
- 〔参考書〕適宜指示する。

仏教美術

中島 亮一

仏教美術全般の問題を背景にして、仏教美術が展開して来た過程をスライドも併用し、諸尊像が出現して来る背景、その表現の様式的な変化、さらにそこにこめられた精神的(宗教的)な意味などを考察する。

〔教科書〕佐和隆研著『仏教美術入門』(社会思想社・教養文庫576) ¥720

〔参考書〕久野 健著『仏像の歴史』(山川出版社) ¥1,600

西域美術史

相馬 隆

東西文化交流史、東西美術交渉史の視点より、ターリム盆地周辺地区の所謂オアシス国家群と其の美術はいうまでもなく、葱嶺の西に横たわる壮大なる絹の道に就いて、道程、宿駅等隊商路の実相を復元究明し、併せて、東西にまたがる文物の有機的連関関係に関し、講述を進めるものである。(スライド使用)

現代美術

宮崎 克己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題(色彩、空間など)、表現内容の問題(象徴性、思想など)、社会的問題(展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など)等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

考古学概説 I (日本)

(前期) 大三輪 龍彦
(後期) 倉田 芳郎

日本考古学を中心に、考古学的思考とはどのようなものかを考え、学問の目的、意義について講義する。また後半では、歴史時代特に中世考古学における事例を紹介しながら歴史学との関係についても触れてみたい。

禅美術

海老根 聰郎

日本の中世時代(鎌倉、南北朝、室町時代)の絵画の流れを、画家を中心としてのべる。とりあげる画家は、黙庵、良全、周文、雪舟などである。(毎回スライドを使用する。)

考古学概説 II (外国)

飯島 武次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』

1985年(山川出版社) ¥7,000

飯島武次『中国新石器文化研究』

1991年(山川出版社) ¥11,000

美術史概説

中島 亮一

昨年度は日本の美術を古代(藤原京時代から平安時代末期まで)を中心にみて来た。それをうけ今年度は中世から近世の一部(鎌倉時代から江戸時代前期まで)に重点をおいて、スライドや文書

考古学特講 I

高浜 秀

ハンガリーから中国の北方オールドス地方に至るユーラシア北方草原地帯では、紀元前1000年紀に青銅器時代から初期鉄器時代へ移行すると共に、紀元前8～7世紀頃、スキタイ系騎馬遊牧民文化、あるいは初期遊牧民文化と総称される一連の文化が興った。今回の講義では、これらの文化を概観する。

考古学特講Ⅲ

飯 島 武 次

周文化の考古学研究。

宗教人類学

佐々木 宏 幹

アニミズム、アニマティズム、シャーマニズム、妖術、邪術、死霊・祖霊崇拜など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに、これら諸形態が、日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。スライドを用い具体的に進める。

〔参考書〕佐々木宏幹著『聖と呪力——日本宗教の人類学序説——』（青弓社）
¥2,060

日本民俗学

谷 口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

地 形 学 I

小 池 一 之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心にする。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント・スライド、ビデオを使ったわかりやすいものになりたい。（内容は最先端の知見を含む）

〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）¥4,532

仏教民俗学

和 田 謙 寿

集会や通夜・法事などに臨んだ際、必ず仏事などに関する質問を受けることがある。葬送習俗や靈魂に関する事柄、法名のつけ方や焼香の仕方、墓の建て方や年忌供養のしきたり、時には寺院の成立とその発展過程、野ぼとけの由来や伝説など、その質問の内容も色々である。このような時、相手に納得のつくような説明が出来たらさぞかし喜んでもらえる事であろう。このような時の心構えとして是非とも仏教民俗学の知識を身につけて置くことにしよう。住職をはじめ、郷土史や文化財の研究に従事しようとする者にとっては必須の学問であると言えよう。

〔教科書〕和田謙寿著『仏教の地域発展』（訂正版）（仏教民俗研究会発行）¥3,700

〔参考書〕和田謙寿著『仏教葬送習俗の研究』（仏教民俗研究会発行）¥2,300

地 質 学

貝 塚 爽 平

関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象 — たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁分布帯の形成 — についても講ずる。後期には教科書を使う予定。

V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

社会福祉原論

伊 藤 秀 一

本講では、受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることに留意しつつ、まず、社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで、社会福祉の生成過程、制度的なしくみ、各分野の現状に論及する。

さらに、社会福祉の今日的課題を講述し、一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕仲村優一著『社会福祉概論』
(誠信書房) ¥1,700

社会福祉原論

原 田 信 一

今日の社会福祉は、時代に即応し、個人のニーズに合致した福祉サービスの支援を要求している。そこには提供者と利用者(対象者)間における対人的・非貨幣的援助活動のもつ比重が著しく大きくなり、従来までのような物的・貨幣的救済を主とした、福祉問題の彌縫的・応急的対応では、最早、包摂できない状態にきている。

それらのことをふまえて、本講では時代要請に応える専門的原理の探究をおこないたい。

〔参考書〕1. 孝橋正一『全訂・社会事業の基本問題』(ミネルヴァ書房)
2. 岡村重夫『全訂・社会福祉学』(柴田書店)

老人福祉論

(前期) 東 條 光 雅
(後期) 中 野 いく子

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想され、老人福祉施策は近年流動的に変化している。わが国においては、約30年後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、現状改善という視点からだけでなく、長期的な展

望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では、老人福祉施策の歴史的変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔教科書〕冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編『老人福祉』第2版(海声社) ¥1,640

〔参考書〕三浦文夫編『図説 高齢者白書1991』(全社協) ¥2,700

厚生省大臣官房老人保健福祉部老人福祉課監修『老人福祉関係法令通知集 1991年度版』(老人福祉開発センター) ¥3,500

障害者福祉論

原 田 信 一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に溯りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識を基盤においた正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって惹起が予測される障害者問題発生メカニズムを究明すると同時に、また、その対応方法、さらに政策、処遇のあり方などに加え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たな課題構築点などに重点をおき講じたい。

〔教科書〕星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』〔改訂版〕(有斐閣)

〔参考書〕(1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』(高文堂)

(2)原田・吉田編『心身障害児(者)の心理・教育・福祉』(文化書房博文社)

児童福祉論

高 橋 重 宏

「児童福祉」が社会福祉の制度として成立している以上、それはただ単に子どもの幸せを願うというのではなく、子どもが権利主体であることを前提として、その権利を保障する社会の責任を

明確に打ち出すものでなければならない。なぜなら、制度としての児童福祉は、社会が子どもを保護・養育する責任を分担することによって展開してきたからである。

本講義では、主として児童福祉法と子どもの権利条約の考察を通して、児童福祉の基本理念と児童福祉制度の概要を明らかにする。

〔教科書〕高橋重宏編『児童福祉を考える』

(川島書店)

〔参考書〕開講時に指示する。

社会保障論

近藤 功

社会保障は、憲法第25条に規定する国民の生存権の保障のための重要な政策体系であり、国政において、優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について、欧米諸国を含め、歴史的発展過程、体系、財政、国際比較等を検討し、その問題点を明らかにする。

特に、わが国の社会保障について、その主要な部門としての所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当等）、医療保障（健康保険等）その他について、制度の現状及び課題を講じる。

〔参考書〕開講時に指示する。

公的扶助論

伊藤 秀一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

なお、テキスト等については開講時に指示する。

地域福祉論

永田 幹夫

今日における急速な社会福祉改革の方向を示すものとして1970年代以降に登場したのが現代的意

味での地域福祉論である。地域福祉の概念およびその支柱たる在宅福祉サービス提供システムの開発とその方法に関する基礎理論を実践動向に即して論究し、地域福祉の全容把握をはかりたい。

〔教科書・参考書〕永田幹夫著『地域福祉論』

(全国社会福祉協議会)

¥2,000

心理学(福祉)

井上 孝代

欧米諸国において、社会福祉実践の方法論として心理学が広汎に取り入れられているという現況に基づき、社会福祉にかかわる基礎科学として心理学の分野全般を講義する。

重点的な内容としては、①人間の心理学的理解における心理機能と基礎的概念、②人間の成長発達の様相と障害、③人間理解の学説および諸理論の実際、④心理学的援助の技術と実践など、社会福祉士の養成における指定科目である「心理学」で学ぶべき内容を整理する。

教科書の指定は特に行わないが、必要に応じて資料、参考プリントなどを用意する。

社会学(福祉)

山手 茂

社会福祉学の基礎科学としての社会学の概論を講義する。講義内容は、次のとおりである。

- I. 社会学と社会福祉学
- II. 現代社会と現代人の生活・意識
- III. 現代社会と科学技術
- IV. 現代社会と専門職
- V. 現代社会における家族
- VI. 現代社会における地域社会
- VII. 現代社会における社会問題
- VIII. 福祉社会の形成

〔教科書〕福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座・12・社会学』（中央法規出版）（新学年度までに改訂版が出版される予定、価格未定）

〔参考書〕山手 茂『社会問題と社会福祉—社会学・社会福祉学論集—』（亜紀書房）
¥2,800

法 学 (福祉)

小 林 弘 人

本講義は、教科書『社会福祉のための法入門』を使用して、憲法25条を具体化する社会福祉・社会保障に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。

その他、諸般のことからについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕小林弘人編著『社会福祉のための法入門』（川島書店）¥2,000

〔参考書〕小川政亮著『社会事業法制』（第2版）（ミネルヴァ書房）¥2,500

リハビリテーション論

原 田 信 一

リハビリテーション領域のなかで、学問的にいちじるしく遅れをみせているのが社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも現実的で、しかも難解な社会福祉問題を抱えていることが、いちじるしい遅滞をもたらす原因になっているといわれる。そこで、本講義はとくに、社会リハビリテーションの基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等につて概説したい。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕随時指示する。

社会福祉計画論

和 田 敏 明

地域福祉を基調とする社会福祉の転換が、地方分権化、社会福祉供給システムの多様化、責任主体の多元化を伴い進行している。こうした状況を踏まえ、社会福祉ニーズを社会福祉の組織運営に的確に反映し、福祉サービスを系統化・総合化したり、広く市民の社会福祉への参加を促すことをねらいに、社会福祉の計画化が要請されている。その内容は、処遇計画・社会資源の調達計画・社会計画のなかの社会福祉計画・行政計画・活動・行動計画等の社会福祉計画である。平成5年度から都道府県および市町村行政は「老人保健福祉計画」の策定が義務づけられた。講義では国・都道府県・市町村・小地域の各段階の計画や今日の焦

点である「地域福祉計画」「老人保健福祉計画」を中心に、その理論と方法及び具体的事例についての検討を行いたい。

社会福祉運営論

永 田 幹 夫

社会福祉サービスの普遍化に伴ってその規模は急速に拡大・複雑化し、社会福祉の運営管理を包括的にとらえるソーシャル・アドミニストレーションの研究が注目され、重視されてきている。本講ではその概念成立に至る歴史的経過、手法技術、現代的課題及びこれらに関連して社会福祉政策、行政を含む今日の社会福祉実践上の問題点に迫ってみたいと思う。

〔教科書〕改めて指示したい。

家族福祉論

田 村 健 二

現代の家族生活の状況を、社会との関係、および家族内の関係から明らかにし、そこでの問題と課題を考察してゆく。次いで、こうした問題と課題をもつ家族の機能をいかに支援してゆくか、主に現今の家族福祉にかかわる制度とサービスの側面、ならびに今後に要望される福祉機能の側面について、解明してゆく。個別化し孤独化しつつある現代にあって、全国民にわたる健全な在宅福祉は、家族生活に基盤がある。家族福祉が重視されるゆえんである。

〔教科書〕田村健二『家族—社会の鎖・夫婦親子の鎖—』（金子書房）¥2,000

〔参考書〕田村健二監修『老人と家族の相談ケース集』1, 2（誠信書房）¥各2,200

医療福祉論

春 見 静 子

現代の社会福祉は多くの領域で医療との関係をますます緊密なものとし、両者を分離することはできない。児童、障害、老人福祉施設の職員が処遇を行ううえで、医療スタッフとどのように協力していくか、また、病院、保健所、リハビリテーション施設等のソーシャルワーカーが社会福祉をいかに実践しているかを実例を踏まえて検証する。

教科書・参考書は授業時に指示する。

婦人福祉論

林 千代

私は、婦人問題の視点から婦人福祉論を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。その状況として、主に母子家庭になった時（父子家庭とも関連）、売買春の問題（性とは何か、婦人保護事業について）、女と老い（老後問題の中で）等が考えられる。どの場合も、女子労働との関連が深いので、主に女子労働をめぐるさまざまな問題を主軸において上記三者に焦点をあわせ講義する。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕随時紹介。

保健福祉論

安 梅 勅 江

急速な人口の高齢化や国際化、地方の時代といった社会構造の大きな節目と相まって、福祉に対するニーズは大きく変貌してきており、わが国の保健・医療・福祉の諸領域は、今や連携から統合化の時代へと推移しつつあると言える。

従って、本講義では、人間の生涯における身体的・精神的・社会的に健康で豊かな生活を維持する原理及び方法論の希求を目的とした保健福祉学の理念に基づき、健康を基軸に据えた真の生涯福祉のあり方について理論的な整理を行う。さらに、学際的学問領域としての保健福祉学の概念、歴史、方法論を踏まえ、保健福祉の実践に根ざした体系につき概説する。

〔教科書〕平山宗宏・高山忠雄監修 日本保健福祉学会編

『保健福祉学』（川島書店）

社会福祉発達史

林 千代

いつの時代にも、人々の生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思

想その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』

（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介。

海外社会福祉論

中 野 いく子

前半では、福祉国家を世界で最初に成立させたイギリスを中心に社会福祉・社会保障のアイデアとその政策・制度的変遷を講じることにする。

後半では、受講生の関心に基づいてグループを編成し、北欧やヨーロッパ大陸諸国、アジア諸国の社会福祉の政策・制度を研究・発表してもらうことにしたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕社会保障研究所編『イギリスの社会保障』『フランスの社会保障』『スウェーデンの社会保障』『西ドイツの社会保障』『アメリカの社会保障』（東大出版会）

